

鳥取県がん検診実績報告書

平成27年3月

鳥 取 県
鳥取県健康対策協議会

はじめに

厚生労働省が平成27年2月5日に開催した第11回「がん検診のあり方に関する検討会」において、がん検診に係る当面の議論すべき課題が提示されました。

胃がんと乳がん検診の検診項目を検討課題にあげており、乳がん検診では国のがん検診指針で推奨する視触診の扱い、胃がん検診では胃内視鏡検査を導入するかどうか争点となっています。

そのような中、2013年に国立がん研究センター濱島ちさと先生らが報告された鳥取県4市と新潟県との症例対照研究が、死亡率減少効果の科学的根拠となる論文の一つとして採用され、「有効性評価に基づく胃がん検診ガイドライン2014年度版」では、胃内視鏡検査が推奨グレードBとなり「対策型検診・任意型検診としての実施を推奨する」となりました。その一翼を当県のがん検診が担っていることは誇らしく思うところです。

また、乳がん検診においては、本県では視触診を行う一次検診医の確保が難しい現状もあり、視触診を外してマンモグラフィ単独法となるのか、視触診を外す場合に超音波検査がそれを補完するものになるのか、今後の動向が気になるところです。

また、各種がん検診の精度管理が重要であるにもかかわらず、近年増加傾向にある個別検診では、精度管理指標となるチェックリスト自体がまだ作成されておらず、精度管理が十分でない実態が明らかになってきました。

そこで国立がん研究センターでは、厚生労働省「がん検診のあり方に関する検討会」等への提案を前提に、個別検診用のチェックリスト案を新たに策定しました。この新チェックリスト案について、項目の適切性や運用上の問題点を検討するため、一部の地域から実際に回答を得るパイロット調査が実施されることとなり、昨年度、鳥取県健康対策協議会では、大腸がん検診及び肺がん検診について調査に協力いたしました。この調査結果から、個別検診の精度管理指標が確立されることにより、今後、更なる検診事業の質の向上を期待するものであります。

この他に、「がん検診のあり方に関する検討会」では、受診率の算定方法について、地域保健・健康増進事業報告でも「69歳まで」を対象に受診率を算定、公表することが了承され、25年度報告から適用されましたが、市区町村からは70歳以上に実施したがん検診の事業報告も従来通り求めることとしています。検討会は、平成27年8月を目途に報告書を取りまとめる予定で、厚労省は報告書の提言を踏まえ、がん検診指針を改正し、早ければ平成28年4月から適用する方針とのことです。それを受けて、今後、鳥取県においても検診体制の整備の検討を重ねてまいりたいと存じます。

本報告書は、平成25年度の検診実績を、例年どおりの集計方法でとりまとめています。ただし、受診率の算定方法の変更を受けて、「69歳まで」を対象に受診率、要精検率、精検受診率、がん発見率、陽性反応適中度の試算を行い、年齢上限なしの従来方式の実績と比較を行った一覧表を参考までに掲載しております。本誌が今後の事業展開のための指標となるよう願っております。

平成27年3月

鳥取県健康対策協議会

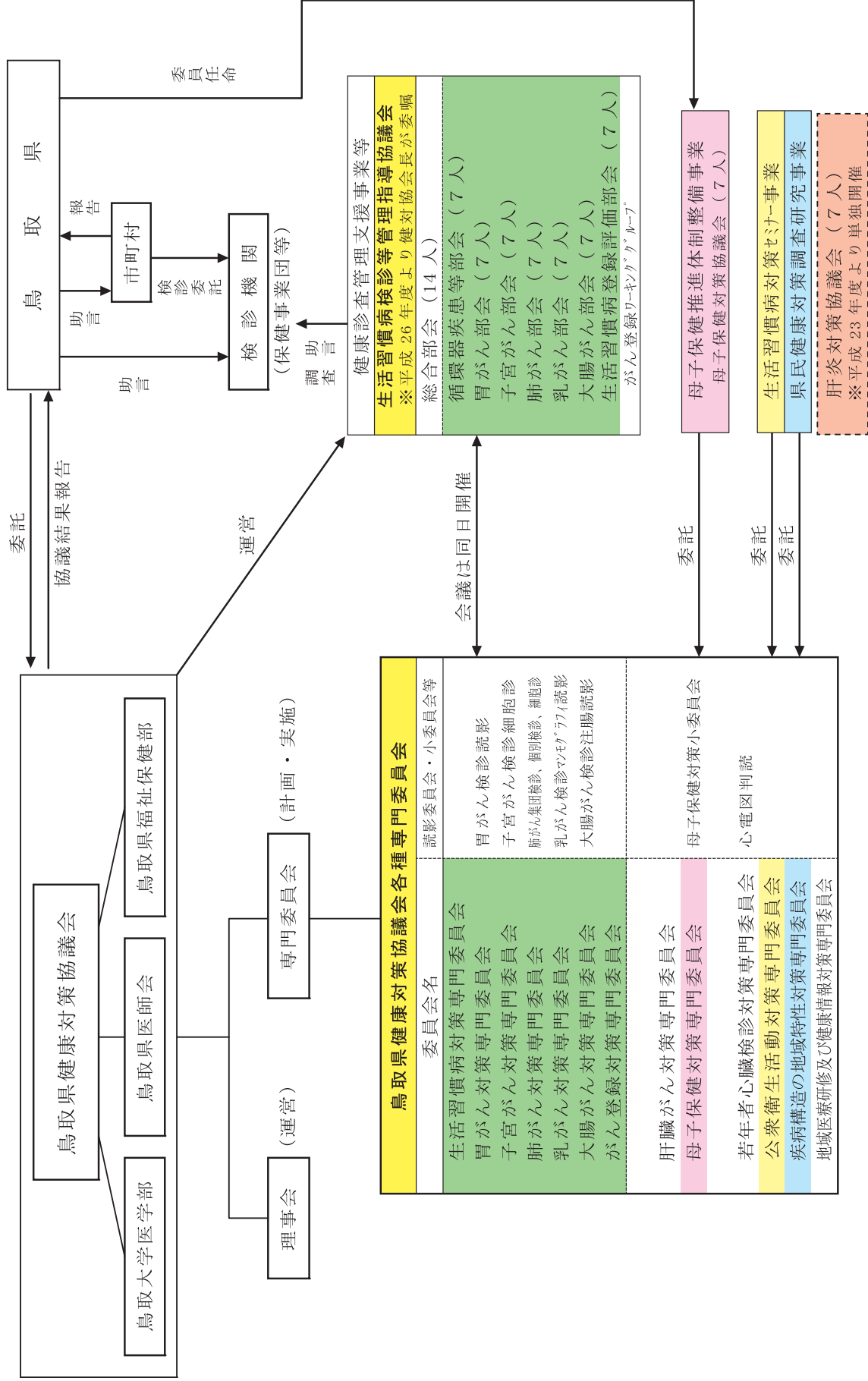
会長 魚谷 純

目 次

I. 鳥取県健康対策協議会の構成及び組織図	1
II. 平成25年度各がん検診事業実績	
1. 胃がん検診	4
2. 子宮がん検診	17
3. 肺がん検診	26
4. 乳がん検診	42
5. 大腸がん検診	50
6. 肝臓がん検診	60
7. 全国がん検診実績との比較	72
III. 平成26年度各がん検診従事者講習会及び症例研究会開催状況	
1. 胃がん検診症例研究会報告	78
2. 子宮がん検診症例研究会報告	80
3. 肺がん検診症例研究会報告	81
4. 乳がん検診症例研究会報告	84
5. 大腸がん検診症例研究会報告	86
6. 肝臓がん検診症例研究会報告	88
7. 各地区がん検診症例検討会開催状況	92
IV. 各がん検診精密検査医療機関登録について	93

I. 鳥取県健康対策協議会の構成及び組織図

(昭和46年1月26日発足)



Ⅱ. 平成25年度各がん検診事業実績

指 標 の 解 説

1. 対象者数：職域等で受診の機会がない者として各市町村が把握している人数

※1 対象者数については、平成20年度から全市町村共通で以下の算式により推計対象者数を算出することとしている。

40歳以上（子宮がん検診は20歳以上）・男女ごとに、以下の計算式で算出した人数を「推計対象者数」とする。

各係数は直近の国勢調査において報告された人数を用いる。

$$\boxed{\text{推計}} \quad \boxed{\text{対象者数}} = \boxed{\text{市区町村}} \quad \boxed{\text{人口}} - \left(\boxed{\text{就業者数}} - \boxed{\text{農林水産業}} \quad \boxed{\text{従業者数}} \right)$$

（「市町村がん検診事業の充実強化について」平成21年3月厚生労働省総務

胃、肺、大腸がん検診：40歳以上

乳がん検診：平成17年度より対象者は40歳以上。（同一人の隔年検診）

子宮がん検診：平成17年度より対象者は20歳以上。

肝炎ウイルス検査：以下に該当する者を対象者とする。

- (1) 節目検診：健康増進法に基づく事業の健康診査の対象者のうち、40歳の者
- (2) 節目外検診：上記以外の健康増進法に基づく事業の健康診査の対象者のうち、①基本健康診査で肝機能（GPT値）により要指導と診断された者。②平成14年～平成18年度までの本事業からに基づく肝炎ウイルス検査の対象者であって、受診の機会を逸した者。

2. 受診者数：検診を受診した人数

3. 受診率：がん検診の対象者のうち、実際の受診者の割合

4. 要精検者数：一次検診の結果、精密検査が必要と診断された人数

5. 要精検率：がん検診受診者のうち、精密検査が必要とされた者の割合

6. 精検受診者数：精密検査が必要と診断された者のうち、精密検査を受診した人数

7. 精検受診率：精密検査が必要な者のうち、精密検査を受けた者の割合

8. がん、がん疑いの人数：精密検査の結果、がん、がん疑いと診断された人数

子宮がん検診の場合、異形成と子宮内膜増殖症はがん疑いとして集計します。

9. がん発見率：がん検診受診者のうち、がんとされた者の割合

10. 陽性反応適中度：要精密検査者のうち、がんとされた者の割合

11. 確定癌数：精密検査の結果、がん、がん疑いと診断された者について、鳥取県健康対策協議会において確定調査を行った結果、「癌」であった者の人数

12. 確定癌率：がん検診受診者のうち、確定調査の結果、癌であった者の割合

1. 胃 がん 検 診

1. 胃がん検診実績

平成25年度の対象者数（40歳以上のうち職域等で受診の機会がない者として厚生労働省が示す算式により算定した推計値）は190,556人のうち、受診者数はX線検査14,303人、内視鏡検査は33,564人で合計47,867人、受診率は25.1%で前年度より905人、0.5ポイント増加した。

受診者数全体のうち、内視鏡検査の実施割合は70.1%で、年々増加している。

検査の結果、胃がんであった者は171人発見され（X線検査27人、内視鏡検査144人）、がん発見率は0.36%であった。平成24年度全国平均がん発見率0.17%に比べ高い。例年と同様な傾向である。

X線検査でのがん発見率は0.19%に対し、内視鏡検査でのがん発見率は0.43%である。

陽性反応適中度（がん/要精検査者）はX線検査2.2%である。また、内視鏡検査の陽性反応適中度はがんを組織診実施者数で割った率で求めたところ8.8%であった。

確定調査の結果、確定癌は175例、発見癌率は0.37%であった。

(1) X線検査は19市町村で実施され、受診者数は14,303人で、受診率は7.5%である。一次検診の要精検査者は1,220人で、要精検査率は8.5%で、前年度より0.7ポイント減少した。精検受診者数996人、精検受診率は81.6%で前年度より1.9ポイント減少した。車検診の要精検査率7.8%。施設検診は11.5%で、依然として中部が23.3%と高い。

精検結果は、胃がんであった者は27人で、胃がん発見率は0.19%であった。

国はプロセス指標として、要精検査率許容値11.0%以下、精密検査受診率目標値90%以上、がん発見率許容値0.11%以上、陽性反応適中度許容値1.0%以上を指標としているが、鳥取県は精検受診率以外は指標をクリアしており、精度の高い検診がおこなわれている。ただし、施設検診におけるX線検査では要精検査率が高く、また、よりきれいな写真を撮る技術指導が必要である。

(2) 内視鏡検査は、15市町村で実施され、受診者数は33,564人で、検査結果は胃がんであった者は144人が発見され、発見率は0.43%であった。

内視鏡検査の組織診実施者数は1,632人で、組織診実施率4.9%、東部5.8%、中部6.4%、西部3.5%で地域格差がある。また、陽性反応適中度（がん/組織診実施者数）は8.8%で、東部7.0%、中部8.2%、西部12.1%であった。西部の組織実施率は3.5%と低いが、陽性反応適中度は12.1%と高かった。

〈検診方法別結果〉

区 分	市町村数		受診者数（率）	がん	がん発見率（%）
	実 施	未実施			
X 線 検 診	19	0	14,303 (29.9%)	27	0.189
内視鏡検診	15	4	33,564 (70.1%)	144	0.429
計			47,867 (100%)	171	0.357

〈検診機関別結果〉

(1) X線検診

・一次検診

区 分	受診者数 (率)	要精検者数	要精検率 (%)			
			計	東部	中部	西部
車 検 診 (保健事業団・中国労働衛生協会)	11,652 (81.5%)	914	7.8	8.3	9.0	6.1
施 設 検 診 (病院・診療所)	2,651 (18.5%)	306	11.5	12.4	23.3	9.4
計	14,303 (100%)	1,220	8.5	9.4	9.2	6.8

・精密検査

区 分	精 検 受診者数	精検受診 率 (%)	がん	がん発見率 (%)			
				計	東部	中部	西部
車 検 診	742	81.2	19	0.163	0.233	0.158	0.084
施 設 検 診	254	83.0	8	0.302	0.188	0.000	0.501
計	996	81.6	27	0.189	0.221	0.155	0.176

(2) 内視鏡検診

区 分	受診者数	組 織 診 実 施 者	がん	がん発見率 (%)			
				計	東部	中部	西部
病 院	8,588	470	32	0.373	0.421	0.352	0.257
診 療 所	24,976	1,162	112	0.448	0.399	0.590	0.443
計	33,564	1,632	144	0.429	0.407	0.522	0.418

〈圏域別結果〉

(1) X線検診

区 分	受診者数	要精検者数	要精検率	精検受診者数	精検受診率	がん	がん発見率
東 部	5,887	554	9.4	468	84.5	13	0.221
中 部	3,861	355	9.2	280	78.9	6	0.155
西 部	4,555	311	6.8	248	79.7	8	0.176
計	14,303	1,220	8.5	996	81.6	27	0.189

(2) 内視鏡検診

区 分	受診者数	組織診実施者	実施率	がん	がん発見率	適中度
東 部	14,003	811	5.8	57	0.407	7.0
中 部	4,978	317	6.4	26	0.522	8.2
西 部	14,583	504	3.5	61	0.418	12.1
計	33,564	1,632	4.9	144	0.429	8.8

2. 胃がん検診発見胃がん確定調査結果

平成25年度に発見された胃がん及び胃がん疑い225例について確定調査を行った結果、確定胃がんは175例（一次検査がX線検査：車検診21例、施設検診8例、一次検査が内視鏡検査：146例）であった。よって、確定調査により胃がんが4例増えた。発見癌率は0.368%であった。

調査結果は以下のとおりである。

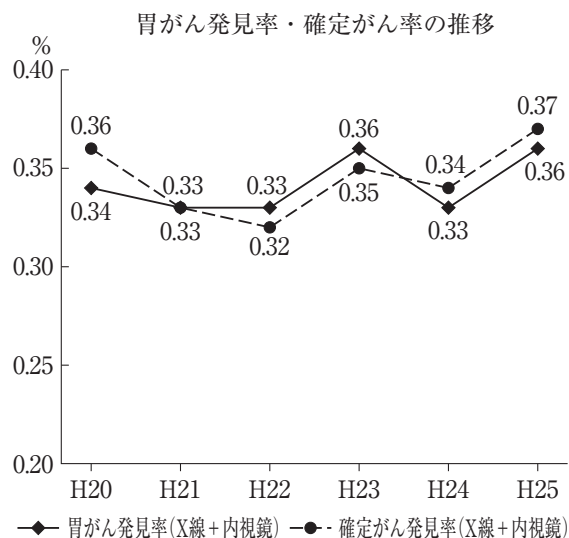
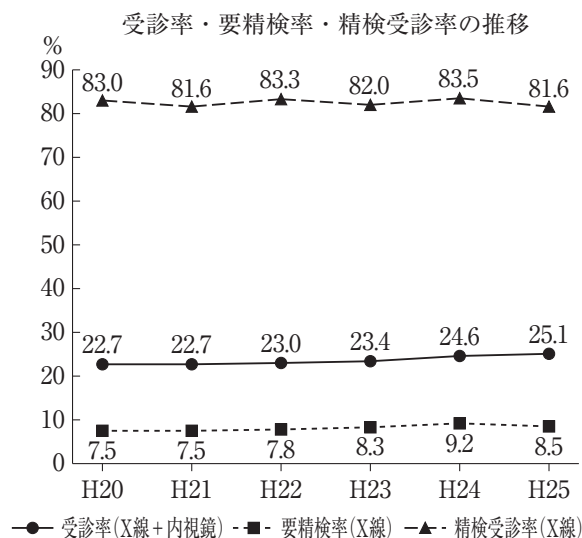
- (1) 早期癌は146例、進行癌は29例であった。早期癌率は83.4%で前年度より4.9ポイント増加し、東部88.6%、中部85.3%、西部77.5%であった。
- (2) 切除例は166例で、そのうち内視鏡切除が64例で全体の約4割を占めている。非切除例が9例で、手術拒否4例、手術不能5例であった。
- (3) 性・年齢別では、男性114例、女性61例であった。60～79歳代で全体の約7割を占めている。
- (4) 早期癌では「IIc」が63.3%で大半を占めている。進行癌では「2」「3」が69%を占めている。また、分類不能の「5」は5例あった。
- (5) 切除例の大きさは2cm以内が43.6%であった。内視鏡検査では44.5%で、小さいものが見つかっている。
- (6) 早期癌の占拠部位では内視鏡検査で小弯が多くなっている。
- (7) 肉眼での進行度は、X線検査ではstage I Aが20例で71.4%、内視鏡検査ではstage I Aが112例で79.43%であった。
- (8) 前年度受診歴を有する進行癌は、東部2件、中部1例、西部4件の計7件で、前年度に比べ少なかった。各地区で症例検討を行って頂き、問題点等について検討して頂く。

(1) 胃がん検診の受診者数及び受診率の推移

区 分		20 年 度			21 年 度			22 年 度		
		X線	内視鏡	計	X線	内視鏡	計	X線	内視鏡	計
一次検診	対 象 者 数(人) A			188,186			188,186			188,186
	受 診 者 数(人) B	18,099	24,700	42,799	17,352	25,449	42,801	16,082	27,214	43,296
	受 診 率(%) C = B/A	9.6	13.1	22.7	9.2	13.5	22.7	8.5	14.5	23.0
一次検診結果	異 常 認 め ず(人) D	16,736			16,052			14,823		
	要 精 検 者 数(人) E	1,363			1,300			1,259		
	要 精 検 率(%) F = E/B 指標:許容値1.0%以下	7.5			7.5			7.8		
精密検査	精 検 受 診 者 数(人) G	1,131			1,061			1,049		
	精 検 受 診 率(%) H = G/E 指標:目標値90%以上	83.0			81.6			83.3		
精密検査結果	胃 がん の 者(人) I	31(5)	113(44)	144(49)	29(6)	114(35)	143(41)	23(2)	119(35)	142(37)
	胃 がん 発 見 率(%) J = I/B 指標:許容値0.11%以上	0.17	0.46	0.34	0.17	0.45	0.33	0.14	0.44	0.33
	陽 性 反 応 適 中 度(%) K = I/E 指標:許容値1.0%以上	2.3			2.2			1.8		
確定調査結果	確 定 がん 数(人) L	31	122	153	28	113	141	22	116	138
	確 定 がん 率(%) M = L/B	0.17	0.49	0.36	0.16	0.44	0.33	0.14	0.43	0.32

区 分		23 年 度			24 年 度			25 年 度		
		X線	内視鏡	計	X線	内視鏡	計	X線	内視鏡	計
一次検診	対 象 者 数(人) A			190,556			190,556			190,556
	受 診 者 数(人) B	15,080	29,435	44,515	15,251	31,711	46,962	14,303	33,564	47,867
	受 診 率(%) C = B/A	7.9	15.4	23.4	8.0	16.6	24.6	7.5	17.6	25.1
一次検診結果	異 常 認 め ず(人) D	13,833			13,855			13,083		
	要 精 検 者 数(人) E	1,247			1,396			1,220		
	要 精 検 率(%) F = E/B 指標:許容値1.0%以下	8.3			9.2			8.5		
精密検査	精 検 受 診 者 数(人) G	1,022			1,166			996		
	精 検 受 診 率(%) H = G/E 指標:目標値90%以上	82.0			83.5			81.6		
精密検査結果	胃 がん の 者(人) I	24(5)	135(50)	159(55)	33(0)	124(78)	157(78)	27(5)	144(55)	171(60)
	胃 がん 発 見 率(%) J = I/B 指標:許容値0.11%以上	0.16	0.46	0.36	0.22	0.39	0.33	0.19	0.43	0.36
	陽 性 反 応 適 中 度(%) K = I/E 指標:許容値1.0%以上	1.9			2.4			2.2		
確定調査結果	確 定 がん 数(人) L	24	133	157	30	128	158	29	146	175
	確 定 がん 率(%) M = L/B	0.16	0.45	0.35	0.20	0.40	0.34	0.20	0.43	0.37

- ※1 精密検査結果欄の()内の数値は「がん疑いの者」の数を外数で計上
- ※2 がん発見率及び陽性反応適中度は、平成18年度報告から「がん」の者のみを計上
- ※3 陽性反応適中度は、要精検者を分母として算出。
- ※4 確定がん数は、検診により発見された「がん」又は「がん疑い」の者を調査により計上



(2) 平成25年度胃がんX線検査結果

1) 一次検診結果 (年齢階級別)

年 齢	対象者数 (人)		一次検診 受診者数(人)		受診率 (%)			一次検診結果				要精検率 (%)		
	a		b		c = b / a			要精検者数 d		異常認めず		e = d / b		
	男	女	男	女	男	女	計	男	女	男	女	男	女	計
40～44歳	2,158	4,048	294	535	13.6	13.2	13.4	18	18	276	517	6.1	3.4	4.3
45～49歳	2,326	3,853	220	491	9.5	12.7	11.5	10	21	210	470	4.5	4.3	4.4
50～54歳	3,058	4,974	258	661	8.4	13.3	11.4	13	26	245	635	5.0	3.9	4.2
55～59歳	4,908	8,189	434	866	8.8	10.6	9.9	46	44	388	822	10.6	5.1	6.9
60～64歳	9,854	13,797	968	1,566	9.8	11.4	10.7	107	123	861	1,443	11.1	7.9	9.1
65～69歳	11,061	14,574	1,150	1,530	10.4	10.5	10.5	139	129	1,011	1,401	12.1	8.4	10.0
70～74歳	11,588	16,049	966	1,319	8.3	8.2	8.3	120	79	846	1,240	12.4	6.0	8.7
75～79歳	11,797	17,672	769	1,040	6.5	5.9	6.1	101	105	668	935	13.1	10.1	11.4
80歳以上	15,558	35,092	590	646	3.8	1.8	2.4	54	67	536	579	9.2	10.4	9.8
計	72,308	118,248	5,649	8,654	7.8	7.3	7.5	608	612	5,041	8,042	10.8	7.1	8.5
合計	190,556		14,303		7.5			1,220		13,083		8.5		

2) 精密検査結果 (年齢階級別)

年 齢	精密検査 受診者数(人)		精密検査 受診率 (%)			精密検査結果								胃がん発見率 (%)			陽性反応適中度(%)		
	f		g = f / d			異 常 認 め ず		その他の 疾 病		胃がん 疑 い		胃がん h		i = h / b			j = h / d		
	男	女	男	女	計	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女	計
40～44歳	12	13	66.7	72.2	69.4	2	5	10	8	0	0	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
45～49歳	4	19	40.0	90.5	74.2	0	3	4	16	0	0	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
50～54歳	9	21	69.2	80.8	76.9	2	2	7	19	0	0	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
55～59歳	36	38	78.3	86.4	82.2	11	9	24	28	0	0	1	1	0.230	0.115	0.154	2.2	2.3	2.2
60～64歳	68	104	63.6	84.6	74.8	11	17	56	85	1	0	0	2	0.000	0.128	0.079	0.0	1.6	0.9
65～69歳	108	116	77.7	89.9	83.6	7	21	94	89	1	0	6	6	0.522	0.392	0.448	4.3	4.7	4.5
70～74歳	95	74	79.2	93.7	84.9	12	12	81	61	1	0	1	1	0.104	0.076	0.088	0.8	1.3	1.0
75～79歳	88	91	87.1	86.7	86.9	7	21	74	69	2	0	5	1	0.650	0.096	0.332	5.0	1.0	2.9
80歳以上	44	56	81.5	83.6	82.6	19	12	22	44	0	0	3	0	0.508	0.000	0.243	5.6	0.0	2.5
計	464	532	76.3	86.9	81.6	71	102	372	419	5	0	16	11	0.283	0.127	0.189	2.6	1.8	2.2
合 計	996		81.6			173		791		5		27		0.189			2.2		

3) 検診機関別

a. 一次検診結果

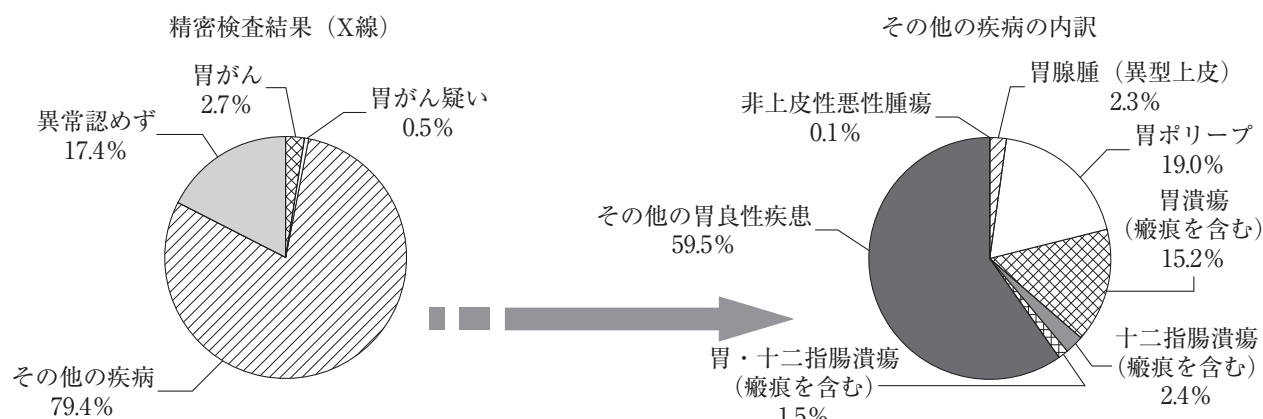
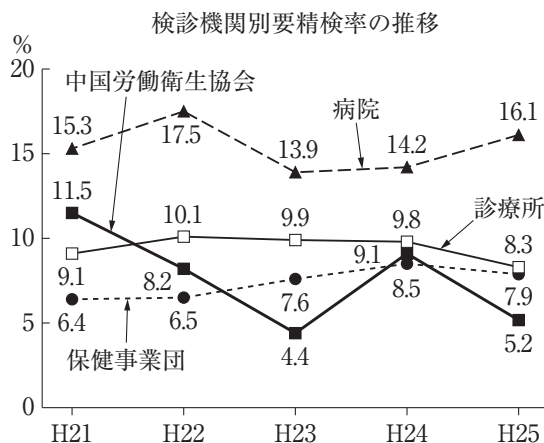
一次検診機関	一次検診 受診者数 (人)		一次検診結果				要精検率 (%)		
	a'		要精検者数 b'		異常認めず		c' = b' / a'		
	男	女	男	女	男	女	男	女	計
保 健 事 業 団	4,439	6,923	453	446	3,986	6,477	10.2	6.4	7.9
中国労働衛生協会	130	160	9	6	121	154	6.9	3.8	5.2
病 院	437	660	88	89	349	571	20.1	13.5	16.1
診 療 所	643	911	58	71	585	840	9.0	7.8	8.3
計	5,649	8,654	608	612	5,041	8,042	10.8	7.1	8.5
合 計	14,303		1,220		13,083		8.5		

b. 精密検査結果

一次検診機関	精密検査受診者数(人)		精密検査受診率(%)			精密検査結果								胃がん発見率(%)			陽性反応適中度(%)		
	d'		e' = d'/b'			異 常 不 認 め ず		その 他 の 疾 病		胃 が ん 疑 い		胃 が ん		g' = f'/a'			h' = f'/b'		
	男	女	男	女	計	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女	計
保健事業団	341	388	75.3	87.0	81.1	56	80	270	299	5	0	10	9	0.225	0.130	0.167	2.2	2.0	2.1
中国労働衛生協会	8	5	88.9	83.3	86.7	4	2	4	3	0	0	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
車検診小計	349	393	75.5	87.3	81.4	60	82	274	302	5	0	10	9	0.219	0.127	0.163	2.2	2.0	2.1
病院	69	78	78.4	87.6	83.1	5	10	60	68	0	0	4	0	0.915	0.000	0.365	4.5	0.0	2.3
診療所	46	61	79.3	85.9	82.9	6	10	38	49	0	0	2	2	0.311	0.220	0.257	3.4	2.8	3.1
施設検診小計	115	139	78.2	86.9	83.0	11	20	98	117	0	0	6	2	0.555	0.127	0.301	4.1	1.3	2.6
計	464	532	76.3	86.9	81.6	71	102	372	419	5	0	16	11	0.283	0.127	0.189	2.6	1.8	2.2
合計	996		81.6			173		791		5		27		0.189			2.2		

・ 検診機関別要精検率の推移

一次検診機関	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
保健事業団	6.4	6.5	7.6	8.5	7.9
中国労働衛生協会	11.5	8.2	4.4	9.1	5.2
車検診小計	6.5	6.5	7.6	8.6	7.8
病院	15.3	17.5	13.9	14.2	16.1
診療所	9.1	10.1	9.9	9.8	8.3
施設検診小計	10.7	12.3	11.1	11.5	11.5
合計	7.5	7.8	8.3	9.2	8.5



4) 平成25年度胃がんX線検診受診状況

市町村名	対象者数 (人)				受診者数			要精検者数				精密検査結果別人員							
	A	B	C	計	施設検診	車検診	受診率 (%) E = D/A	F	G	計	要精検率 (%) I = H/D	J	K = J/H	L	M	N	O	P = M+N+O	がん発見 率(%) Q = O/D
鳥取市	57,433	2,057	1,400	3,457	6.0	156	169	325	9.4	271	83.4	25	236	3	7	246	0.202	2.2	
米子市	42,442	716	830	1,546	3.6	43	76	119	7.7	104	87.4	16	84	0	4	88	0.259	3.4	
倉吉市	17,700	1,110	47	1,157	6.5	93	11	104	9.0	82	78.8	15	66	1	0	67	0.000	0.0	
境港市	11,307	91	139	230	2.0	0	15	15	6.5	15	100.0	6	7	0	2	9	0.870	13.3	
岩美町	4,844	564	0	564	11.6	57	0	57	10.1	54	94.7	3	50	0	1	51	0.177	1.8	
八頭町	6,534	1,273	52	1,325	20.3	112	12	124	9.4	103	83.1	14	85	0	4	89	0.302	3.2	
若桜町	1,776	237	8	245	13.8	18	0	18	7.3	13	72.2	3	10	0	0	10	0.000	0.0	
智頭町	3,263	164	132	296	9.1	13	17	30	10.1	27	90.0	3	23	0	1	24	0.338	3.3	
湯梨浜町	5,964	636	1	637	10.7	81	0	81	12.7	68	84.0	16	50	0	2	52	0.314	2.5	
三朝町	2,767	419	0	419	15.1	37	0	37	8.8	29	78.4	6	21	0	2	23	0.477	5.4	
北栄町	5,729	720	10	730	12.7	62	2	64	8.8	53	82.8	13	38	0	2	40	0.274	3.1	
琴浦町	7,221	916	2	918	12.7	68	1	69	7.5	48	69.6	15	33	0	0	33	0.000	0.0	
南部町	4,221	371	30	401	9.5	29	3	32	8.0	14	43.8	6	8	0	0	8	0.000	0.0	
伯耆町	4,533	690	0	690	15.2	39	0	39	5.7	24	61.5	11	13	0	0	13	0.000	0.0	
日吉津村	995	200	0	200	20.1	8	0	8	4.0	5	62.5	0	5	0	0	5	0.000	0.0	
大山町	7,503	559	0	559	7.5	48	0	48	8.6	43	89.6	10	31	1	1	33	0.179	2.1	
日南町	2,966	389	0	389	13.1	18	0	18	4.6	15	83.3	2	13	0	0	13	0.000	0.0	
日野町	1,783	315	0	315	17.7	17	0	17	5.4	15	88.2	3	11	0	1	12	0.317	5.9	
江府町	1,575	225	0	225	14.3	15	0	15	6.7	13	86.7	6	7	0	0	7	0.000	0.0	
合計	190,556	11,652	2,651	14,303	7.5	914	306	1,220	8.5	996	81.6	173	791	5	27	823	0.189	2.2	
東部	73,850	4,295	1,592	5,887	8.0	356	198	554	9.4	468	84.5	48	404	3	13	420	0.221	2.3	
中部	39,381	3,801	60	3,861	9.8	341	14	355	9.2	280	78.9	65	208	1	6	215	0.155	1.7	
西部	77,325	3,556	999	4,555	5.9	217	94	311	6.8	248	79.7	60	179	1	8	188	0.176	2.6	

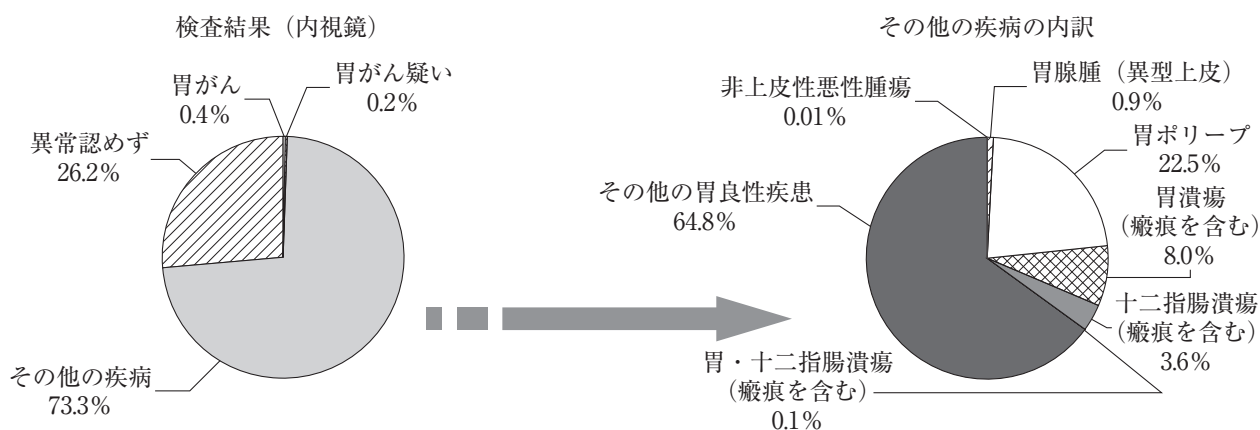
(3) 平成25年度胃がん内視鏡検診

1) 年齢階級別

年 齢	一次検診 受診者数(人) a		検 査 結 果								胃がん発見率 (%) c = b / a		
			異常認めず		その他の疾病		胃がん疑い		胃 が ん b				
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
40～44歳	352	661	150	307	202	354	0	0	0	0	0.000	0.000	0.000
45～49歳	305	730	91	264	212	465	1	1	1	0	0.328	0.000	0.097
50～54歳	422	967	128	323	294	640	0	1	0	3	0.000	0.310	0.216
55～59歳	709	1,436	199	458	503	971	3	3	4	4	0.564	0.279	0.373
60～64歳	1,843	2,882	443	796	1,385	2,072	7	4	8	10	0.434	0.347	0.381
65～69歳	2,793	3,785	659	1,040	2,102	2,734	10	3	22	8	0.788	0.211	0.456
70～74歳	2,770	3,796	569	1,009	2,181	2,775	4	5	16	7	0.578	0.184	0.350
75～79歳	2,045	3,079	461	775	1,562	2,297	5	1	17	6	0.831	0.195	0.449
80歳以上	2,016	2,973	387	720	1,599	2,238	4	3	26	12	1.290	0.404	0.762
計	13,255	20,309	3,087	5,692	10,040	14,546	34	21	94	50	0.709	0.246	0.429
合 計	33,564		8,779		24,586		55		144		0.429		

2) 検診機関別

一次検診機関	一次検診 受診者数(人) a'		検 査 結 果								胃がん発見率 (%) c' = b' / a'		
			異常認めず		その他の疾病		胃がん疑い		胃がん b'				
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
病 院	3,546	5,042	739	1,149	2,771	3,875	14	8	22	10	0.620	0.198	0.373
診療所	9,709	15,267	2,348	4,543	7,269	10,671	20	13	72	40	0.742	0.262	0.448
計	13,255	20,309	3,087	5,692	10,040	14,546	34	21	94	50	0.709	0.246	0.429
合計	33,564		8,779		24,586		55		144		0.429		



3) 平成25年度胃がん内視鏡検診受診状況

市町村名	検 査 結 果 別 人 員									
	受診者数 A	組織診 実施者数 B	組織診 実施率 (%) C = B/A	異 常 認めず D	その他 の疾病 E	がん疑い F	がん G	有所見者 H = E + F + G	がん発見率 (%) I = G/A	陽性反応 適中度 (%) J = G/B
鳥取市	12,196	704	5.8	2,022	10,099	24	51	10,174	0.418	7.2
米子市	10,618	316	3.0	2,913	7,652	6	47	7,705	0.443	14.9
倉吉市	1,722	109	6.3	1,088	622	5	7	634	0.407	6.4
境港市	2,252	97	4.3	405	1,840	0	7	1,847	0.311	7.2
岩美町	271	15	5.5	6	263	0	2	265	0.738	13.3
八頭町	827	50	6.0	110	713	1	3	717	0.363	6.0
若桜町	231	8	3.5	36	195	0	0	195	0.000	0.0
智頭町	478	34	7.1	32	443	2	1	446	0.209	2.9
湯梨浜町	933	89	9.5	613	308	5	7	320	0.750	7.9
三朝町	193	5	2.6	102	91	0	0	91	0.000	0.0
北栄町	814	55	6.8	445	360	5	4	369	0.491	7.3
琴浦町	1,316	59	4.5	585	722	1	8	731	0.608	13.6
南部町	1,231	67	5.4	292	930	6	3	939	0.244	4.5
伯耆町	244	9	3.7	37	207	0	0	207	0.000	0.0
日吉津村	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000	0.0
大山町	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000	0.0
日南町	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000	0.0
日野町	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000	0.0
江府町	238	15	6.3	93	141	0	4	145	1.681	26.7
合 計	33,564	1,632	4.9	8,779	24,586	55	144	24,785	0.429	8.8
東 部	14,003	811	5.8	2,206	11,713	27	57	11,797	0.407	7.0
中 部	4,978	317	6.4	2,833	2,103	16	26	2,145	0.522	8.2
西 部	14,583	504	3.5	3,740	10,770	12	61	10,843	0.418	12.1

(4) 平成25年度胃がん検診受診状況 (X線+内視鏡)

市町村名	対象者数 A	受診者数				X線精密検査結果+内視鏡検査結果					
		X線 受診者 B	内視鏡 受診者 C	計 D=B+C	受診率 E=D/A	異常 認めず F	その他 疾病 G	が ん 疑 い H	が ん I	有 所 見 者 J=G+H+I	がん発見率 (%) K = I / D
鳥取市	57,433	3,457	12,196	15,653	27.3	2,047	10,335	27	58	10,420	0.371
米子市	42,442	1,546	10,618	12,164	28.7	2,929	7,736	6	51	7,793	0.419
倉吉市	17,700	1,157	1,722	2,879	16.3	1,103	688	6	7	701	0.243
境港市	11,307	230	2,252	2,482	22.0	411	1,847	0	9	1,856	0.363
岩美町	4,844	564	271	835	17.2	9	313	0	3	316	0.359
八頭町	6,534	1,325	827	2,152	32.9	124	798	1	7	806	0.325
若桜町	1,776	245	231	476	26.8	39	205	0	0	205	0.000
智頭町	3,263	296	478	774	23.7	35	466	2	2	470	0.258
湯梨浜町	5,964	637	933	1,570	26.3	629	358	5	9	372	0.573
三朝町	2,767	419	193	612	22.1	108	112	0	2	114	0.327
北栄町	5,729	730	814	1,544	27.0	458	398	5	6	409	0.389
琴浦町	7,221	918	1,316	2,234	30.9	600	755	1	8	764	0.358
南部町	4,221	401	1,231	1,632	38.7	298	938	6	3	947	0.184
伯耆町	4,533	690	244	934	20.6	48	220	0	0	220	0.000
日吉津村	995	200	0	200	20.1	0	5	0	0	5	0.000
大山町	7,503	559	0	559	7.5	10	31	1	1	33	0.179
日南町	2,966	389	0	389	13.1	2	13	0	0	13	0.000
日野町	1,783	315	0	315	17.7	3	11	0	1	12	0.317
江府町	1,575	225	238	463	29.4	99	148	0	4	152	0.864
合計	190,556	14,303	33,564	47,867	25.1	8,952	25,377	60	171	25,608	0.357
東部	73,850	5,887	14,003	19,890	26.9	2,254	12,117	30	70	12,217	0.352
中部	39,381	3,861	4,978	8,839	22.4	2,898	2,311	17	32	2,360	0.362
西部	77,325	4,555	14,583	19,138	24.8	3,800	10,949	13	69	11,031	0.361

(5) 平成25年度胃がん検診発見患者確定調査結果について

表1 報告胃癌追跡調査

	東 部			中 部			西 部			計
	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	
確 定 胃 癌 数	12	3	55	6	0	28	3	5	63	175
癌 発 見 率 %	0.279	0.188	0.393	0.158	0.000	0.562	0.084	0.499	0.443	
	70 0.352			34 0.385			71 0.378			0.368
早 期 癌 数	11	3	48	5	0	24	1	4	50	146
早 期 癌 率 %		62 88.6			29 85.3			55 77.5		
進 行 癌 数	1	0	7	1	0	4	2	1	13	29
切 除 例	12	3	52	6	0	28	2	5	58	166
内 視 鏡 切 除 例	6	2	26	2	0	9	1	0	18	64
非 切 除 例	0	0	3	0	0	0	1	0	5	9

手術拒否：4 手術不能：5

表2 性・年齢別

	40～49	50～59	60～69	70～79	80～	計
男	1	5	36	44	28	114
女	0	8	25	17	11	61

表3 早期癌の肉眼分類

	東 部			中 部			西 部			計	
	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	車検診	施設検診	内視鏡 検 診		
I	0	0	0	0	0	0	1	0	4	5	3.3%
IIa	0	0	10	0	0	2	1	1	6	20	13.3%
IIc	8	2	29	3	0	15	3	3	32	95	63.3%
IIc+III	1	0	0	0	0	0	0	0	1	2	1.3%
IIa+IIc	1	0	8	1	0	4	0	0	4	18	12.0%
そ の 他	1	1	1	1	0	3	0	0	2	9	6.0%
不 明	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0.7%
計	11	3	48	5	0	24	5	4	50		150

表4 進行癌の肉眼分類

	東 部			中 部			西 部			計	
	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	車検診	施設検診	内視鏡 検 診		
1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
2	1	0	1	1	0	2	0	0	7	12	41.4%
3	0	0	3	0	0	2	0	1	2	8	27.6%
4	0	0	1	0	0	0	1	0	0	2	6.9%
5	0	0	2	0	0	0	0	0	3	5	17.2%
不 明	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2	6.9%
計	1	0	7	1	0	4	2	1	13		29

表5 切除例の深達度

	東 部			中 部			西 部			計
	車検診	施設検診	内視鏡検診	車検診	施設検診	内視鏡検診	車検診	施設検診	内視鏡検診	
t1a	7	2	28	2	0	15	1	0	35	90
t1b	2	1	17	3	0	10	0	3	11	47
t2	1	0	4	1	0	2	0	1	6	15
t3	2	0	2	0	0	1	1	1	5	12
t4a	0	0	3	0	0	0	0	0	1	4
t4b	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
計	12	3	55	6	0	28	2	5	58	169
不 明	0	0	0	0	0	0	1	0	5	6

表6 切除例の大きさ

mm	～ 10	11 ～ 20	小計 (%)		21 ～ 50	51 ～	計	不 明
車	5	4	9	45.0%	8	3	20	1
施	0	2	2	25.0%	5	1	8	0
内	19	42	61	44.5%	63	13	137	9
計	24	48	72	43.6%	76	17	165	10

表7-1 早期癌の占拠部位

	車 検 診	施 設 検 診	内視鏡検診
U	2	1	21
M	8	4	59
L	7	2	43
全 体	0	0	0
計	17	7	123
不 明	0	0	0

	車 検 診	施 設 検 診	内視鏡検診
小 弯	4	1	46
大 弯	1	2	15
前 壁	5	2	30
後 壁	7	2	31
全 周	0	0	0
計	17	7	122
不 明	0	0	1

表7-2 進行癌の占拠部位

	車 検 診	施 設 検 診	内視鏡検診
U	1	1	8
M	3	0	7
L	0	0	6
全 体	0	0	0
計	4	1	21
不 明	0	0	2

	車 検 診	施 設 検 診	内視鏡検診
小 弯	2	0	7
大 弯	1	0	2
前 壁	0	1	3
後 壁	1	0	6
全 周	0	0	2
計	4	1	20
不 明	0	0	3

表8 発見胃癌の進行度

stage	東 部			中 部			西 部			計			計			
	車 検診	施設 検診	内視鏡 検診	車 検診	施設 検診	内視鏡 検診	車 検診	施設 検診	内視鏡 検診	車 検診	施設 検診	内視鏡 検診	X 線		内視鏡 検診	
I A	8	3	43	4	0	22	1	4	47	13	7	112	20	71.4%	112	79.43%
I B	3	0	5	1	0	5	0	0	2	4	0	12	4	14.3%	12	8.51%
II A	0	0	4	1	0	0	1	0	4	2	0	8	2	7.1%	8	5.67%
II B	1	0	0	0	0	0	0	1	3	1	1	3	2	7.1%	3	2.13%
III A	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	2	0	0.0%	2	1.42%
III B	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	0	0.00%
III C	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0.0%	1	0.71%
IV	0	0	2	0	0	0	0	0	1	0	0	3	0	0.0%	3	2.13%
計	12	3	54	6	0	28	2	5	59	20	8	141	28	100.0%	141	100.0%
不明	0	0	1	0	0	0	1	0	4	1	0	5	1		5	

表9 前年度受診歴を有する進行胃癌症例

地区	検 診	歳	性	型	深達度	組織型	大きさ (mm)	占拠部位	Stage	前 年 受 診 歴	
										検診方法	結 果
東部	車検診・X線	66	女	2	T3	tub2	60×40	M 後壁	I B	車	異常なし
	内視鏡	70	男	5	T2	tub2	12×12	U 後壁	I B	車	異常なし
中部	車検診・X線	65	女	2	T2	por1	38×28	M 大弯	I B	内視鏡	精検不要
西部	施設・X線	69	女	3	T3	por1	50×40	U 前壁	II B	内視鏡	要精検結果、異常なし
	内視鏡	84	女	2	T1b	tub2	22×14	L 大弯	I A	内視鏡	異常なし
		82	女	2	T2	por1	26×15	M 小弯	I B	内視鏡	異常なし
73	男	2	T2	特殊型	19×15	U 小弯	II A	内視鏡	異常なし		

特殊型 carcinoma with lymphoid stroma

2. 子宮がん検診

1. 子宮がん検診実績

平成25年度の対象者数（20歳以上のうち職場等で受診機会のない者として厚生労働省が示す算式により算定した推計数）135,485人のうち、受診者数は29,640人で、受診率21.9%、平成20年度以降受診者数、受診率共に増加傾向である。35歳～49歳の受診率は50%以上で目標値をクリアしている。過去3年間に検診を受診している経年受診者割合は74.0%で例年通りであった。

要精検者数は377人（判定不能で再検未実施となった者18人を含む）、要精検率は1.27%で、精検受診率80.9%で、共に前年から増加した。一部地域で施設検診での液状化検体法の導入が遅れていたこともあり、判定不能検体の抑制には至らなかった。平成26年度は県下全地域での導入が実現し、その結果が期待される。

要精検率は過去5年間で高く推移しており、特に20～40歳代が高い。車検診に比べ施設検診の方が高い（0.36% vs 1.78%）。

頸部がんは25人で、がん発見率（がん/受診者数）は0.08%、陽性反応適中度（がん/要精検者数）は6.6%であった。異形成は150人（軽度99人、高度51人）で検出された。がん発見率は30～40歳代が高く推移している。がん発見率、陽性反応適中度共に車検診より施設検診で高い傾向が続いている。

なお、当県実績は、精検受診率以外は国の指標（要精検率許容値1.4%以下、がん発見率許容値0.05%以上、陽性反応適中度許容値4.0%以上）をクリアしている。

〈検診機関別結果〉

(1) 一次検診

区 分	受診者数（率）	要精検者数	要精検率（%）			
			計	東 部	中 部	西 部
車 検 診 （保健事業団）	10,584 (35.7%)	38	0.36	0.35	0.33	0.45
施 設 検 診 （病院・診療所）	19,056 (64.3%)	339	1.78	1.69	1.14	1.97
計	29,640 (100%)	377	1.27	1.11	0.63	1.75

(2) 精密検査

区 分	精 検 受診者数	精 検 受診率 （%）	が ん	がん発見率（%）			
				計	東 部	中 部	西 部
車 検 診	31	81.6	3	0.028	0.020	0.026	0.056
施 設 検 診	274	80.8	22	0.115	0.079	0.044	0.153
計	305	80.9	25	0.084	0.053	0.032	0.139

〈圏域別結果〉

(1) 車検診

区 分	受診者数	要精検者数	要精検率	精検受診者数	精検受診率	異形成	が ん	がん発見率
東 部	4,881	17	0.35	15	88.2	6	1	0.020
中 部	3,918	13	0.33	11	84.6	5	1	0.026
西 部	1,785	8	0.45	5	62.5	2	1	0.056
計	10,584	38	0.36	31	81.6	13	3	0.028

(2) 施設検診

区 分	受診者数	要精検者数	要精検率	精検受診者数	精検受診率	異形成	が ん	がん発見率
東 部	6,339	107	1.69	94	87.9	47	5	0.079
中 部	2,272	26	1.14	20	76.9	11	1	0.044
西 部	10,445	206	1.97	160	77.7	79	16	0.153
計	19,056	339	1.78	274	80.8	137	22	0.115

2. 子宮体部がん検診

子宮がん検診受診者29,640人中、体部がん検診対象者数は559人、一次検診会場での受診者は443人であった。一次検診会場で受診できず医療機関で別途検査した者は84人、受診者の合計は527人、受診率は94.3%であった。

一次検診の結果、要精検となった者6人、要精検率1.35%、精密検査受診者数は4人であった。精検の結果、子宮体部がんが1人発見され、がん発見率は0.19%であった。陽性反応適中度は16.7%であった。子宮内膜増殖症が2件、また医療機関での別途受診者から子宮内膜増殖症が1件発見されている。

3. 子宮がん検診発見子宮がん確定調査結果

1) 子宮頸部癌

平成25年度は子宮頸部癌25名で、0期20例、I A期1例、I B期以上が4例であった。平成24年度に比べ27名減少した。一方、異形成は152例で、平成24年度より41例増加した。鳥取市と米子市における細胞診/HPV併用検診の初期病変検出における効果も大きいと推測される。

なお、I B期以上4例の検診歴は、初回2例、2年前受診1例、3年以上前受診1例であった。

2) 子宮体部癌

子宮体部癌は2例であった。

4. その他

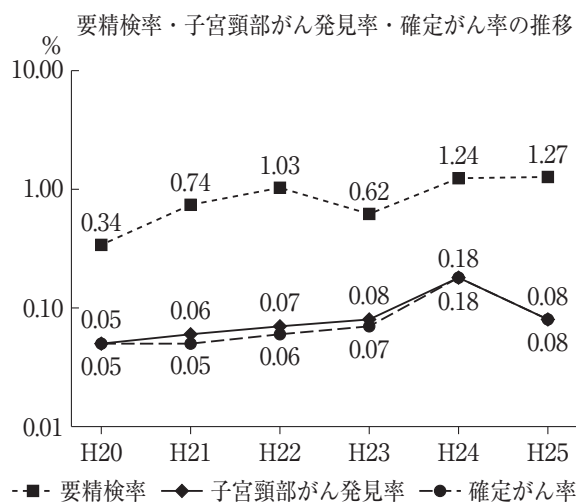
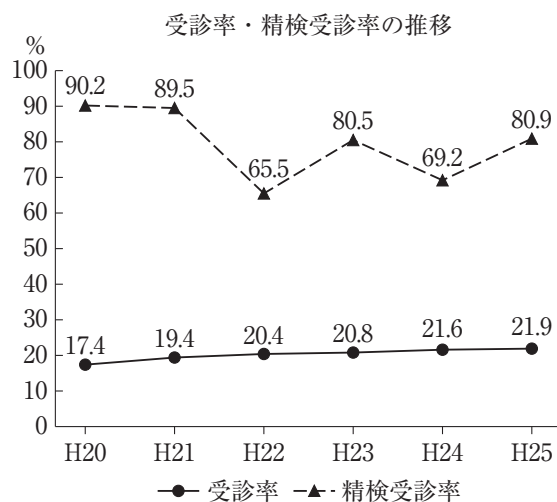
1) 平成25年度妊婦健康診査における子宮頸部がん検診受診状況について

平成25年度実績は、妊婦健康診査受診者4,553人中、子宮頸部がん検診受診者数4,478人、受診率98.4%で、要精検者数45人、要精検率1.0%、市町村が把握できた精検結果は39人で、そのうち頸がんが1人、異形成が4人であった。

(1) 子宮頸部がん検診の受診者数及び受診率の推移

区分		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
一次検診	対象者数(人) A	139,232	139,232	139,232	135,485	135,485	135,485
	受診者数(人) B	24,207	26,943	28,453	28,247	29,307	29,640
	受診率(%) C = B/A	17.4	19.4	20.4	20.8	21.6	21.9
一次検診結果	異常認めず(人) D	24,125	26,743	28,098	28,051	28,915	29,193
	要精検者数(人) E	82	200	293	174	364	377
	判定不能(人) F	—	—	62	22	28	70
	要精検率(%) G = E/B 指標：許容値1.4%以下	0.34	0.74	1.03	0.62	1.24	1.27
精密検査	精検受診者数(人) H	74	179	192	140	252	305
	精検受診率(%) I = H/E 指標：目標値90%以上	90.2	89.5	65.5	80.5	69.2	80.9
精密検査結果	子宮がんの者(人) J	11(32)	15(100)	20(105)	23(76)	53(112)	25(150)
	子宮がん発見率(%) K = J/B 指標：許容値0.05%以上	0.05	0.06	0.07	0.08	0.18	0.08
	陽性反応適中度(%) L = J/E 指標：許容値4.0%以上	13.4	7.5	6.8	13.2	14.6	6.6
確定調査結果	確定がん数(人) M	11	14	18	21	52	25
	確定がん率(%) N = M/B	0.05	0.05	0.06	0.07	0.18	0.08

- * 1 精密検査結果欄の()内の数値は、がん疑いの者の数を外数で計上
- * 2 がん発見率及び陽性反応適中度は、平成18年度報告から【がん】の者のみを計上
- * 3 陽性反応適中度は、要精検者数を分母として算出。
- * 4 確定がん数は、検診により発見された「がん」又は「がん疑い」の者を調査により計上



(2) 平成25年度子宮頸部がん検診

1) 一次検診結果 (年齢階級別)

年齢	対象者数(人) a	一次検診受診者数 b	受診率(%) c = b/a	経年受診者数再掲	一次検診結果			要精検率(%) e = d/b
					要精検者数 d	判定不能	異常認めず	
20～24歳	3,917	565	14.4	152	18	1	546	3.19
25～29歳	3,624	1,273	35.1	620	43	4	1,226	3.38
30～34歳	4,730	2,176	46.0	1,078	78	3	2,095	3.58
35～39歳	4,966	2,680	54.0	1,670	62	7	2,611	2.31
40～44歳	4,048	2,937	72.6	1,868	65	1	2,871	2.21
45～49歳	3,853	2,338	60.7	1,743	37	7	2,294	1.58
50～54歳	4,974	2,458	49.4	1,977	26	7	2,425	1.06
55～59歳	8,189	2,740	33.5	2,167	15	15	2,710	0.55
60～64歳	13,797	3,844	27.9	3,098	13	9	3,822	0.34
65～69歳	14,574	3,705	25.4	3,191	9	12	3,684	0.24
70～74歳	16,049	2,730	17.0	2,415	7	2	2,721	0.26
75～79歳	17,458	1,524	8.7	1,362	3	1	1,520	0.20
80歳以上	35,306	670	1.9	592	1	1	668	0.15
計	135,485	29,640	21.9	21,933	377	70	29,193	1.27

2) 精密検査結果 (年齢階級別)

年 齢	精密検査受診者数 (人) f	精密検査受診率 (%) g = f/d	精 密 検 査 結 果							子宮がん発見率 (%) n = k/b	陽性反応適中度 (%) o = k/d	
			異常認めず	その他の疾病	異形成 h = i + j	軽度異形成 i	高度異形成 j	子宮がん k = l + m	上皮内がん l			浸潤がん m
20~24歳	15	83.3	4	0	11	11	0	0	0	0	0.000	0.0
25~29歳	34	79.1	15	1	16	10	6 (3)	2	2	0	0.157	4.7
30~34歳	70	89.7	24	7	33	20	13 (8)	6	5	1	0.276	7.7
35~39歳	56	90.3	14	3	31	21	10 (5)	8	6	2	0.299	12.9
40~44歳	52	80.0	22	4	20	9	11 (5)	6	5	1	0.204	9.2
45~49歳	30	81.1	10	3	17	11	6 (5)	0	0	0	0.000	0.0
50~54歳	20	76.9	7	4	8	6	2	1	0	1	0.041	3.8
55~59歳	9	60.0	6	0	2	0	2	1	0	1	0.036	6.7
60~64歳	7	53.8	2	0	4	4	0	1	0	1	0.026	7.7
65~69歳	6	66.7	0	1	5	4	1 (1)	0	0	0	0.000	0.0
70~74歳	5	71.4	3	0	2	2	0	0	0	0	0.000	0.0
75~79歳	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.000	0.0
80歳以上	1	100.0	0	0	1	1	0	0	0	0	0.000	0.0
計	305	80.9	107	23	150	99	51(27)	25	18	7	0.084	6.6

※ () 内は中等度異形成を内数で計上

3) 検診機関別

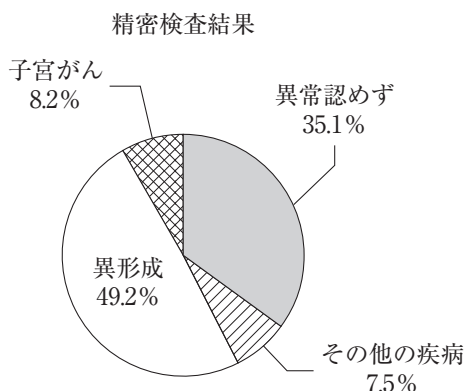
a. 一次検診結果

一次検診機関	一次検診受診者数 (人) a'	一 次 検 診 結 果			要精検率 (%) c' = b'/a'
		要精検者数 b'	判定不能	異常認めず	
保健事業団	10,584	38	0	10,546	0.36
病 院	6,522	76	50	6,396	1.17
診 療 所	12,534	263	20	12,251	2.10
計	29,640	377	70	29,193	1.27

b. 精密検査結果

検 診 機 関	精密検査受診者数 (人) d'	精密検査受診率 (%) e' = d'/b'	精 密 検 査 結 果							子宮がん発見率 (%) l' = i'/a'	陽性反応適中度 (%) m' = i'/b'	
			異常認めず	その他の疾病	異形成 f' = g' + h'	軽度異形成 g'	高度異形成 h'	子宮がん i' = j' + k'	上皮内がん j'			浸潤がん k'
保健事業団	31	81.6	12	3	13	9	4 (4)	3	2	1	0.028	7.9
病 院	42	55.3	17	6	17	10	7 (2)	2	2	0	0.031	2.6
診 療 所	232	88.2	78	14	120	80	40(21)	20	14	6	0.160	7.6
計	305	80.9	107	23	150	99	51(27)	25	18	7	0.084	6.6

※ () 内は中等度異形成



4) 平成25年度子宮頸部がん検診受診状況

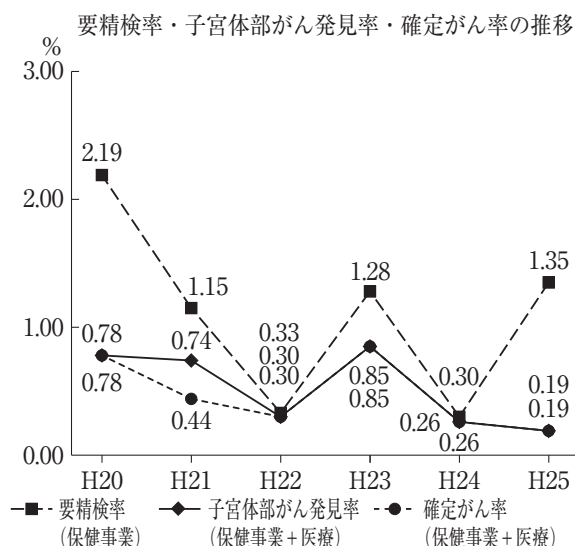
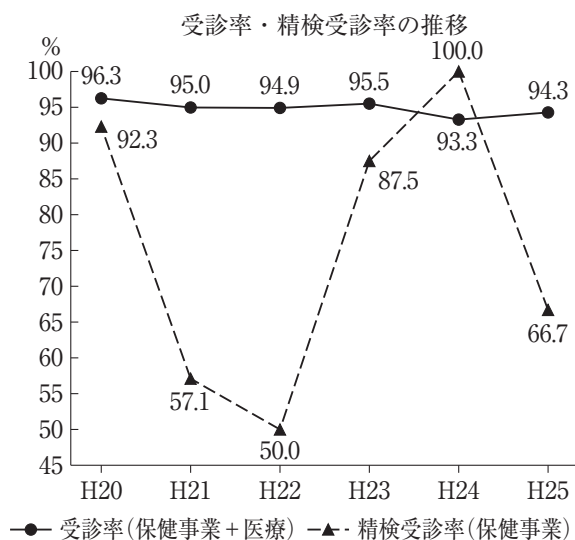
市町村名	受診者数				要精検者数				精密検査結果別人員								
	車検診 A	施設検診 B	計 C	受診率 (%) D=B+C	車検診 F	施設検診 G	計 H=F+G	要精検率 (%) I=H/D	精 受診者数 J	精検受診 率 (%) K=J/H	異 常 認めず L	その他 の疾病 M	異形成 N	がん O	有所見者 P=M+N+O	がん発見 率 (%) Q=O/D	陽性反応 適中度 (%) R=O/H
鳥取市	2,697	5,688	8,385	19.7	11	99	110	1.31	96	87.3	34	7	49	6	62	0.072	5.5
米子市	0	7,433	7,433	23.2	0	140	140	1.88	131	93.6	42	7	67	15	89	0.202	10.7
倉吉市	911	1,299	2,210	18.0	3	17	20	0.90	14	70.0	4	4	5	1	10	0.045	5.0
境港市	0	1,109	1,109	13.8	0	10	10	0.90	9	90.0	3	0	6	0	6	0.000	0.0
岩美町	637	70	707	21.7	1	2	3	0.42	2	66.7	2	0	0	0	0	0.000	0.0
八頭町	1,071	210	1,281	29.6	3	1	4	0.31	4	100.0	3	0	1	0	1	0.000	0.0
若桜町	302	61	363	31.9	1	1	2	0.55	2	100.0	2	0	0	0	0	0.000	0.0
智頭町	174	310	484	23.4	1	4	5	1.03	5	100.0	1	1	3	0	4	0.000	0.0
湯梨浜町	583	394	977	24.6	3	2	5	0.51	5	100.0	1	0	4	0	4	0.000	0.0
三朝町	1,788	354	435	24.3	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000	0.0
北栄町	3,773	901	1,135	30.1	1	3	4	0.35	4	100.0	0	1	2	1	4	0.088	25.0
琴浦町	4,788	264	1,433	29.9	6	4	10	0.70	8	80.0	2	1	5	0	6	0.000	0.0
南部町	2,816	323	807	28.7	4	8	12	1.49	6	50.0	3	1	1	1	3	0.124	8.3
伯耆町	3,005	504	833	27.7	1	20	21	2.52	6	28.6	4	1	0	1	2	0.120	4.8
日吉津村	747	41	285	38.2	0	4	4	1.40	2	50.0	1	0	1	0	1	0.000	0.0
大山町	4,882	373	850	17.4	0	16	16	1.88	8	50.0	4	0	4	0	4	0.000	0.0
日南町	1,837	274	309	16.8	2	3	5	1.62	2	40.0	0	0	2	0	2	0.000	0.0
日野町	1,148	270	275	24.0	1	0	1	0.36	1	100.0	1	0	0	0	0	0.000	0.0
江府町	1,006	0	329	32.7	0	5	5	1.52	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000	0.0
合計	135,485	10,584	29,640	21.9	38	339	377	1.27	305	80.9	107	23	150	25	198	0.084	6.6
東部	53,263	4,881	11,220	21.1	17	107	124	1.11	109	87.9	42	8	53	6	67	0.053	4.8
中部	26,637	3,918	6,190	23.2	13	26	39	0.63	31	79.5	7	6	16	2	24	0.032	5.1
西部	55,585	1,785	12,230	22.0	8	206	214	1.75	165	77.1	58	9	81	17	107	0.139	7.9

(3) 子宮体部がん検診の受診者数及び受診率の推移

区 分		20 年 度			21 年 度			22 年 度		
		保 健 事業分	医療分	計	保 健 事業分	医療分	計	保 健 事業分	医療分	計
一次検診	対 象 者 数(人) A	667		667	715		715	707		707
	受 診 者 数(人) B	593	49	642	608	71	679	608	63	671
	受 診 率 (%) C = B / A	88.9		96.3	85.0		95.0	86.0		94.9
一次検診結果	異 常 認 め ず(人) D	580			601			605		
	要 精 検 者 数(人) E	13			7			2		
	判 定 不 能(人) F	0			0			1		
精密検査	要 精 検 率 (%) G = E / B	2.19			1.15			0.33		
	精 検 受 診 者 数(人) H	12			4			1		
精密検査結果	精 検 受 診 率 (%) I = H / E	92.3			57.1			50.0		
	子 宮 が ん の 者(人) J	5(1)	0(3)	5(4)	3(0)	2(4)	5(4)	1(0)	1(0)	2(0)
	子 宮 が ん 発 見 率 (%) K = J / B	0.84	0.00	0.78	0.49	2.82	0.74	0.16	1.59	0.30
確定調査結果	陽 性 反 応 適 中 度 (%) L = J / H	38.5			42.9			50.0		
	確 定 が ん 数(人) M			5			3	1	1	2
	確 定 が ん 率 (%) N = M / B			0.78			0.44			0.30

区 分		23 年 度			24 年 度			25 年 度		
		保 健 事業分	医療分	計	保 健 事業分	医療分	計	保 健 事業分	医療分	計
一次検診	対 象 者 数(人) A	735		735	833		833	559		559
	受 診 者 数(人) B	626	76	702	672	105	777	443	84	527
	受 診 率 (%) C = B / A	85.2		95.5	80.7		93.3	79.2		94.3
一次検診結果	異 常 認 め ず(人) D	618			670			435		
	要 精 検 者 数(人) E	8			2			6		
	判 定 不 能(人) F	0			0			2		
精密検査	要 精 検 率 (%) G = E / B	1.28			0.30			1.35		
	精 検 受 診 者 数(人) H	7			2			4		
精密検査結果	精 検 受 診 率 (%) I = H / E	87.5			100.0			66.7		
	子 宮 が ん の 者(人) J	4(2)	2(3)	6(5)	1(0)	1(2)	2(2)	1(2)	0(1)	1(3)
	子 宮 が ん 発 見 率 (%) K = J / B	0.64	2.63	0.85	0.15	0.95	0.26	0.23	0.00	0.19
確定調査結果	陽 性 反 応 適 中 度 (%) L = J / H	50.0			50.0			16.7		
	確 定 が ん 数(人) M	4	2	6	1	1	2	1	0	1
	確 定 が ん 率 (%) N = M / B			0.85			0.26			0.19

- ※ 1 「保健事業分」= 集団検診及び医療機関検診により検診を受けた者、「医療分」= 集団検診において当日体部がん検診を受診せず、後日医療機関において受診した者
- ※ 2 精密検査結果欄の () 内の数値は、がん疑いの者の数を外数で計上
- ※ 3 がん発見率及び陽性反応適中度は、平成18年度報告から【がん】の者のみを計上
- ※ 4 陽性反応適中度は、平成19年度報告から精検受診者数を分母として算出。平成25年度報告から要精検受診者を分母として算出。
- ※ 5 確定がん数は、検診により発見された「がん」又は「がん疑い」の者を調査により計上



(4) 平成25年度子宮体部がん検診

1) 一次検診結果 (年齢階級別)

年 齢	子宮がん検診受診者数 a	体部がん検診対象者数 b	対象率 (%) c = b / a	体部がん検診受診者数 d	受診率 (%) e = d / b	一次検診結果			要精検率 (%) g = f / d
						要精検者数 f	判定不能	異常認めず	
20～24歳	565	2	0.35	2	100.0	0	0	2	0.00
25～29歳	1,273	16	1.26	13	81.3	0	0	13	0.00
30～34歳	2,176	41	1.88	31	75.6	0	0	31	0.00
35～39歳	2,680	64	2.39	46	71.9	0	0	46	0.00
40～44歳	2,937	75	2.55	58	77.3	0	0	58	0.00
45～49歳	2,338	105	4.49	93	88.6	3	0	90	3.23
50～54歳	2,458	126	5.13	105	83.3	3	1	101	2.86
55～59歳	2,740	31	1.13	25	80.6	0	0	25	0.00
60～64歳	3,844	36	0.94	28	77.8	0	0	28	0.00
65～69歳	3,705	31	0.84	24	77.4	0	1	23	0.00
70～74歳	2,730	22	0.81	12	54.5	0	0	12	0.00
75～79歳	1,524	8	0.52	5	62.5	0	0	5	0.00
80歳以上	670	2	0.30	1	50.0	0	0	1	0.00
計	29,640	559	1.89	443	79.2	6	2	435	1.35

2) 精密検診結果 (年齢階級別)

年 齢	精密検査受診者数 h	精検受診率 (%) i = h / f	精密検査結果				子宮体部がん発見率 (%) k = j / d	陽性反応適中度 (%) l = j / f
			異常認めず	その他疾病	子宮内膜増殖症	子宮体部がん j		
20～24歳	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
25～29歳	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
30～34歳	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
35～39歳	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
40～44歳	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
45～49歳	2	66.7	1	0	1	0	0.00	0.0
50～54歳	2	66.7	0	0	1	1	0.95	50.0
55～59歳	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
60～64歳	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
65～69歳	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
70～74歳	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
75～79歳	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
80歳以上	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
計	4	66.7	1	0	2	1	0.23	16.7

3) 一次検診会場で子宮体部がん検診を受診しなかった者の結果 (年齢階級別)

年 齢	受診者数	精密検査結果					子宮体部がん発見率 (%)
		異常認めず	その他疾病	子宮内膜増殖症	子宮体部がん	判定不能	
20～24歳	0	0	0	0	0	0	0
25～29歳	2	2	0	0	0	0	0
30～34歳	10	10	0	0	0	0	0
35～39歳	14	14	0	0	0	0	0
40～44歳	13	12	0	1	0	0	0
45～49歳	5	5	0	0	0	0	0
50～54歳	14	14	0	0	0	2	0
55～59歳	4	4	0	0	0	1	0
60～64歳	5	5	0	0	0	2	0
65～69歳	7	7	0	0	0	0	0
70～74歳	7	7	0	0	0	3	0
75～79歳	2	2	0	0	0	1	0
80歳以上	1	1	0	0	0	0	0
計	84	83	0	1	0	9	0

4) 平成25年度子宮体部がん検診受診状況(保健事業分)

市町村名	受診者数				要精検者数				精密検査結果別人員									
	対象者数	車検診	施設検診	計	受診率 (%)	車検診	施設検診	計	要精検率 (%)	精 受診者数	精検 率(%)	異常 認めず	その他 の疾病	子宮内膜 増殖症	がん	有所見者 P=M+N+O	がん発見 率(%)	陽性反応 適中度(%)
A	B	C	D=B+C	E=D/A	F	G	H=F+G	I=H/D	J	K=J/H	L	M	N	O	Q=O/D	R=O/H		
鳥取市	265	0	181	181	68.3	2	2	1.10	2	100.0	0	0	1	1	2	0.55	50.0	
米子市	163	0	163	163	100.0	3	3	1.84	2	66.7	1	0	1	0	1	0.00	0.0	
倉吉市	8	0	6	6	75.0	1	1	16.67	0	0.0	0	0	0	0	0	0.00	0.0	
境港市	2	0	2	2	100.0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.00	0.0	
岩美町	0	0	0	0	0.0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.00	0.0	
八頭町	16	0	11	11	68.8	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.00	0.0	
若桜町	0	0	0	0	0.0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.00	0.0	
智頭町	5	0	2	2	40.0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.00	0.0	
湯梨浜町	21	0	18	18	85.7	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.00	0.0	
三朝町	4	0	4	4	100.0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.00	0.0	
北栄町	14	0	14	14	100.0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.00	0.0	
琴浦町	0	0	0	0	0.0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.00	0.0	
南部町	29	0	22	22	75.9	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.00	0.0	
伯耆町	0	0	0	0	0.0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.00	0.0	
日吉津村	6	0	6	6	100.0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.00	0.0	
大山町	0	0	0	0	0.0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.00	0.0	
日南町	0	0	0	0	0.0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.00	0.0	
日野町	1	0	0	0	0.0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.00	0.0	
江府町	25	0	14	14	56.0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.00	0.0	
合計	559	0	443	443	79.2	6	6	1.35	4	66.7	1	0	2	1	3	0.23	16.7	
東部	286	0	194	194	67.8	2	2	1.03	2	100.0	0	0	1	1	2	0.52	50.0	
中部	47	0	42	42	89.4	1	1	2.38	0	0.0	0	0	0	0	0	0.00	0.0	
西部	226	0	207	207	91.6	3	3	1.45	2	66.7	1	0	1	0	1	0.00	0.0	

(5) 平成25年度子宮がん検診発見がん患者確定調査結果

表1 子宮がん検診確定調査結果（頸部）

最終診断	車検診		施設検診	
	平成24年度	平成25年度	平成24年度	平成25年度
異形成	27	14	84	138
上皮内癌	6	2	32	18
頸癌 I A 期	2	0	2	1
頸癌 I B 期以上	2	1	8	3
合計	37	17	126	160

表2 子宮がん検診確定調査結果（体部）

最終診断	平成24年度	平成25年度
内膜増殖症	0	1
体癌 I A 期	2	1
体癌 I B 期以上	0	
合計	0	2

表3 発見子宮がん症例（I B 期以上）のがん検診受診歴

受診歴	車検診	施設検診	計
前年受診	0	0	0
2年間隔	0	1	1
3年以上の間隔	0	1	1
初回受診	1	1	2

表4 治療機関

	上皮内癌	頸癌 I A 期	頸癌 I B 期以上	計
鳥取大学医学部附属病院	7	1	4	12
鳥取県立中央病院	5	0	0	5
鳥取市立病院	1	0	0	1
鳥取赤十字病院	0	0	0	0
鳥取県立厚生病院	1	0	0	1
博愛病院	6	0	0	6
他県医療機関	0	0	0	0
計	20	1	4	25

3. 肺 が ん 検 診

1. 肺がん検診実績

平成25年度対象者数（40歳以上のうち職場等で受診機会のない者として厚生労働省が示す算式により算定した推計数）190,556人のうち、受診者数50,569人、受診率26.5%で前年度に比べ受診者数193人、受診率0.1ポイント増加した。

このうち要精検者は2,345人、要精検率4.64%で前年度より0.24ポイント減少した。精密検査受診者は2,062人、精検受診率87.9%であった。要精検率は国の指標（許容値）である3.0%以下をいまだに大きく上回っているが、精検受診率は引き続き高く、その結果、肺がん45人、がん疑い68人の計113人が発見された。

肺がん発見率は0.09%で、前年度より10人（0.02%）増加した。これは国の指標（許容値）0.03%より約3倍高率である。また、陽性反応適中度は1.9%となり、前年度より0.5ポイント増加し、これも国の指標（許容値）1.3%を上回っている。鳥取県は肺がん罹患率が高く、高い要精検率の中で多くの肺がんが発見され、精度も高いと考えられる。施設検診と車検診を比較すると、要精検率は施設検診5.60%、車検診3.84%と施設検診の方が1.76ポイント高いのに対して、がん発見率では施設検診0.083%、車検診0.094%と施設検診が0.011ポイント低い。施設検診の精度管理は今後も検討課題の一つである。

追跡調査の結果、確定肺がんは62人（原発性58人、転移性4人）で、確定がん率は0.12%となり、前年度よりも0.01ポイント増加した。肺がん疑いの症例は今後も定期的にフォローする方針である。

X線受診者総数50,569人のうち経年受診者は33,639人、経年受診率66.5%である。

喀痰検査の対象となる高危険群所属者は7,209人（14.3%）で、そのうち喀痰検査を受診した者は2,610人で、X線検査受診者の5.2%であった。そのうち要精検者は2人、要精検率0.08%で、精密検査は未受診であった。

経年受診者のがん発見率は0.056%で、非経年受診者のがん発見率0.154%で、非経年受診者の方が2.75倍高かった。また、高危険群所属者7,209人のうちがんが14人発見され、がん発見率0.194%、非高危険群所属者43,360人のうちがんが31人発見され、がん発見率0.071%で、高危険群所属者の方が2.73倍高かった。

西部の施設検診が3年目となり、西部の要精検率7.85%と他の地区に比べ依然として高いが、がん発見率は0.035%と一番低かった。

〈検診機関別結果〉

(1) 一次検診

区 分	受診者数（率）	要精検者数	要精検率（%）			
			計	東 部	中 部	西 部
車 検 診 (保健事業団・中国労働衛生協会)	27,553 (54.5%)	1,057	3.84	2.66	3.38	4.98
施 設 検 診 (病院・診療所)	23,016 (45.5%)	1,288	5.60	4.66	5.93	7.85
計	50,569 (100%)	2,345	4.64	3.97	3.98	5.94

(2) 精密検査

区 分	精 検 受診者数	精 検 受診率 (%)	が ん	がん発見率 (%)			
				計	東 部	中 部	西 部
車 検 診	892	84.4	26	0.094	0.090	0.059	0.123
施 設 検 診	1,170	90.8	19	0.083	0.102	0.077	0.035
計	2,062	87.9	45	0.089	0.098	0.064	0.094

〈圏域別結果〉

(1) 車検診

区 分	受診者数	要精検者数	要精検率	精検受診者数	精検受診率	がん疑い	が ん	がん発見率
東 部	7,781	207	2.66	185	89.4	8	7	0.090
中 部	8,412	284	3.38	236	83.1	11	5	0.059
西 部	11,360	566	4.98	471	83.2	25	14	0.123
計	27,553	1,057	3.84	892	84.4	44	26	0.094

(2) 施設検診

区 分	受診者数	要精検者数	要精検率	精検受診者数	精検受診率	がん疑い	が ん	がん発見率
東 部	14,715	686	4.66	628	91.5	18	15	0.102
中 部	2,595	154	5.93	142	92.2	1	2	0.077
西 部	5,706	448	7.85	400	89.3	5	2	0.035
計	23,016	1,288	5.60	1,170	90.8	24	19	0.083

〈経年受診者の状況〉

※経年受診者＝昨年度も肺がん検診を受診した者

(1) 受診者数の推移

年 度	全体 (X線受診者数)			経年受診者数 (率)		
	男	女	計	男	女	計
H23	18,618	29,895	48,513	11,047 (59.3%)	18,402 (61.6%)	29,449 (60.7%)
H24	19,597	30,779	50,376	12,945 (66.1%)	20,470 (66.5%)	33,415 (66.3%)
H25	19,836	30,733	50,569	13,065 (65.9%)	20,574 (66.9%)	33,639 (66.5%)

(2) がん発見率の推移

年度	経 年 受 診 者			非 経 年 受 診 者			発見率倍率 (非経年/経年)
	受診者数	が ん	がん発見率	受診者数	が ん	がん発見率	
H23	29,449	20	0.068	19,064	24	0.126	1.85
H24	33,415	15	0.045	16,961	20	0.118	2.63
H25	33,639	19	0.056	16,930	26	0.154	2.75

〈高危険群所属者の状況〉

※高危険群所属者＝肺がんX線検査対象者のうち、問診の結果、原則として次のいずれかの条件に該当する者

- ①年齢50歳以上で喫煙指数（1日本数×年数）600以上の者
- ②6か月以内に血痰のあった者

(1) 受診者数の推移

年度	全体（X線受診者数）			高危険群所属者数（率）					
	男	女	計	男		女		計	
H23	18,618	29,895	48,513	6,226	(33.4%)	396	(1.3%)	6,622	(13.6%)
H24	19,597	30,779	50,376	6,823	(34.8%)	378	(1.2%)	7,201	(14.3%)
H25	19,836	30,733	50,569	6,787	(34.2%)	422	(1.4%)	7,209	(14.3%)

(2) がん発見率の推移

年度	高危険群所属者			非高危険群所属者			発見率倍率 (高危険/非高危険)
	受診者数	が ん	がん発見率	受診者数	が ん	がん発見率	
H23	6,622	10	0.151	41,891	34	0.081	1.86
H24	7,201	10	0.139	43,175	25	0.058	2.40
H25	7,209	14	0.194	43,360	31	0.071	2.73

〈喀痰細胞診の実施状況〉

※喀痰細胞診対象者＝X線検査受診者における高危険群所属者

(1) 結果の推移

年度	X線検査受診者中 高危険群所属者	喀痰検査受診者数	要精検者数	要精検率	精検受診者数	が ん	がん発見率
H23	6,622	2,750	0	0.00	0	0	0.000
H24	7,201	2,818	1	0.04	1	1	0.04
H25	7,209	2,610	2	0.08	0	0	0.000

〈発見がん患者の状況〉

(1) 要精検カテゴリー別患者数（人）

年 度	全 体	X線のみ要精検	喀痰のみ要精検	ともに要精検
H23	44	44	0	0
H24	35	34	1	0
H25	45	45	0	0

2. 肺がん検診発見肺がん追跡調査結果

1) 昭和62年から平成25年までに発見された肺がん又は肺がん疑いについて予後調査した結果、肺がん確定診断1,279例、内訳は原発性肺癌1,146例（発見率10万対75人）、転移性肺腫瘍133例であった。発見方法は胸部X線1,047人（91.4%）、喀痰細胞診53人、両者44人、不明2人で、近年、喀痰細胞診から発見される肺がんの割合は激減している。平均年齢は71.9歳、男性677人、女性469人で、近

年の傾向として女性肺がんの増加が著しい。臨床病期はⅠ期が652人(56.9%)で過半数を占め、712人(62.1%)に手術が行われた。予後調査では全例(1,146人)の累積生存率は5生率48.4%、10生率32.7%であり、手術例では5生率67.8%、10生率48.3%であった。臨床病期ⅠA期の5生率は75.6%、10生率は56.7%と良好な結果を示した。

2) 平成25年度調査結果

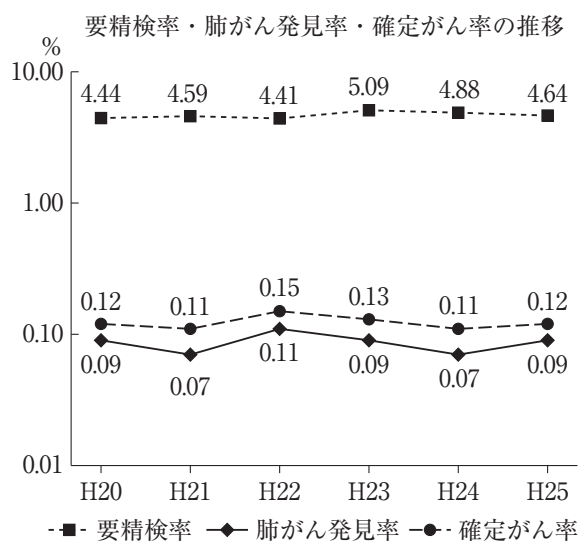
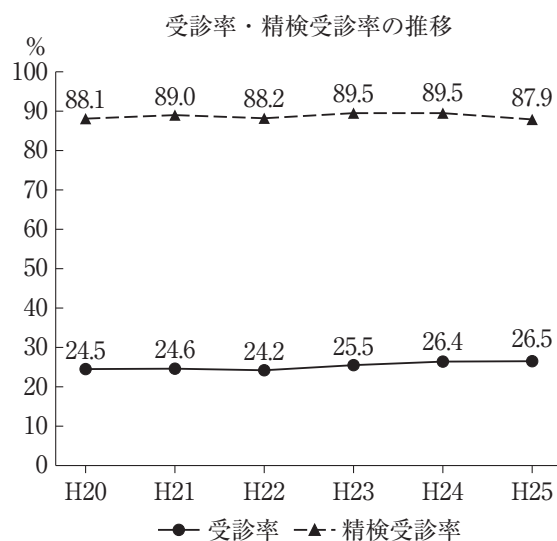
- (1) 予後調査では原発性肺がん58例(発見率10万対115人)、転移性肺腫瘍4例、合計62例の肺がん確定診断を得た。最終報告で45例あった肺がん疑いは、その後の予後調査により肺がんが13例発見され、肺がんを否定が5例、肺がん疑いのままが27例という結果であった。肺がん疑い症例は今後3年間フォローを続ける予定である。
- (2) 発見された原発性肺がんの58例すべて(100%)が胸部X線のみで発見され、喀痰細胞診により発見された肺がんはなかった。
- (3) 原発性肺がんの平均年齢は71.7歳、女性肺がんは26例(44.8%)、臨床病期はⅠ期37例(63.8%)、腺癌は39例(67.2%)と引き続き高率であった。
- (4) 手術症例の割合は42例(72.4%)と多く、術後病期Ⅰ期の肺がんが33例(78.6%)、腺癌が30例(71.4%)と多数を占めた。
- (5) 腫瘍径は平均28.3mmと前年より0.1mm小さく、20mm以下は19例(32.8%)で、平成24年度より3.9ポイント減少した。
- (6) 転移性肺腫瘍は4例で、原発巣は子宮癌2例、前立腺癌1例、胃癌1例であった。
- (7) 施設検診と車検診との比較を行い、要精検率は施設検診5.6%、車検診3.8%と施設が高く、特に西部地区が7.9%と高かった。原発性肺がん58例のうち、車検診で28例(発見率0.102%)、施設検診30例(0.130%)であった。

今年は施設検診から男性の肺癌が多く見つかっており、扁平上皮癌7名、臨床病期Ⅳが5例と多く、手術されていない症例も11名と多かった。

(1) 肺がん検診の受診者数及び受診率等の推移

区 分		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
一 次 検 診	対 象 者 数(人) A	188,186	188,186	188,186	190,556	190,556	190,556
	受 診 者 数(人) B	46,015	46,247	45,482	48,513	50,376	50,569
	受 診 率(%) C=B/A	24.5	24.6	24.2	25.5	26.4	26.5
一 次 検 診 結 果	異 常 認 め ず(人) D	43,974	44,125	43,478	46,046	47,916	48,224
	要 精 検 者 数(人) E	2,041	2,122	2,004	2,467	2,460	2,345
	要 精 検 率(%) F=E/B <small>指標：許容値3.0%以下</small>	4.44	4.59	4.41	5.09	4.88	4.64
精 密 検 査	精 検 受 診 者 数(人) G	1,799	1,888	1,767	2,208	2,201	2,062
	精 検 受 診 率(%) H=G/E <small>指標：目標値90%以上</small>	88.1	89.0	88.2	89.5	89.5	87.9
精 密 検 査 結 果	肺 がん の 者(人) I	41 (94)	31 (87)	50 (67)	44 (70)	35 (58)	45 (68)
	肺 がん 発 見 率(%) J=I/B <small>指標：許容値0.03%以上</small>	0.09	0.07	0.11	0.09	0.07	0.09
	陽 性 反 応 適 中 度(%) K=I/E <small>指標：許容値1.3%以上</small>	2.0	1.5	2.5	1.8	1.4	1.9
確 定 調 査 結 果	確 定 がん 数(人) L	55	49	69	61	54	62
	上記のうち原発性肺がん数(人) M	52	41	65	55	49	58
	確 定 がん 率(%) N=L/B	0.12	0.11	0.15	0.13	0.11	0.12

- * 1 精密検査結果中の () 内の数値はがん疑いの者の数を外数で計上
- * 2 がん発見率及び陽性反応適中度は、平成18年度報告から「がん」の者のみを計上
- * 3 陽性反応適中度は、要精検者を分母として算出。
- * 4 確定がん数は、確定調査結果、がんと確定された数を計上
- * 5 要精検者数 (E)、精検受診者数 (G)、肺がんの者 (I)、確定がん数 (L) については、E判定者を計上



(2) 平成25年度肺がん検診結果

1) 一次検診結果 (年齢階級別)

a. X線検査結果

年 齢	対象者数 (人) a		胸 部 エ ッ ク ス 線 検 査										エックス線フィルム読影結果					
			一次検診 受診者数 b		受診率 (%) c = b/a			経年受診者数 再掲※ d		経年受診 者 割 合 (%) e = d/b		要精検者数 f		異常認めず		要精検率 (%) g = f/b		
	男	女	男	女	男	女	計	男	女			男	女	区分	女	男	女	計
40～44歳	2,158	4,048	572	1,056	26.5	26.1	26.2	178	381	31.1	36.1	12	15	560	1,041	2.10	1.42	1.66
45～49歳	2,326	3,853	431	925	18.5	24.0	21.9	218	472	50.6	51.0	12	23	419	902	2.78	2.49	2.58
50～54歳	3,058	4,974	552	1,277	18.1	25.7	22.8	294	702	53.3	55.0	19	35	533	1,242	3.44	2.74	2.95
55～59歳	4,908	8,189	999	2,070	20.4	25.3	23.4	547	1,185	54.8	57.2	41	57	958	2,013	4.10	2.75	3.19
60～64歳	9,854	13,797	2,777	4,559	28.2	33.0	31.0	1,617	2,894	58.2	63.5	141	156	2,636	4,403	5.08	3.42	4.05
65～69歳	11,061	14,574	4,194	5,820	37.9	39.9	39.1	2,729	4,079	65.1	70.1	226	217	3,968	5,603	5.39	3.73	4.42
70～74歳	11,588	16,049	3,978	5,702	34.3	35.5	35.0	2,864	4,221	72.0	74.0	226	260	3,752	5,442	5.68	4.56	5.02
75～79歳	11,797	17,672	3,244	4,702	27.5	26.6	27.0	2,377	3,375	73.3	71.8	199	241	3,045	4,461	6.13	5.13	5.54
80歳以上	15,558	35,092	3,089	4,622	19.9	13.2	15.2	2,241	3,265	72.5	70.6	214	250	2,875	4,372	6.93	5.41	6.02
計	72,308	118,248	19,836	30,733	27.4	26.0	26.5	13,065	20,574	65.9	66.9	1,090	1,254	18,746	29,479	5.50	4.08	4.64
合計	190,556		50,569		26.5			33,639		66.5		2,344		48,225		4.64		

※経年受診者：昨年度も肺がん検診を受診した者

b. 喀痰細胞診結果

年 齢	X線検査受診者中 高危険群所属者 (人)		喀痰細胞診 受診者数 h		喀痰細胞診結果					
					要精検者数 i		精 検 不 要		要精検率 (%) j = i/h	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
40～44歳	13	10	22	4	0	0	22	4	0.00	0.00
45～49歳	27	6	30	6	0	0	30	6	0.00	0.00
50～54歳	162	24	67	10	0	0	67	10	0.00	0.00
55～59歳	364	33	116	10	0	0	116	10	0.00	0.00
60～64歳	1,210	72	427	25	1	0	426	25	0.23	0.00
65～69歳	1,760	104	645	40	0	0	645	40	0.00	0.00
70～74歳	1,438	87	505	41	0	0	505	41	0.00	0.00
75～79歳	961	42	365	24	1	0	364	24	0.27	0.00
80歳以上	852	44	260	13	0	0	260	13	0.00	0.00
計	6,787	422	2,437	173	2	0	2,435	173	0.08	0.00
合 計	7,209		2,610		2		2,608		0.08	

※高危険群所属者＝肺がんX線検査対象者のうち、問診の結果、原則として次のいずれかの条件に該当する者

- ①年齢50歳以上で喫煙指数（1日本数×年数）600以上の者
- ②6か月以内に血痰のあった者

2) 精密検査結果 (年齢階級別)

年 齢	要精検者数 (人)		精密検査 受診者数		精密検査受診率 (%)			精 密 検 査 結 果								肺がん発見率 (%)			陽性反応適中度 (%)		
	k		l		m=l/k			異常認めず		その他疾病		肺がん疑い		肺がん		o=n/b			p=n/k		
	男	女	男	女	男	女	計	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女	計
40～44歳	12	15	8	13	66.7	86.7	77.8	7	5	1	6	0	2	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
45～49歳	12	23	11	22	91.7	95.7	94.3	7	16	4	5	0	1	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
50～54歳	19	35	16	29	84.2	82.9	83.3	11	21	4	8	0	0	1	0	0.181	0.000	0.055	5.3	0.0	1.9
55～59歳	41	57	32	52	78.0	91.2	85.7	16	31	15	21	0	0	1	0	0.100	0.000	0.033	2.4	0.0	1.0
60～64歳	142	156	122	141	85.9	90.4	88.3	66	64	49	74	6	3	1	0	0.036	0.000	0.014	0.7	0.0	0.3
65～69歳	226	217	202	201	89.4	92.6	91.0	99	97	93	96	2	4	8	4	0.191	0.069	0.120	3.5	1.8	2.7
70～74歳	226	260	205	242	90.7	93.1	92.0	92	101	100	122	8	10	5	9	0.126	0.158	0.145	2.2	3.5	2.9
75～79歳	199	241	166	218	83.4	90.5	87.3	56	78	98	128	6	7	6	5	0.185	0.106	0.138	3.0	2.1	2.5
80歳以上	214	250	176	206	82.2	82.4	82.3	61	93	101	103	10	9	4	1	0.129	0.022	0.065	1.9	0.4	1.1
計	1,091	1,254	938	1,124	86.0	89.6	87.9	415	506	465	563	32	36	26	19	0.131	0.062	0.089	2.4	1.5	1.9
合計	2,345		2,062		87.9			921		1,028		68		45		0.089			1.9		
X線のみ要精検	2,343		2,062		88.0			921		1,028		68		45		/			1.9		
喀痰のみ要精検	1		0		0.0			0		0		0		0					0.0		
X線+喀痰要精検	1		0		0.0			0		0		0		0					0.0		

3) 検診機関別

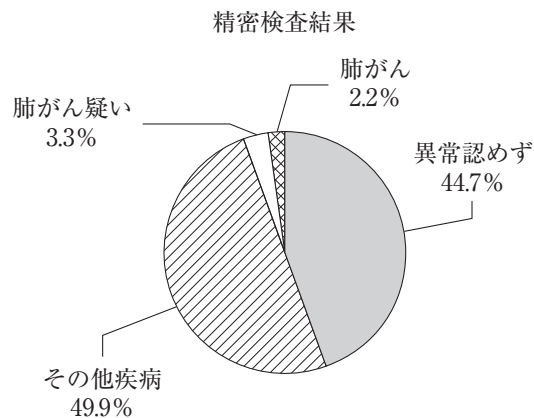
a. 一次検診結果 (X線検査)

一 次 検 診 機 関	胸部エックス線検査				エックス線フィルム読影結果							X線検査受診 者中高危険群 所 属 者	
	受診者数 (人)		経年受診者数再掲		要精検者数		異常認めず		要精検率 (%)				
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女
保 健 事 業 団	9,871	16,863	6,326	11,033	444	562	9,427	16,301	4.50	3.33	3.76	3,407	127
中国労働衛生協会	330	489	264	400	27	23	303	466	8.18	4.70	6.11	37	0
病 院	3,263	4,423	2,053	2,871	219	247	3,044	4,176	6.71	5.58	6.06	1,089	102
診 療 所	6,372	8,958	4,422	6,270	400	422	5,972	8,536	6.28	4.71	5.36	2,254	193
計	19,836	30,733	13,065	20,574	1,090	1,254	18,746	29,479	5.50	4.08	4.64	6,787	422
合 計	50,569		33,639		2,344		48,225		4.64			7,209	

一次検診機関	喀痰細胞診 受診者数 (人) d'		喀痰細胞診結果						X線・喀 痰細胞診 ともに要 精検査数 g'		一次検診総合結果				
			要精検査者数 e'		精検不要		要精検査率 (%) f' = e'/d'				要精検査者数 h' = (b' + e') - g'		要精検査率 (%) i' = h'/a'		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計		
保健事業団	941	91	1	0	940	91	0.11	0.00	0	0	445	562	4.51	3.33	3.77
中国労働衛生協会	33	0	1	0	32	0	3.03	0.00	1	0	27	23	8.18	4.70	6.11
病院	457	24	0	0	457	24	0.00	0.00	0	0	219	247	6.71	5.58	6.06
診療所	1,006	58	0	0	1,006	58	0.00	0.00	0	0	400	422	6.28	4.71	5.36
計	2,437	173	2	0	2,435	173	0.08	0.00	1	0	1,091	1,254	5.50	4.08	4.64
合計	2,610		2		2,608		0.08		1		2,345		4.64		

b. 精密検査結果

一次検診 機 関	要精検査者数 (人) h'		精密検査 受診者数 j'		精密検査受診率 (%) k' = j'/h'			精 密 検 査 結 果								肺がん発見率 (%) m' = l'/a'			陽性反応適中度 (%) n' = l'/h'		
								異常認めず		その他疾病		肺がん疑い		肺がん l'							
	男	女	男	女	男	女	計	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女	計
保健事業団	445	562	361	490	81.1	87.2	84.5	141	230	188	229	18	22	14	9	0.142	0.053	0.086	3.1	1.6	2.3
中国労働衛生協会	27	23	21	20	77.8	87.0	82.0	8	4	10	12	2	2	1	2	0.303	0.409	0.366	3.7	8.7	6.0
病院	219	247	184	222	84.0	89.9	87.1	84	90	93	124	4	3	3	5	0.092	0.113	0.104	1.4	2.0	1.7
診療所	400	422	372	392	93.0	92.9	92.9	182	182	174	198	8	9	8	3	0.126	0.033	0.072	2.0	0.7	1.3
計	1,091	1,254	938	1,124	86.0	89.6	87.9	415	506	465	563	32	36	26	19	0.131	0.062	0.089	2.4	1.5	1.9
合計	2,345		2,062		87.9			921		1,028		68		45		0.089			1.9		



4) 平成25年度肺がん検診受診状況

市町村名	受診者数				要精検者数				精密検査結果別人員								
	対象者数 A	車検 B	施設検診 C	計 D=B+C	受診率 (%) E=D/A	車検 F	施設検診 G	計 H=F+G	要精検率 (%) I=H/D	精検受診 者数 J	精検受診率 (%) K=J/H	異 認め ず L	常 その 他の 疾 病 M	がん 疑 い が O	人 有 所 見 者 P=M+N+O	がん 発 見 率 (%) Q=O/D	陽 性 反 応 適 中 度 (%) R=O/H
鳥取市	57,433	3,215	13,715	16,930	29.5	92	641	733	4.33	675	92.1	292	347	17	383	0.100	2.3
米子市	42,442	4,178	4,460	8,638	20.4	173	344	517	5.99	485	93.8	245	226	6	240	0.069	1.2
倉吉市	17,700	1,583	1,431	3,014	17.0	47	80	127	4.21	113	89.0	51	58	3	62	0.100	2.4
境港市	11,307	1,153	260	1,413	12.5	56	11	67	4.74	63	94.0	24	33	5	39	0.071	1.5
岩美町	4,844	1,199	0	1,199	24.8	35	0	35	2.92	33	94.3	20	11	1	13	0.083	2.9
八頭町	6,534	2,588	272	2,860	43.8	61	12	73	2.55	58	79.5	23	31	2	35	0.070	2.7
若桜町	1,776	388	216	604	34.0	7	14	21	3.48	18	85.7	12	5	1	6	0.166	4.8
智頭町	3,263	391	512	903	27.7	12	19	31	3.43	29	93.5	14	10	4	15	0.111	3.2
湯梨浜町	5,964	1,531	686	2,217	37.2	59	49	108	4.87	102	94.4	44	53	4	58	0.045	0.9
三朝町	2,767	1,075	114	1,189	43.0	37	5	42	3.53	31	73.8	7	23	1	24	0.000	0.0
北栄町	5,729	1,928	249	2,177	38.0	65	10	75	3.45	60	80.0	23	34	3	37	0.000	0.0
琴浦町	7,221	2,295	115	2,410	33.4	76	10	86	3.57	72	83.7	28	38	3	44	0.124	3.5
南部町	4,221	680	986	1,666	39.5	35	93	128	7.68	96	75.0	43	47	5	53	0.060	0.8
伯耆町	4,533	1,509	0	1,509	33.3	112	0	112	7.42	74	66.1	39	29	3	35	0.199	2.7
日吉津村	995	222	0	222	22.3	15	0	15	6.76	12	80.0	7	3	0	5	0.901	13.3
大山町	7,503	1,913	0	1,913	25.5	82	0	82	4.29	63	76.8	17	44	2	46	0.000	0.0
日南町	2,966	586	0	586	19.8	30	0	30	5.12	28	93.3	15	12	1	13	0.000	0.0
日野町	1,783	363	0	363	20.4	14	0	14	3.86	10	71.4	5	3	2	5	0.000	0.0
江府町	1,575	756	0	756	48.0	49	0	49	6.48	40	81.6	12	21	4	28	0.397	6.1
合計	190,556	27,553	23,016	50,569	26.5	1,057	1,288	2,345	4.64	2,062	87.9	921	1,028	45	1,141	0.089	1.9
東部	73,850	7,781	14,715	22,496	30.5	207	686	893	3.97	813	91.0	361	404	22	452	0.098	2.5
中部	39,381	8,412	2,595	11,007	28.0	284	154	438	3.98	378	86.3	153	206	7	225	0.064	1.6
西部	77,325	11,360	5,706	17,066	22.1	566	448	1,014	5.94	871	85.9	407	418	16	464	0.094	1.6

(3) 平成25年度肺がん検診発見がん患者の予後調査の確定について

肺がん確定診断（原発性1146、転移性133） 1,279例

他部位癌（鼻腔1、咽頭2、喉頭3、悪性中皮腫1、その他5） 12例

総 計 1,293例

1) 肺がん確定診断

(単位：例)

	62年	63年	平成元年	平成2年	平成3年	平成4年	平成5年	平成6年	平成7年	平成8年
原発性肺癌	6	22	18	32	36	37	41	22	38	38
転移性肺腫瘍	0	4	4	4	7	9	3	5	5	4
合 計	6	26	22	36	43	46	44	27	43	42

	平成9年	平成10年	平成11年	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年
原発性肺癌	53	40	41	42	30	48	65	50	57	62
転移性肺腫瘍	2	7	7	6	7	6	3	2	5	6
合 計	55	47	48	48	37	54	68	52	62	68

	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	合計
原発性肺癌	48	52	41	65	55	49	58	1,146
転移性肺腫瘍	7	3	8	4	6	5	4	133
合 計	55	55	49	69	61	54	62	1,279

2) 原発性肺がん診断方法

				〔H25年度集計〕			
胸 X 間 接	Dのみ	245例	} 1,047例(91.4%)	Dのみ	0例	} 58例(100.0%)	(E1:42例、E2:14例、E:2例)、
	Eのみ	802例		Eのみ	58例		
細 胞 診	Dのみ	19例	} 53例(4.6%)	Dのみ	0例	} 0例(0.0%)	
	Eのみ	34例		Eのみ	0例		
胸X線間接と細胞診	D + D	10例	} 44例(3.8%)	D + D	0例	} 0例(0.0%)	
	D + E	9例		D + E	0例		
	E + D	6例		E + D	0例		
	E + E	19例		E + E	0例		
	不明	2例	} 2例(0.2%)	不明	0例	} 0例(0.0%)	
計 1,146例				計 58例			

3) 精密検診受診・原発性肺癌発見の状況

年	受診者 (人)	要精検者 (人)	精検受診者 (人)	肺癌発見者 (人)	発見者 (対人口10万)
S 62	16,420	745(4.54%)	652(87.5%)	6	37
S 63	38,445	65(0.17%)	60(92.3%)	22	57
H 1	52,473	117(0.22%)	107(91.5%)	18	34
H 2	68,374	153(0.22%)	132(86.3%)	32	49
H 3	70,189	95(0.14%)	89(93.7%)	36	51
H 4	69,909	133(0.19%)	111(83.5%)	37	53
H 5	69,027	133(0.19%)	98(72.9%)	41	59
H 6	66,316	103(0.16%)	89(86.4%)	22	33
H 7	65,226	162(0.25%)	135(83.3%)	38	58
H 8	64,169	114(0.18%)	91(79.8%)	38	59
H 9	67,092	152(0.23%)	123(80.9%)	53	79
H10	64,540	137(0.21%)	111(81.0%)	40	62
H11	64,845	169(0.26%)	142(84.0%)	41	64
H12	62,837	311(0.49%)	242(77.8%)	42	67
H13	62,631	216(0.34%)	152(70.4%)	30	48
H14	63,616	343(0.54%)	271(79.0%)	48	75
H15	63,649	640(1.01%)	489(76.4%)	65	102
H16	60,113	1,791(2.98%)	1,433(80.0%)	50	83
H17	51,020	1,659(3.25%)	1,409(84.9%)	57	112
H18	49,296	1,780(3.61%)	1,505(84.6%)	62	126
H19	49,806	1,940(3.90%)	1,656(85.4%)	48	96
H20	46,015	2,041(4.44%)	1,799(88.1%)	52	113
H21	46,247	2,122(4.59%)	1,888(89.0%)	41	89
H22	45,482	2,004(4.41%)	1,767(88.2%)	65	142
H23	48,513	2,467(5.09%)	2,208(89.5%)	55	113
H24	50,376	2,460(4.88%)	2,201(89.5%)	49	97
H25	50,569	2,345(4.64%)	2,062(87.9%)	58	115
計	1,527,195	24,397(1.60%)	21,022(86.2%)	1,146	75

4) 原発性肺癌 (1,146例)

(1) 年齢・性別

[H25年度集計]

区分	原発性肺癌	比率 (%)
～59歳	75例	6.6
60～69歳	348	30.3
70～79歳	535	46.7
80～	188	16.4
計	1,146	100.0

平均年齢=71.9
男：女=677例：469例

区分	原発性肺癌	比率 (%)
～59歳	2例	3.4
60～69歳	16	27.6
70～79歳	35	60.4
80～	5	8.6
計	58	100.0

平均年齢=71.7
男：女=32例：26例

(2) 原発性肺癌の臨床病期と組織型

a. 病期分類

[H25年度集計]

臨床病期	(%)
Occult	2例
I A	470(41.0)
I B	182
II A	41
II B	66
III A	146
III B	73
IV	138
不明	28
計	1,146

臨床病期	(%)
Occult	0
I A	28(48.3)
I B	9
II A	5
II B	1
III A	4
III B	2
IV	9
不明	0
計	58

} 37
(63.8%)

b. 組織型

〔H25年度集計〕

組織型	(%)
扁平上皮癌	268例
腺癌	692(60.3)
大細胞癌	16
小細胞癌	65
腺扁平上皮癌	12
腺様嚢胞癌	1
カルチノイド	1
不明	93
計	1,148*

組織型	(%)
扁平上皮癌	10例
腺癌	39(67.2)
大細胞癌	1
小細胞癌	2
腺扁平上皮癌	1
腺様嚢胞癌	0
カルチノイド	1
不明	4
計	58

* 2例：扁平上皮癌と腺癌、腺癌と大細胞癌の同時多発癌を含む

(3) 原発性肺癌の手術症例

〔H25年度集計〕

(712例、手術率：62.1%)

原発性肺癌の手術症例

a. 臨床病期、術後病期

(42例、手術率：72.4%)

臨床病期 (%)		術後病期 (%)	
Occult	2例	Occult	2例
I A	408(57.3)	I A	358(50.3)
I B	145	I B	163
II A	25	II A	30
II B	40	II B	45
III A	71	III A	74
III B	14	III B	23
IV	7	IV	17
計	712	計	712

臨床病期 (%)		術後病期 (%)	
Occult	0例	Occult	0例
I A	26(61.9)	I A	22(52.4)
I B	8	I B	11
II A	4	II A	5
II B	1	II B	2
III A	3	III A	2
III B	0	III B	0
IV	0	IV	0
計	42	計	42

} 33
(78.6%)

b. 組織型分類

〔25年度集計〕

組織型	(%)
扁平上皮癌	150例
腺癌	512(71.9)
大細胞癌	13
小細胞癌	7
腺扁平上皮癌	13
腺様嚢胞癌	1
カルチノイド	1
不明	15
計	712

組織型	(%)
扁平上皮癌	8例
腺癌	30(71.4)
大細胞癌	1
小細胞癌	0
腺扁平上皮癌	1
腺様嚢胞癌	0
カルチノイド	1
不明	1
計	42

(4) 腫瘍径

腫瘍径 (mm)	H10年度 (%)	H11年度 (%)	H12年度 (%)	H13年度 (%)	H14年度 (%)	H15年度 (%)	H16年度 (%)	H17年度 (%)	H18年度 (%)	H19年度 (%)
0～10	1	2	1	0	2	1	2	4	2	4
11～20	9(22.5)	10	15(35.7)	11(36.7)	17(35.4)	11	17(34.7)	11	26(41.9)	14(31.8)
21～30	6	15(36.6)	7	6	13	13	10	16(28.6)	15	18
31～40	6	9	8	9	8	17(26.2)	12	11	10	5
41～50	7	1	3	1	3	8	4	4	2	3
51～	7	2	6	3	3	13	5	6	4	1
不明	4	2	2	0	2	2	0	5	3	3
計	40	41	42	30	48	65	50	57	62	48
平均	37.1mm	27.9mm	32.2mm	33.5mm	28.8mm	38.7mm	29.6mm	30.6mm	26.0mm	24.6mm
	最高90mm	70mm	80mm	100mm	85mm	145mm	70mm	85mm	59mm	57mm

腫瘍径 (mm)	H20年度 (%)	H21年度 (%)	H22年度 (%)	H23年度 (%)	H24年度 (%)	H25年度 (%)
0～10	3	2	2	1	4	3
11～20	21(40.4)	10	13	16(29.1)	14(28.6)	16
21～30	6	13(31.7)	26(40)	16(29.1)	13	20(34.5)
31～40	14	8	15	6	8	8
41～50	5	6	6	4	6	5
51～	1	2	2	11	2	6
不明	2	0	1	1	2	0
計	52	41	65	55	49	58
平均	26.1mm	25.9mm	29.4mm	33.2mm	28.4	28.3mm
	最高71mm	68mm	80mm	90mm	100mm	60mm

5) 転移性肺腫瘍 (133例)

大腸癌：30例 甲状腺癌：10例 腎臓癌：11例 乳癌：13例 前立腺癌：13例
 肝臓癌：9例 胃癌：6例 子宮癌：5例 胆管癌：4例 膵臓癌：4例
 尿管管：4例 胆のう癌：3例 肺癌：2例 食道癌：2例 卵巣癌：2例
 膀胱癌：2例 子宮肉腫：1例 胸腺癌：1例 肛門癌：1例 顎下腺：1例
 咽頭癌：1例 後腹膜腫瘍：1例 不明：7例

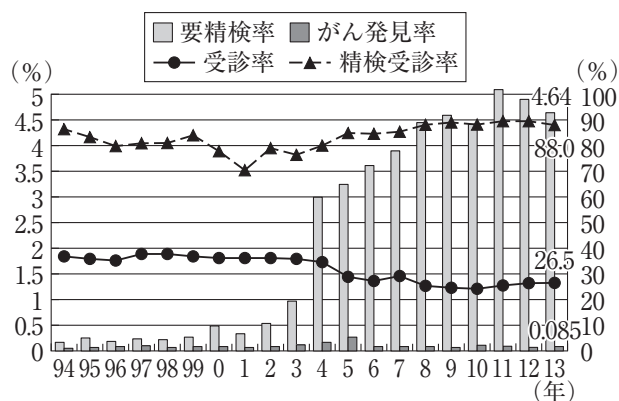
〔H25年度集計〕(4例)

子宮癌：2例 前立腺癌：1例 胃癌：1例

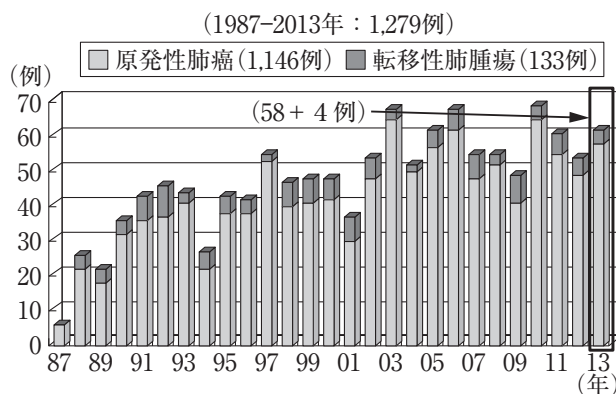
6) 平成25年度原発性肺がん確定者の施設検診と車検診の比較

	施設検診	車検診
受診者数	23,106	27,553
要精検数	1,288 (5.6%) 東部: 686 (4.7%) 中部: 154 (5.9%) 西部: 448 (7.9%)	1,057 (3.8%) 東部: 207 (2.7%) 中部: 284 (3.4%) 西部: 566 (5.0%)
確定者数	30名 (0.130%) (東部22、中部3、西部5)	28名 (0.102%) (東部5、中部7、西部16)
発見方法	E1判定 19名 E2判定 11名	E1判定 23名 E2判定 3名 E判定 2名
年齢	70.5歳	73.0歳
性差	男18名、女12名	男14名、女14名
臨床病期	I A 12名、I B 5名 II A 2名、II B 0名 III A 4名、III B 2名 IV 5名	I A 16名、I B 4名 II A 3名、II B 1名 III A 0名、III B 0名 IV 4名、不明 0名
組織型	扁平上皮7名、腺癌19名 大細胞癌0名、小細胞癌1名 不明3名	扁平上皮癌3名、腺癌20名 腺扁平上皮癌1名、大細胞癌1名、 小細胞癌1名、カルチノイド1名 不明1名
手術	あり19名、なし11名	あり23名、なし5名
腫瘍径	28.3mm	28.2mm

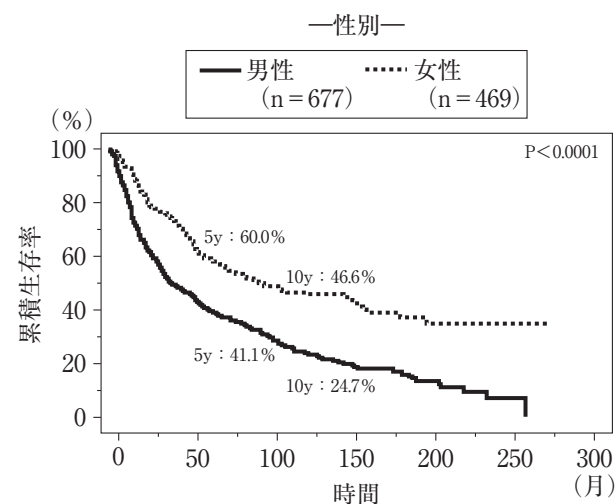
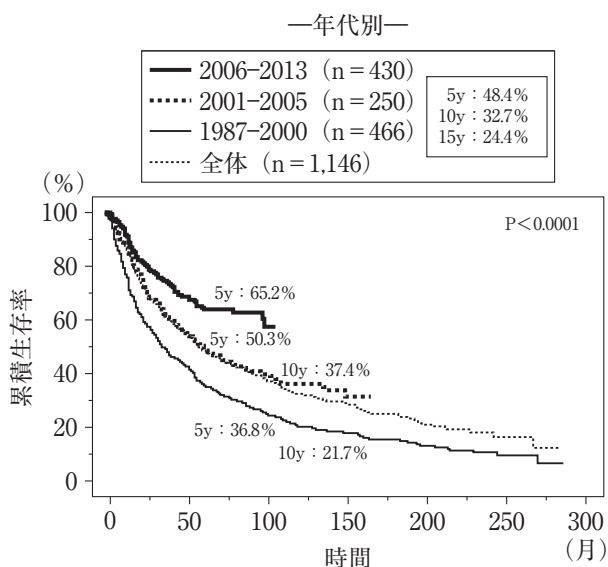
7) 肺癌検診の受診率・精検率・がん発見率の推移



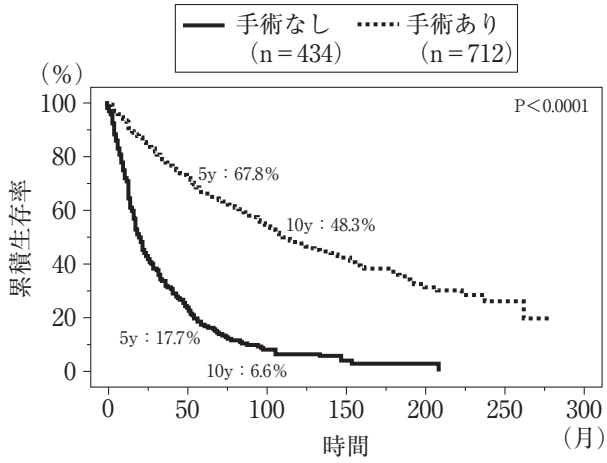
8) 検診で発見された肺癌の推移



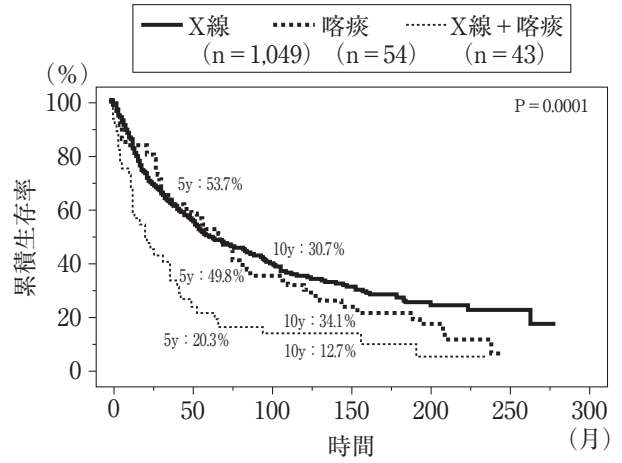
9) 検診発見肺癌の予後



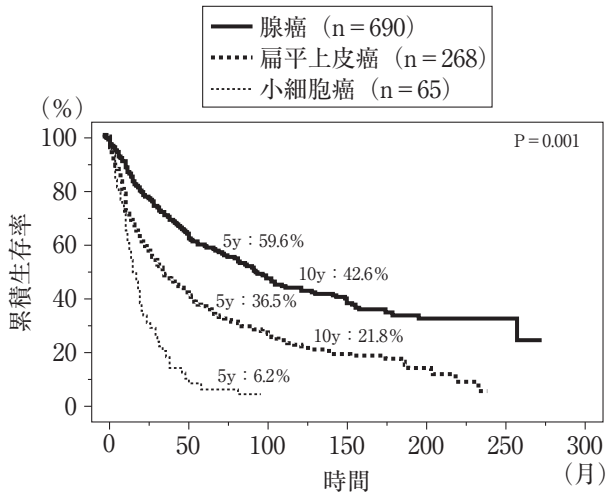
—手術の有無別—



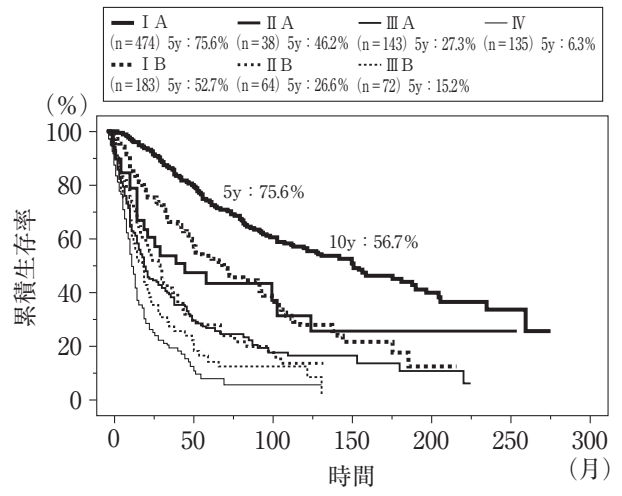
—発見方法別—



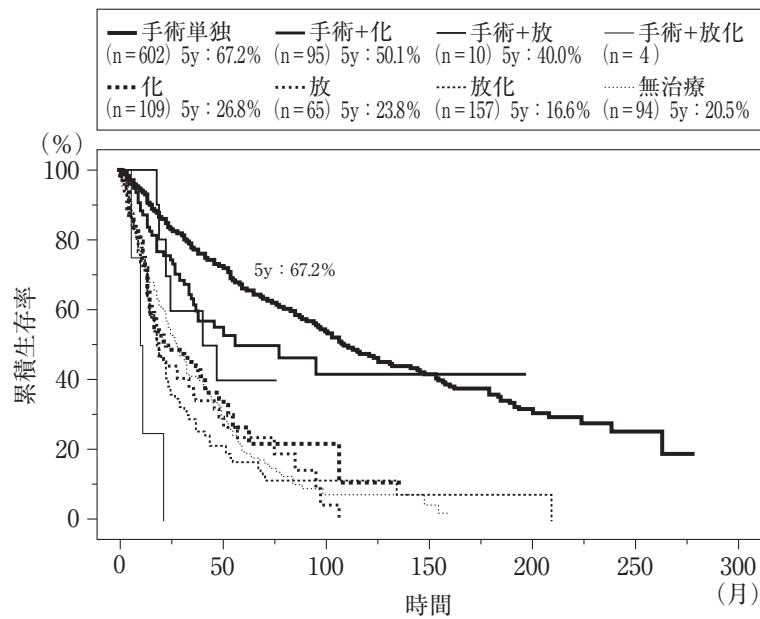
—組織型別—



—臨床病期別—

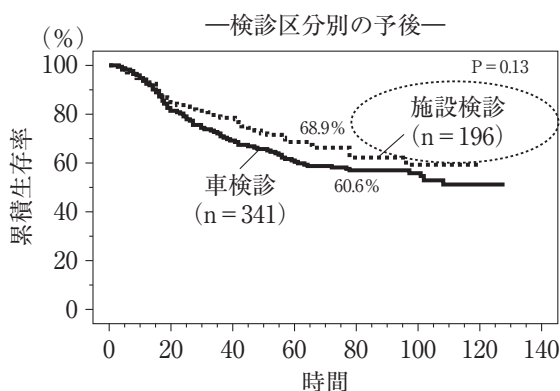


—治療法別—



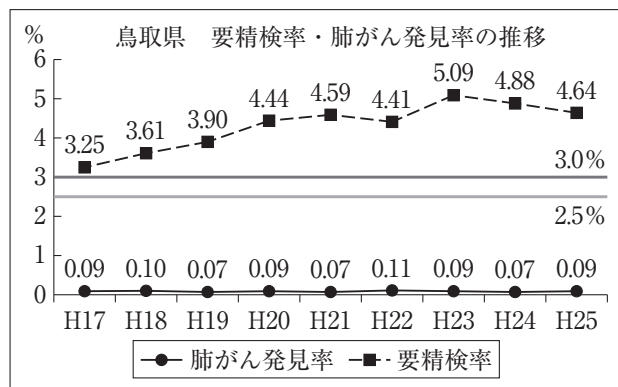
10) 原発性肺がん確定者の施設検診と車検診の比較（平成16年度～平成25年度）

	施設検診	車検診	P値
症例数	196	341	
年齢	71.5 (42-87) 歳	73.2 (52-92) 歳	ns
性差	男性；89；女性；107	男性；197；女性；144	0.0075
組織型	腺癌；141, 扁平上皮癌；21, 小細胞癌；11, その他；23	腺癌；236, 扁平上皮癌；50, 小細胞癌；16, その他；39	ns
腫瘍径	27.8 (3-100) mm	29.2 (5-85) mm	ns
臨床病期	IA；100, IB；33, IIA；6, IIB；6, IIIA；17, IIIB；8, IV；25, 不明；1	IA；158, IB；53, IIA；13, IIB；15, IIIA；36, IIIB；25, IV；38, 不明；3	ns
手術有無	あり；136, なし；59, 不明；1	あり；232, なし；109	ns



11) 要精検率：許容値3.0%以下

H21年度	許容値	全国平均	滋賀県	福井県	鳥取県
要精検率 (%)	3.0	2.5	0.3	5.4	4.1
がん発見率 (%)	0.03	0.04	0.03	0.07	0.06
陽性反応適中度 (%)	1.30	1.74	11.11	1.33	1.51



12) 要精検率に影響を与える因子

- ① 初回受診
- ② 比較読影
- ③ X線の精度
- ④ 年齢
- ⑤ 性別
- ⑥ 喫煙歴
- ⑦ 読影医
- ⑧ 検診種類別

検診は無症状の健康人を対象にするため、不利益にならないようにすることも大切！

4. 乳 がん 検 診

1. 乳がん検診実績

平成25年度の対象者数（40歳以上のうち職場等で受診機会のない者として市町村が把握している人数）は118,248人で、受診者数は18,715人、受診率15.8%で前年度より0.7ポイント増加した。2年合わせた平成25年度の最終受診率は29.6%であった。

要精検者数1,292人、要精検率6.90%で前年度より0.47ポイント減少した。精検受診者数1,184人、精検受診率は91.6%で、前年度より0.6ポイント減少した。

精検の結果、乳がん74人、がん発見率（がん/受診者数）0.40%、陽性反応適中度（がん/要精検者数）5.73%であった。がん疑いは2人発見された。平成24年度に比べ、がん発見率は0.04ポイント、陽性反応適中度は0.21ポイント減少した。

国の目標値は検診受診率を50%と設定しており、この数値には到達しないものの、鳥取県の実績は、国の定めた要精検率の許容値11.0%以下、精検受診率90%以上、検診発見がん率0.23%以上、陽性反応適中度2.5%以上をいずれも達成している。しかし、精検受診率がわずかながら低下してきており、受診勧奨が必要であると考えられる。

圏域別では受診率は地域による差は見られず、要精検率が東部6.86%、中部8.11%、西部6.33%と例年と同様に中部が高い傾向であった。がん発見率は東部0.43%、中部0.35%、西部0.39%で、地域差は認めなかった。

なお、視触診のみ受診者数は9人で、そのうち、要精検者数は4人であり、精密検査の結果、乳がんであった者は0人だった。

〈検診機関別結果〉

(1) 一次検診（視触診、マンモグラフィ併用）

区 分	受診者数(率)	要精検者数	要精検率(%)
車 検 診 (医師雇上、保健事業団、中国労働衛生協会)	8,581 (45.9%)	504	5.87
施 設 検 診 (病院、診療所)	10,134 (54.1%)	788	7.78
計	18,715 (100%)	1,292	6.90

(2) 精密検査

区 分	精 検 受診者数	精検受診率 (%)	が ん	がん発見率 (%)
車 検 診	455	90.3	28	0.33
施 設 検 診	729	92.5	46	0.45
計	1,184	91.6	74	0.40

〈圏域別結果〉

(1) 視触診・マンモグラフィ併用

区 分	対象者数	受診者数	受診率 (%)	要精検 者 数	要精検率 (%)	精 検 受診者数	精検受診率 (%)	が ん	がん発見率 (%)
東 部	45,833	7,053	15.39	484	6.86	439	90.7	30	0.43
中 部	23,902	3,948	16.52	320	8.11	283	88.4	14	0.35
西 部	48,513	7,714	15.90	488	6.33	462	94.7	30	0.39
計	118,248	18,715	15.83	1,292	6.90	1,184	91.6	74	0.40

(2) 視触診のみ (参考)

区 分	対象者数	受診者数	受診率 (%)	要精検 者 数	要精検率 (%)	精 検 受診者数	精検受診率 (%)	が ん	がん発見率 (%)
東 部	45,833	0	0.00	0	0.00	0	0	0	0.00
中 部	23,902	8	0.03	3	37.50	0	0	0	0.00
西 部	48,513	1	0.002	1	100.00	1	100	0	0.00
計	118,248	9	0.007	4	44.44	1	25.0	0	0.00

2. 乳がん検診発見乳がん確定調査結果

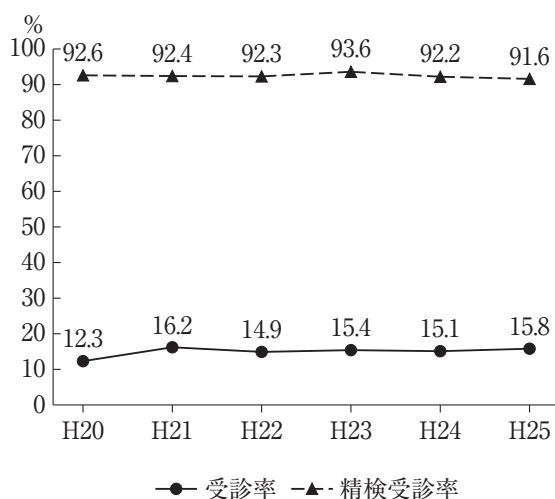
平成25年度に発見された乳がんまたは乳がん疑い76例について確定調査を行った結果、確定乳癌72例あった。このうち非浸潤癌は10例であった。平均年齢は60.7歳で、前年度とほぼ同様の結果であった。早期癌の割合は62.5%であり、検診受診間隔と早期癌の比率に関しては差を認めなかった。StageⅣの進行癌患者1名も認めており、初回受診者の掘り起こしも課題であると考えられた。

(1) 乳がん検診の受診者数及び受診率の推移

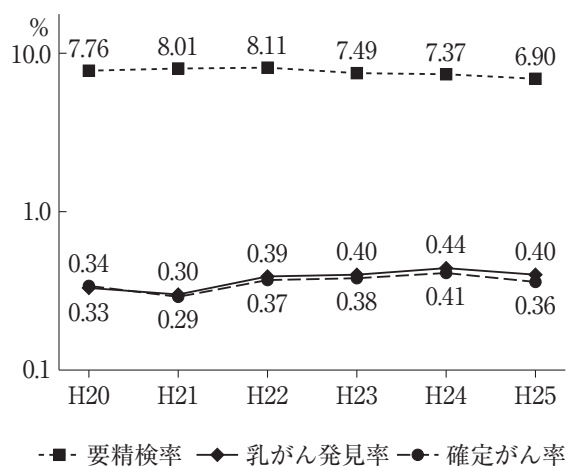
区 分		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
一 次 検 診	対 象 者 数(人) A	118,676	118,676	118,676	118,248	118,248	118,248
	受 診 者 数(人) B	14,624	19,278	17,726	18,194	17,818	18,715
	受 診 率(%)C = B / A	24.0 12.3	27.7 16.2	30.1 14.9	29.3 15.4	28.1 15.1	29.6 15.8
一 次 検 診 結 果	異 常 認 め ず(人) D	13,489	17,734	16,288	16,832	16,504	17,423
	要 精 検 者 数(人) E	1,135	1,544	1,438	1,362	1,314	1,292
	要 精 検 率(%)F = E / B 指標 11.0%以下	7.76	8.01	8.11	7.49	7.37	6.90
精 密 検 査	精 検 受 診 者 数(人) G	1,051	1,427	1,327	1,275	1,211	1,184
	精 検 受 診 率(%)H = G / E	92.6	92.4	92.3	93.6	92.2	91.6
精 密 検 査 結 果	乳 が ん の 者(人) I	48(4)	57(1)	70(2)	72(3)	78(1)	74(2)
	乳 が ん 発 見 率(%)J = I / B 指標 0.23%以上	0.33	0.30	0.39	0.40	0.44	0.40
	陽 性 反 応 適 中 度(%)K = I / E 指標 2.5%以上	4.23	3.69	4.87	5.29	5.94	5.73
確 定 調 査 結 果	確 定 が ん 数(人) L	49(52)	56	65	69(70)	73	67
	確 定 が ん 率(%)M = L / B	0.34	0.29	0.37	0.38	0.41	0.36

- * 1 精密検査結果欄の()内の数値はがん疑いの者の数を外数で計上
- * 2 がん発見率及び陽性反応適中度は、平成18年度報告から「がん」の者のみを計上
- * 3 陽性反応適中度は、要精検者を分母として算出。
- * 4 平成19年度報告より、視触診のみの受診者数を除く受診結果を計上
- * 5 確定がん数は、検診により発見された「がん」又は「がん疑い」の者を調査により計上。平成20年度報告より、視・マンモ併用検診で発見された数。()内の数値は、視触診のみ検診で発見された数を含んだ数。

受診率・精検受診率の推移



要精検率・乳がん発見率・確定がん率の推移



(2) 平成25年度乳がん検診結果（視触診及びマンモグラフィ併用）

1) 一次検診結果（年齢階級別）

年齢	対象者数 (人) a	一次検診 受診者数 b	受診率 (%) c = b/a	一次検診結果		要精検率 (%) e = d/b	視触診のみ要精検		マンモグラフィのみ要精検		視触診・マンモとも要精検	
				要精検者数 d	異常認めず		要精検者数 f	要精検率 (%) g = f/b	要精検者数 h	要精検率 (%) i = h/b	要精検者数 j	要精検率 (%) k = j/b
40～44歳	4,048	2,227	55.0	242	1,985	10.87	67	3.01	157	7.05	18	0.81
45～49歳	3,853	1,799	46.7	178	1,621	9.89	50	2.78	112	6.23	16	0.89
50～54歳	4,974	2,252	45.3	175	2,077	7.77	35	1.55	124	5.51	16	0.71
55～59歳	8,189	2,222	27.1	146	2,076	6.57	21	0.95	108	4.86	17	0.77
60～64歳	13,797	3,579	25.9	219	3,360	6.12	32	0.89	177	4.95	10	0.28
65～69歳	14,574	2,587	17.8	148	2,439	5.72	24	0.93	114	4.41	10	0.39
70～74歳	16,049	2,271	14.2	110	2,161	4.84	23	1.01	79	3.48	8	0.35
75～79歳	18,231	1,184	6.5	46	1,138	3.89	10	0.84	31	2.62	5	0.42
80歳以上	34,533	594	1.7	28	566	4.71	5	0.84	19	3.20	4	0.67
計	118,248	18,715	15.8	1,292	17,423	6.90	267	1.43	921	4.92	104	0.56

2) 精密検査結果 (年齢階級別)

年 齢	精密検査受診者数 l	精密検査受診率(%) m=l/d	精密検査結果				乳がん発見率(%) o=n/b	陽性反応適中度(%) p=n/d
			異常認めず	その他の疾病	乳がん疑い	乳がん n		
40～44歳	220	90.9	111	104	0	5	0.22	2.07
45～49歳	159	89.3	82	67	1	9	0.50	5.06
50～54歳	159	90.9	78	75	0	6	0.27	3.43
55～59歳	133	91.1	73	45	1	14	0.63	9.59
60～64歳	203	92.7	117	73	0	13	0.36	5.94
65～69歳	138	93.2	73	53	0	12	0.46	8.11
70～74歳	106	96.4	68	32	0	6	0.26	5.45
75～79歳	41	89.1	23	13	0	5	0.42	10.87
80歳以上	25	89.3	12	9	0	4	0.67	14.29
計	1,184	91.6	637	471	2	74	0.40	5.73

3) 検診機関別

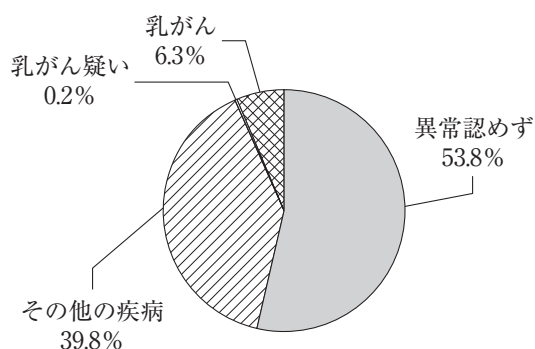
a. 一次検診結果

一次検診機関	一次検診受診者数(人) a'	一次検診結果		要精検率(%) c'=b'/a'	視触診のみ要精検		マンモグラフィのみ要精検		視触診・マンモとも要精検	
		要精検者数 b'	異常認めず		要精検者数 d'	要精検率(%) e'=d'/a'	要精検者数 f'	要精検率(%) g'=f'/a'	要精検者数 h'	要精検率(%) i'=h'/a'
保健事業団	8,525	496	8,029	5.82	71	0.83	398	4.67	27	0.32
病 院	8,210	641	7,569	7.81	172	2.10	407	4.96	62	0.76
診 療 所	1,924	147	1,777	7.64	21	1.09	111	5.77	15	0.78
そ の 他	56	8	48	14.29	3	5.36	5	8.93	0	0.00
計	18,715	1,292	17,423	6.90	267	1.43	921	4.92	104	0.56

b. 精密検査結果

一次検診機関	精密検査受診者数(人) j'	精密検査受診率(%) k'=j'/b'	精密検査結果				乳がん発見率(%) m'=l'/a'	陽性反応適中度(%) n'=l'/b'
			異常認めず	その他の疾病	乳がん疑い	乳がん l'		
保健事業団	448	90.3	249	171	1	27	0.32	5.44
病 院	598	93.3	303	256	1	38	0.46	5.93
診 療 所	131	89.1	80	43	0	8	0.42	5.44
そ の 他	7	87.5	5	1	0	1	1.79	12.50
計	1,184	91.6	637	471	2	74	0.40	5.73

精密検査結果



4) 平成25年度乳がん検診受診状況(視触診及びマンモグラフィ併用)

市町村名	受診者数				要精検者数				精密検査結果別人員									
	対象者数	車検診	施設検診	計	受診率 (%)	車検診	施設検診	計	要精検率 (%)	精 受診者数	精検 率(%)	異常 認めず	その他 の疾病	がん疑い	がん	有所見者	がん発見 率(%)	陽性反応 適中度(%)
A	B	C	D=B+C	E=D/A	F	G	H=F+G	I=H/D	J	K=J/H	L	M	N	O	P=M+N+O	Q=O/D	R=O/H	
鳥取市	35,982	2,074	3,005	5,079	14.1	145	226	371	7.30	340	91.6	195	127	0	18	145	0.35	4.85
米子市	27,227	790	3,394	4,184	15.4	39	245	284	6.79	278	97.9	136	123	0	19	142	0.45	6.69
倉吉市	10,891	705	619	1,324	12.2	48	66	114	8.61	101	88.6	55	40	0	6	46	0.45	5.26
境港市	6,968	404	763	1,167	16.7	11	62	73	6.26	67	91.8	38	27	0	2	29	0.17	2.74
岩美町	2,913	104	415	519	17.8	10	12	22	4.24	18	81.8	3	10	0	5	15	0.96	22.73
八頭町	3,918	734	152	886	22.6	37	13	50	5.64	42	84.0	21	18	0	3	21	0.34	6.00
若桜町	1,071	189	29	218	20.4	10	2	12	5.50	12	100.0	5	5	0	2	7	0.92	16.67
智頭町	1,949	132	219	351	18.0	14	15	29	8.26	27	93.1	19	6	0	2	8	0.57	6.90
湯梨浜町	3,566	499	136	635	17.8	28	22	50	7.87	44	88.0	31	10	1	2	13	0.31	4.00
三朝町	1,666	200	20	220	13.2	19	3	22	10.00	21	95.5	9	11	0	1	12	0.45	4.55
北栄町	3,404	729	110	839	24.6	35	22	57	6.79	51	89.5	27	20	0	4	24	0.48	7.02
琴浦町	4,375	726	204	930	21.3	53	24	77	8.28	66	85.7	39	26	0	1	27	0.11	1.30
南部町	2,567	233	295	528	20.6	13	24	37	7.01	29	78.4	17	9	1	2	12	0.38	5.41
伯耆町	2,798	310	196	506	18.1	15	17	32	6.32	31	96.9	14	14	0	3	17	0.59	9.38
日吉津村	633	80	83	163	25.8	4	5	9	5.52	9	100.0	5	3	0	1	4	0.61	11.11
大山町	4,483	282	267	549	12.2	12	23	35	6.38	30	85.7	14	15	0	1	16	0.18	2.86
日南町	1,773	205	18	223	12.6	6	0	6	2.69	6	100.0	4	1	0	1	2	0.45	16.67
日野町	1,096	185	0	185	16.9	5	0	5	2.70	5	100.0	1	4	0	0	4	0.00	0.00
江府町	968	0	209	209	21.6	0	7	7	3.35	7	100.0	4	2	0	1	3	0.48	14.29
合計	118,248	8,581	10,134	18,715	15.8	504	788	1,292	6.90	1,184	91.6	637	471	2	74	547	0.40	5.73
東部	45,833	3,233	3,820	7,053	15.4	216	268	484	6.86	439	90.7	243	166	0	30	196	0.43	6.20
中部	23,902	2,859	1,089	3,948	16.5	183	137	320	8.11	283	88.4	161	107	1	14	122	0.35	4.38
西部	48,513	2,489	5,225	7,714	15.9	105	383	488	6.33	462	94.7	233	198	1	30	229	0.39	6.15

【参考】

平成25年度乳がん検診（視触診のみ）

1) 一次検診結果（年齢階級別）

年 齢	一 次 検 診 受診者数(人)	一 次 検 診 結 果		要 精 検 率 (%) c = b/a
		要 精 検 者 数	異 常 認 め ず	
40 ~ 44 歳	1	0	1	0.00
45 ~ 49 歳	1	1	0	100.00
50 ~ 54 歳	1	0	1	0.00
55 ~ 59 歳	0	0	0	0.00
60 ~ 64 歳	2	1	1	50.00
65 ~ 69 歳	1	0	1	0.00
70 ~ 74 歳	3	2	1	66.67
75 ~ 79 歳	0	0	0	0.00
80 歳 以 上	0	0	0	0.00
計	9	4	5	44.44

2) 精密検査結果（年齢階級別）

年 齢	精密検査 受診者数	精密検査 受診率(%) e = d/b	精密検査結果				乳 が ん 発見率(%) g = f/a	陽 性 反 応 適中度(%) h = f/d
			異常認めず	その他の疾病	乳がん疑い	乳がん		
40~44歳	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
45~49歳	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
50~54歳	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
55~59歳	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
60~64歳	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
65~69歳	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
70~74歳	1	50.0	0	1	0	0	0.00	0.0
75~79歳	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
80歳以上	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
計	1	25.0	0	1	0	0	0.00	0.0

3) 検診機関別

a. 一次検診結果

一次検診機関	一 次 検 診 受診者数(人)	一 次 検 診 結 果		要 精 検 率 (%)
		要 精 検 者 数	異 常 認 め ず	
保健事業団	0	0	0	0.00
病 院	4	4	0	100.00
診 療 所	5	0	5	0.00
そ の 他	0	0	0	0.00
計	9	4	5	44.44

b. 精密検査結果

一次検診 機 関	精密検査 受診者数(人)	精密検査 受診率(%)	精密検査結果				乳 が ん 発見率(%)	陽 性 反 応 適中度(%)
			異常認めず	その他の疾病	乳がん疑い	乳 が ん		
保健事業団	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
病 院	1	25.0	0	1	0	0	0.00	0.0
診 療 所	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
そ の 他	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
計	1	25.0	0	1	0	0	0.00	0.0

(3) 平成25年度検診発見乳がん追跡調査結果

1) 登録届け出数 76

組織学的に確定された乳癌 72

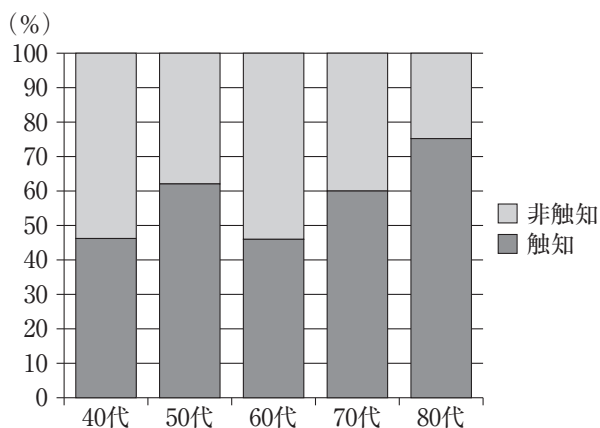
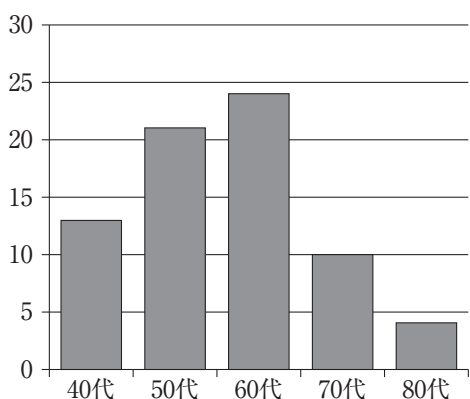
鳥取市17例 米子市18例 倉吉市6例 境港市2例

岩美町5例 若桜町2例 智頭町2例 八頭町3例 三朝町1例

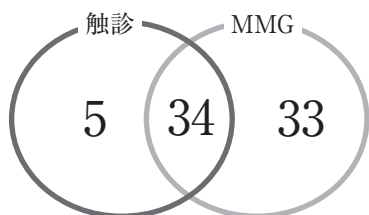
湯梨浜町2例 琴浦町1例 北栄町4例 日吉津町1例 大山町1例

南部町2例 伯耆町3例 日南町1例 江府町1例

2) 年齢構成 平均年齢：60.7歳

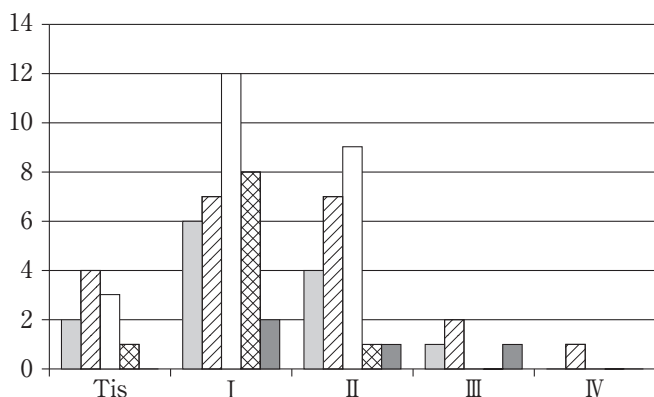


3) 一次検診（触診）、MMG検診の結果



検診発見乳癌67例中5例が視触診のみで発見されている。

4) 病期分類



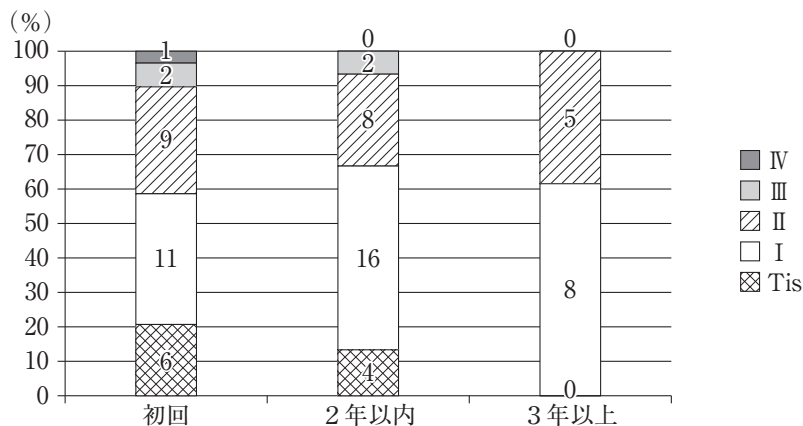
非浸潤癌は10例

Stage I は35例

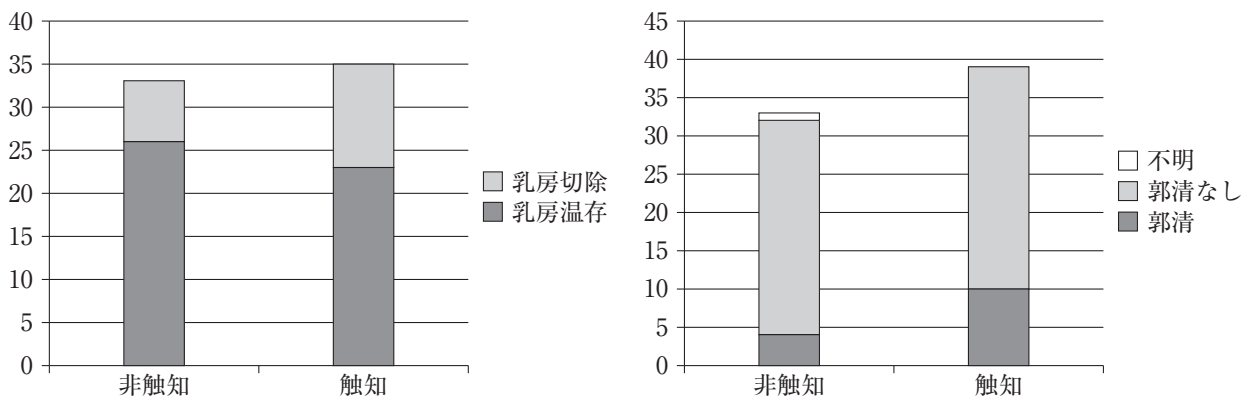
5) 組織型

非浸潤癌10例 浸潤性乳管癌55例 特殊型7例

6) 検診歴と病期



7) 手術術式



リンパ節転移：あり15例 なし53例 不明4例

8) 薬物治療

術前治療2例 術後治療63例 手術単独2例 不明5例

化学療法	27例
(T-mab)	5例
内分泌療法	60例
化学+内分泌	19例
放射線治療	6例

まとめ

1. 平成25年度の確定乳癌は72例で非浸潤癌は10例、Stage I が35例で、早期癌の比率は62.5%であった。StageIV症例も1例あり、StageIII症例も昨年度より多かった。
2. MMGのみで発見された症例が33例、触診のみで発見された症例が5例であり、視触診も一定の効果があるものと思われる。
3. 昨年度は2年以内の繰り返し検診の患者で早期癌の割合が高かったが、25年度は検診歴と早期癌の比率には差を認めなかった。
4. 術式、リンパ節郭清に関しては、非触知乳癌と触知乳癌で有意な差を認めなかった。
5. 検診発見癌で内分泌療法を受けた割合は83.3%で高い値であった。化学療法は37.5%で行われており、昨年(18.8%)と比較して高くなっていった。

5. 大腸がん検診

1. 大腸がん検診実績

平成25年度の対象者数（40歳以上のうち職場等で受診機会のない者として厚生労働省が示す算式により算定した推計数）は190,556人で、このうち受診者数は55,556人、受診率は29.2%で、前年度に比べ0.7ポイント増加した。平成20年度以降、無料クーポン補助事業が行われたことにより、受診者数、受診率とも上昇傾向にある。

このうち要精検者数は5,456人、要精検率9.8%で、平成24年度より1.2ポイント増となり、プロセス指標の目標値である7.0%を上回っている。要精検者のうち精密検査を受診したのは4,151人、精検受診率は76.1%（前年度比0.7ポイント減）で、プロセス指標の目標値90%は下回るが許容値の70%以上は維持されている。また、精検の結果、大腸がんであった者が146人で、がん発見率は0.26%（前年度比0.01ポイント減）、陽性反応適中度は2.7%（前年度比0.5ポイント減）であり、いずれもプロセス指標の許容値は上回っている。

要精検率は東部9.0%、中部9.0%、西部11.1%、がん発見率は東部0.265%、中部0.233%、西部0.275%、陽性反応適中度は東部2.9%、中部2.6%、西部2.5%で、前年度と同様に西部の要精検率が高いが、がん発見率、陽性反応適中度は地区の格差はなかった。

検診機関別の要精検率は、鳥取県保健事業団8.4%、中国労働衛生協会7.3%、病院11.1%、診療所10.6%で、例年と同様に施設検診の要精検率が高い。

また、がん発見率は地域検診0.189%、施設検診0.308%で、施設検診のがん発見率が高い。

〈検診機関別結果〉

(1) 一次検診

区 分	受診者数（率）	要精検者数	要精検率（%）			
			計	東部	中部	西部
地 域 検 診 (保健事業団・ファルコ・中国労働衛生協会)	21,118 (38.0%)	1,765	8.4	8.0	7.8	9.6
施 設 検 診 (病院・診療所)	34,438 (62.0%)	3,691	10.7	9.5	12.6	11.6
計	55,556 (100%)	5,456	9.8	9.0	9.0	11.1

(2) 精密検査

区 分	精 検 受診者数	精 検 受診率 (%)	が ん	がん発見率（%）			
				計	東部	中部	西部
地 域 検 診	1,301	73.7	40	0.189	0.282	0.149	0.124
施 設 検 診	2,850	77.2	106	0.308	0.276	0.480	0.309
計	4,151	76.1	146	0.263	0.265	0.233	0.275

〈圏域別結果〉

(1) 地域検診

区 分	受診者数	要精検者数	要 精 検 率	精検受診者数	精検受診率	がん疑い	が ん	がん発見率
東 部	7,457	595	8.0	455	76.4	1	21	0.282
中 部	8,028	629	7.8	463	73.6	0	12	0.149
西 部	5,633	541	9.6	383	70.8	1	7	0.124
計	21,118	1,765	8.4	1,301	73.7	2	40	0.189

(2) 施設検診

区 分	受診者数	要精検者数	要 精 検 率	精検受診者数	精検受診率	がん疑い	が ん	がん発見率
東 部	15,556	1,477	9.5	1,163	78.7	1	43	0.276
中 部	2,711	342	12.6	252	73.7	3	13	0.480
西 部	16,171	1,872	11.6	1,435	76.7	3	50	0.309
計	34,438	3,691	10.7	2,850	77.2	7	106	0.308

2. 大腸がん検診発見大腸がん確定調査結果

検診で発見された大腸がん及びがん疑い155例について確定調査を行った結果、確定癌148例（地域検診40例、施設検診108例）、腺腫4例、異常なし1例、本人の希望により治療せず、その後転院1例、受診歴なし1例であった。そのうち早期がんは85例、早期癌率は57.4%であった。調査の結果は、以下のとおりで、例年と同様な傾向であった。

(1) 性及び年齢では男女とも60歳以上からがんが多く発見された。

40歳代からがんが6例発見され、内訳はポリープ癌m癌4名、48歳女性SE、45歳女性SM。

(2) 部位では「R」と「S」が60.8%、肉眼分類では「2」35.1%であった。早期癌85例の肉眼分類では「Ip」「Isp」が55.3%であった。

(3) 大きさは、10mm以下が39例（26.4%）、11～20mmが46例（31.1%）、21～50mmが54例（36.5%）、51mm以上が9例（6.1%）であった。

(4) Dukes分類は「A」が72.3%、組織型分類は「Well」が48.6%、「Mod」が45.3%であった。

(5) 治療方法は外科手術が31例（20.9%）、内視鏡下手術54例（36.5%）、内視鏡治療は62例（41.9%）であった。腹腔鏡下手術が増えつつある。

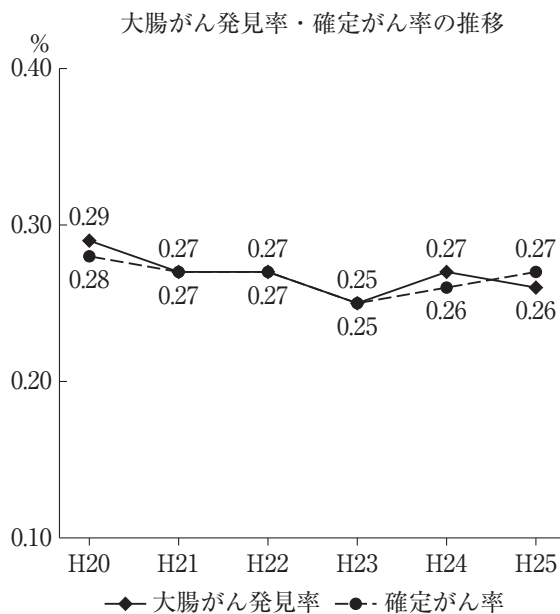
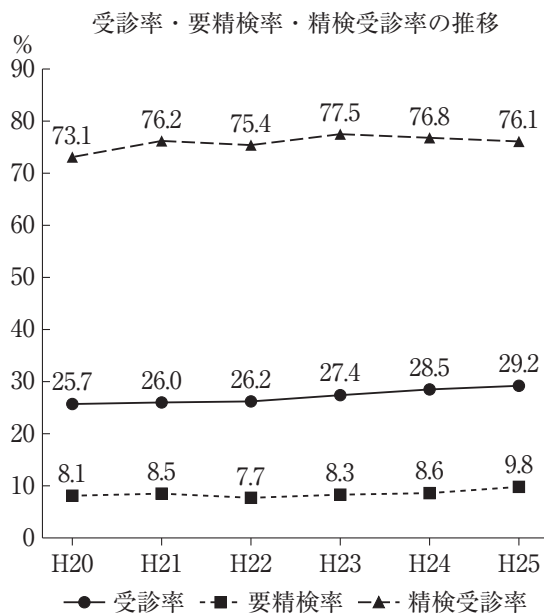
(6) 逐年検診発見進行大腸がんは16例（東部7例、西部9例）であった。

各地区で症例検討を行って頂き、問題点等について検討して頂く。

(1) 大腸がん検診の受診者数及び受診率の推移

区 分		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
一 次 検 診	対 象 者 数(人) A	188,186	188,186	188,186	190,556	190,556	190,556
	受 診 者 数(人) B	48,409	48,949	49,374	52,192	54,362	55,556
	受 診 率(%) C = B/A	25.7	26.0	26.2	27.4	28.5	29.2
一 次 検 診 結 果	異 常 認 め ず(人) D	44,497	44,780	45,598	47,885	49,693	50,100
	要 精 検 者 数(人) E	3,912	4,169	3,776	4,307	4,669	5,456
	要 精 検 率(%) F = E/B 指標：許容値7.0%以下	8.08	8.52	7.65	8.25	8.59	9.82
精 密 検 査	精 検 受 診 者 数(人) G	2,858	3,178	2,848	3,340	3,588	4,151
	精 検 受 診 率(%) H = G/E 指標：目標値90%以上	73.1	76.2	75.4	77.5	76.8	76.1
精 密 検 査 結 果	大 腸 が ん の 者(人) I	138(5)	134(8)	133(5)	131(9)	149(4)	146(9)
	大 腸 が ん 発 見 率(%) J = I/B 指標：許容値0.13%以上	0.29	0.27	0.27	0.25	0.27	0.26
	陽 性 反 応 適 中 度(%) K = I/E 指標：許容値1.9%以上	3.5	3.2	3.5	3.0	3.2	2.7
確 定 調 査 結 果	確 定 が ん 数(人) L	136	134	132	131	142	148
	確 定 が ん 率(%) M = L/B	0.28	0.27	0.27	0.25	0.26	0.27

- ※1 精密検査結果欄の()内の数値は「がん疑いの者」の数を外数で計上
- ※2 がん発見率及び陽性反応適中度は、平成18年度報告から「がん」の者のみを計上
- ※3 陽性反応適中度は、要精検者数を分母として算出。
- ※4 確定がん数は、検診により発見された「がん」又は「がん疑い」の者を調査により計上



(2) 平成25年度大腸がん検診結果

1) 一次検診結果 (年齢階級別)

年 齢	対象者数 (人)		一 次 検 診 受 診 者 数		受 診 率 (%)			一 次 検 診 結 果				要 精 検 率 (%)		
	a		b		c = b / a			d		異常認めず		e = d / b		
	男	女	男	女	男	女	計	男	女	男	女	男	女	計
40～44歳	2,158	4,048	777	1,668	36.0	41.2	39.4	46	113	731	1,555	5.9	6.8	6.5
45～49歳	2,326	3,853	631	1,488	27.1	38.6	34.3	39	114	592	1,374	6.2	7.7	7.2
50～54歳	3,058	4,974	782	1,964	25.6	39.5	34.2	70	135	712	1,829	9.0	6.9	7.5
55～59歳	4,908	8,189	1,312	2,826	26.7	34.5	31.6	118	185	1,194	2,641	9.0	6.5	7.3
60～64歳	9,854	13,797	3,091	5,187	31.4	37.6	35.0	336	389	2,755	4,798	10.9	7.5	8.8
65～69歳	11,061	14,574	4,323	6,050	39.1	41.5	40.5	487	490	3,836	5,560	11.3	8.1	9.4
70～74歳	11,588	16,049	4,155	5,896	35.9	36.7	36.4	515	529	3,640	5,367	12.4	9.0	10.4
75～79歳	11,797	17,672	3,265	4,902	27.7	27.7	27.7	427	528	2,838	4,374	13.1	10.8	11.7
80歳以上	15,558	35,092	3,011	4,228	19.4	12.0	14.3	428	507	2,583	3,721	14.2	12.0	12.9
計	72,308	118,248	21,347	34,209	29.5	28.9	29.2	2,466	2,990	18,881	31,219	11.6	8.7	9.8
合 計	190,556		55,556		29.2			5,456		50,100		9.8		

2) 精密検査結果 (年齢階級別)

年 齢	精密検査 受診者数 (人)		精密検査受診率 (%)			精密検査結果								大腸がん発見率 (%)			陽性反応適中度 (%)		
	f		g = f / d			異常認めず		その他の疾病		大腸がん疑い		大腸がん		i = h / b			j = h / d		
	男	女	男	女	計	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女	計
40～44歳	29	78	63.0	69.0	67.3	16	60	11	18	0	0	2	0	0.257	0.000	0.082	4.3	0.0	1.3
45～49歳	26	75	66.7	65.8	66.0	12	37	14	34	0	1	0	3	0.000	0.202	0.142	0.0	2.6	2.0
50～54歳	45	100	64.3	74.1	70.7	7	54	34	44	0	0	4	2	0.512	0.102	0.218	5.7	1.5	2.9
55～59歳	72	144	61.0	77.8	71.3	21	66	50	74	0	0	1	4	0.076	0.142	0.121	0.8	2.2	1.7
60～64歳	238	325	70.8	83.5	77.7	56	129	164	191	0	0	18	5	0.582	0.096	0.278	5.4	1.3	3.2
65～69歳	364	397	74.7	81.0	77.9	74	161	272	225	2	1	16	10	0.370	0.165	0.251	3.3	2.0	2.7
70～74歳	422	447	81.9	84.5	83.2	94	172	309	257	1	3	18	15	0.433	0.254	0.328	3.5	2.8	3.2
75～79歳	338	421	79.2	79.7	79.5	90	169	226	239	0	0	22	13	0.674	0.265	0.429	5.2	2.5	3.7
80歳以上	306	324	71.5	63.9	67.4	91	128	209	188	1	0	5	8	0.166	0.189	0.180	1.2	1.6	1.4
計	1,840	2,311	74.6	77.3	76.1	461	976	1,289	1,270	4	5	86	60	0.403	0.175	0.263	3.5	2.0	2.7
合 計	4,151		76.1			1,437		2,559		9		146		0.263			2.7		

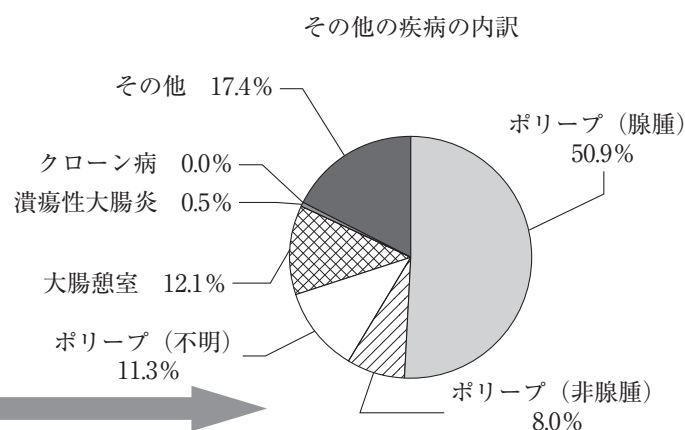
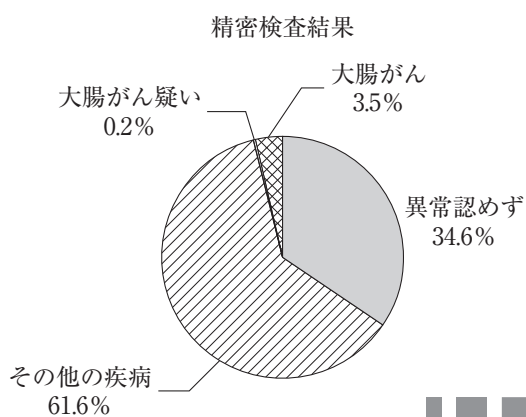
3) 検診機関別

a. 一次検診結果

一次検診機関	一次検診受診者数 a'		一次検診結果				要精検率 (%) c' = b' / a'		
	要精検者数 b'		異常認めず						
	男	女	男	女	男	女	男	女	計
保健事業団	7,828	12,457	776	928	7,052	11,529	9.9	7.4	8.4
ファルコ	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0
中国労働衛生協会	326	507	24	37	302	470	7.4	7.3	7.3
地域検診小計	8,154	12,964	800	965	7,354	11,999	9.8	7.4	8.4
病院	3,823	5,650	510	546	3,313	5,104	13.3	9.7	11.1
診療所	9,370	15,595	1,156	1,479	8,214	14,116	12.3	9.5	10.6
施設検診小計	13,193	21,245	1,666	2,025	11,527	19,220	12.6	9.5	10.7
計	21,347	34,209	2,466	2,990	18,881	31,219	11.6	8.7	9.8
合計	55,556		5,456		50,100		9.8		

b. 精密検査結果

一次検診機関	精密検査受診者数(人) d'		精密検査受診率 (%) e' = d' / b'			精密検査結果								大腸がん発見率 g' = f' / a'			陽性反応適中度 h' = f' / b'		
	異常認めず		その他の疾病		大腸がん疑い		大腸がん		大腸がん発見率			陽性反応適中度							
	男	女	男	女	計	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女	計		
保健事業団	561	691	72.3	74.5	73.5	152	323	384	353	1	1	24	14	0.307	0.112	0.187	3.1	1.5	2.2
中国労働衛生協会	20	29	83.3	78.4	80.3	7	11	11	18	0	0	2	0	0.613	0.000	0.240	8.3	0.0	3.3
地域検診小計	581	720	72.6	74.6	73.9	159	334	395	371	1	1	26	14	0.319	0.108	0.189	3.3	1.5	2.3
病院	393	452	77.1	82.8	80.0	92	193	287	249	0	1	14	9	0.366	0.159	0.243	2.7	1.6	2.2
診療所	866	1,139	74.9	77.0	76.1	210	449	607	650	3	3	46	37	0.491	0.237	0.332	4.0	2.5	3.1
施設検診小計	1,259	1,591	75.6	78.6	77.2	302	642	894	899	3	4	60	46	0.455	0.217	0.308	3.6	2.3	2.9
計	1,840	2,311	74.6	77.3	76.1	461	976	1,289	1,270	4	5	86	60	0.403	0.175	0.263	3.5	2.0	2.7
合計	4,151		76.1			1,437		2,559		9		146		0.263			2.7		



4) 平成25年度大腸がん検診受診状況

市町村名	受診者数				要精検者数				精密検査結果別人員									
	対象者数	地域検診	施設検診	計	受診率 (%)	地域検診	施設検診	計	要精検率 (%)	精検受診率 (%)	異認めず	常その他の	がん疑い	が	人	有所見者	がん発見	陽性反応
	A	B	C	D=B+C	E=D/A	F	G	H=F+G	I=H/D	J	K=J/H	L	M	N	O	P=M+N+O	Q=O/D	R=O/H
鳥取市	57,433	3,316	13,546	16,862	29.4	262	1,321	1,583	9.4	1,241	78.4	434	757	0	50	807	0.297	3.2
米子市	42,442	0	12,283	12,283	28.9	0	1,355	1,355	11.0	1,025	75.6	323	659	2	41	702	0.334	3.0
倉吉市	17,700	1,580	1,574	3,154	17.8	123	213	336	10.7	255	75.9	97	147	3	8	158	0.254	2.4
境港市	11,307	239	2,346	2,585	22.9	28	264	292	11.3	255	87.3	105	145	1	4	150	0.155	1.4
岩美町	4,844	1,154	329	1,483	30.6	106	26	132	8.9	106	80.3	25	76	0	5	81	0.337	3.8
八頭町	6,534	2,460	322	2,782	42.6	178	26	204	7.3	155	76.0	58	92	1	4	97	0.144	2.0
若桜町	1,776	382	396	778	43.8	36	29	65	8.4	40	61.5	15	25	0	0	25	0.000	0.0
智頭町	3,263	145	963	1,108	34.0	13	75	88	7.9	73	83.0	15	55	1	2	58	0.181	2.3
湯梨浜町	5,964	1,289	649	1,938	32.5	107	77	184	9.5	145	78.8	65	72	0	8	80	0.413	4.3
三朝町	2,767	660	138	798	28.8	46	7	53	6.6	39	73.6	16	21	0	2	23	0.251	3.8
北栄町	5,729	2,265	232	2,497	43.6	157	28	185	7.4	129	69.7	48	77	0	4	81	0.160	2.2
琴浦町	7,221	2,234	118	2,352	32.6	196	17	213	9.1	147	69.0	53	91	0	3	94	0.128	1.4
南部町	4,221	661	1,016	1,677	39.7	66	198	264	15.7	195	73.9	58	132	0	5	137	0.298	1.9
伯耆町	4,533	1,419	0	1,419	31.3	153	0	153	10.8	92	60.1	33	54	0	5	59	0.352	3.3
日吉津村	995	299	159	458	46.0	22	19	41	9.0	26	63.4	12	12	0	2	14	0.437	4.9
大山町	7,503	1,254	313	1,567	20.9	116	23	139	8.9	96	69.1	34	62	0	0	62	0.000	0.0
日南町	2,966	589	54	643	21.7	56	13	69	10.7	51	73.9	21	29	1	0	30	0.000	0.0
日野町	1,733	489	0	489	27.4	45	0	45	9.2	35	77.8	7	26	0	2	28	0.409	4.4
江府町	1,575	683	0	683	43.4	55	0	55	8.1	46	83.6	18	27	0	1	28	0.146	1.8
合計	190,556	21,118	34,438	55,556	29.2	1,765	3,691	5,456	9.8	4,151	76.1	1,437	2,559	9	146	2,714	0.263	2.7
東部	73,850	7,457	15,556	23,013	31.2	595	1,477	2,072	9.0	1,615	77.9	547	1,005	2	61	1,068	0.265	2.9
中部	39,381	8,028	2,711	10,739	27.3	629	342	971	9.0	715	73.6	279	408	3	25	436	0.233	2.6
西部	77,325	5,633	16,171	21,804	28.2	541	1,872	2,413	11.1	1,821	75.5	611	1,146	4	60	1,210	0.275	2.5

(3) 平成25年度大腸がん検診発見大腸がん患者確定調査結果

表1 報告癌と確定癌

	地域検診				施設検診				計			総計
	東部	中部	西部	小計	東部	中部	西部	小計	東部	中部	西部	
報告癌	19	12	11	42	44	16	53	113	63	28	64	155
確定癌	19	11	10	40	41	16	51	108	60	27	61	148
腺腫	0	1	1	2	1	0	1	2	1	1	2	4
その他	0	0	0	0	2	0	1	3	2	0	1	3

※その他：異常なし1件、治療せず、その後転院1件、受診歴なし1件

表2 性及び年齢

年 齢		40～	45～	50～	55～	60～	65～	70～	75～	80～	計
地域	男	0	0	2	0	4	4	4	10	1	25
	女	0	0	0	1	3	2	6	2	1	15
	計	0	0	2	1	7	6	10	12	2	40
施設	男	2	0	2	1	14	14	14	10	4	61
	女	0	4	2	3	2	8	10	12	6	47
	計	2	4	4	4	16	22	24	22	10	108
計	男	2	0	4	1	18	18	18	20	5	86
	女	0	4	2	4	5	10	16	14	7	62
総計		2	4	6	5	23	28	34	34	12	148

※40代 6名内訳（ポリープ癌m癌4名、48歳女性SE、45歳女性SM）

表3 部位

	地域検診				施設検診				総計 (%)
	東部	中部	西部	小計	東部	中部	西部	小計	
P	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R	4	3	3	10	14	1	19	34	44(29.7)
S	6	4	2	12	13	7	14	34	46(31.1)
D	3	0	0	3	1	2	1	4	7(4.7)
T	2	0	1	3	3	1	5	9	12(8.1)
A	3	4	3	10	9	4	7	20	30(20.3)
C	1	0	1	2	1	1	5	7	9(6.1)
V	0	0	0	0	0	0	0	0	0
不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	19	11	10	40	41	16	51	108	148

表4 大きさ

大きさ (mm)	地 域				施 設				総計 (%)
	東部	中部	西部	小計	東部	中部	西部	小計	
0～10	6	5	4	15	8	4	12	24	39(26.4)
11～20	5	1	3	9	13	9	15	37	46(31.1)
21～50	8	4	3	15	17	3	19	39	54(36.5)
51～	0	1	0	1	3	0	5	8	9(6.1)
不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	19	11	10	40	41	16	51	108	148

表5 肉眼分類

肉眼型	地域検診	施設検診	計 (%)
0	29	56	85(57.4)
1	2	3	5(3.4)
2	7	45	52(35.1)
3	1	3	4(2.7)
4	0	0	0
5	1	0	1(0.7)
不明	0	1	1(0.7)
計	40	108	148

表6 O型の肉眼分類

肉眼型	地域検診	施設検診	計 (%)
I p	7	14	21(24.7)
I sp	8	18	26(30.6)
I s	4	5	9(10.6)
II a	3	10	13(15.3)
II a + II c	7	5	12(14.1)
II b	0	0	0
II c	0	2	2(2.4)
III	0	0	0
その他	0	2	2(2.4)
不明	0	0	0
計	29	56	85

表7 深達度

深達度	地 域 検 診			施 設 検 診			計 (%)
	東部	中部	西部	東部	中部	西部	
m	12	4	5	16	5	13	55(37.2)
sm	2	1	5	3	7	12	30(20.3)
不明	0	0	0	0	0	0	0
小計	14	5	10	19	12	25	85(57.4)
mp	1	0	0	8	0	7	16(10.8)
ss	3	6	0	9	3	11	32(21.6)
se	1	0	0	5	1	6	13(8.8)
si	0	0	0	0	0	0	0
不明	0	0	0	0	0	2	2(1.4)
計	19	11	10	41	16	51	148

表8 Dukes分類

Dukes分類	地域検診			施設検診			計 (%)
	東部	中部	西部	東部	中部	西部	
A	17	9	10	27	12	32	107(72.3)
B	1	0	0	1	1	8	11(7.4)
C	1	2	0	12	1	7	23(15.5)
D	0	0	0	1	2	3	6(4.1)
不明	0	0	0	0	0	1	1(0.7)
計	19	11	10	41	16	51	148

表9 組織型分類

組織型	地域検診			施設検診			計 (%)
	東部	中部	西部	東部	中部	西部	
Wel	12	7	5	19	11	18	72(48.6)
Mod	6	3	5	20	5	28	67(45.3)
Por	1	0	0	1	0	0	2(1.4)
Muc	0	0	0	1	0	1	2(1.4)
その他	0	1	0	0	0	3	4(2.7)
不明	0	0	0	0	0	1	1(0.7)
計	19	11	10	41	16	51	148

※その他：pap 2、sig 1、medullary 1

表10 治療法

治療方法	地域検診			施設検診			計 (%)
	東部	中部	西部	東部	中部	西部	
外科手術	2	2	1	10	2	14	31(20.9)
内視鏡下手術	3	5	3	14	7	22	54(36.5)
内視鏡治療	14	4	6	16	7	15	62(41.9)
その他不明	0	0	0	1	0	0	1(0.7)
計	19	11	10	41	16	51	148

表11 平成25年度逐年検診発見進行癌

検診方式	地区	No.	年齢	性	部位	大きさ	深達度	肉眼型	組織型	便潜血	stage	前年度検査結果				
												検診方式	便潜血	精密結果		
地域 検診	東部	1	64	女性	上行結腸	33mm	SS(A)	2	Por	++	Ⅲ b	地域	-	.	-	
		2	74	女性	盲腸	35mm	MP	2	Mod	+-	I	施設	-	.	-	
		3	76	男性	下行結腸	22mm	SS(A)	2	Mod	++	II	施設	-	.	-	
施設 検診	東部	4	72	男性	S状結腸	7mm	MP	1	Well	-+	I	施設	-	.	-	
		5	83	男性	直腸	20mm	SE	2	Mod	++	Ⅲ a	施設	-	.	-	
		6	82	男性	直腸	22mm	MP	2	Mod	++	I	施設	-	.	-	
		7	74	女性	上行結腸	26mm	SS(A)	2	Mod	++	Ⅲ a	施設	+	.	+	未受診
	西部	8	50	女性	上行結腸	15mm	SE	1	Mod	++	II	施設	-	.	-	
		9	69	男性	直腸	75mm	SE	2	Mod	++	Ⅲ b	施設	+	.	+	未受診
		10	69	女性	S状結腸	16mm	MP	2	Mod	+-	I	施設	-	.	-	
		11	71	男性	直腸	19mm	MP	1	Mod	++	I	施設	-	.	-	H23+・+ 精密検査 異常なし
		12	73	女性	上行結腸	15mm	SS(A)	2	Mod	++	II	施設	-	.	-	
		13	78	女性	直腸	29mm	SS(A)	2	Well	++	II	施設	+	.	+	ポリープ 痔あり、 治療不要
		14	78	男性	S状結腸	30mm	SS(A)	2	Mod	++	II	施設	-	.	-	
		15	79	女性	横行結腸	25mm	SS(A)	2	Mod	+-	Ⅲ a	施設	-	.	-	
		16	81	女性	横行結腸	30mm	SS(A)	2	Mod	++	Ⅲ a	施設	+	.	+	異常なし

6. 肝 臓 が ん 検 診

1. 鳥取県における肝臓がん検診事業の沿革

年 度	検 診 事 業	実 施 方 法
H 7～9	肝臓がん検診（単県）	・基本健診と同時実施 ・3年間のうち1年間のみ全市町村が実施
H10～13	肝臓がん検診（単県）	・原則、基本健診と同時実施。単独も可 ・希望市町村のみ。複数年にわたる継続実施も可 ・定期検査開始
H14	肝炎ウイルス検査（国庫）	・基本健診と同時実施（H18までの緊急対策） ・節目検診（40—70歳の5歳刻み）+節目外（要指導者等）
	肝臓がん検診（単県）	・H10—13と同様
H15～16	肝炎ウイルス検査（国庫）	・H14—と同様
	肝臓がん検診（単県）	・肝炎ウイルス対象外の者を対象とする補完的検診に ・検査内容を肝炎ウイルス検査に統一 ・検診事業はH16で廃止（定期検査は継続）
H17～18	肝炎ウイルス検査（国庫）	・H14—と同様
H19～	肝炎ウイルス検査（国庫）	・節目検診（40歳のみ+未受診者）+節目外（要指導者等）
		・H23年より節目検診（40歳以上の5歳刻み）に個別受診勧奨

2. 肝臓がん検診実績

1) 平成25年度健康増進事業における肝炎ウイルス検査

平成25年度は18市町村で実施し、対象者数198,427人のうち、受診者数は8,126人で、受診率は4.1%で、平成23年度に比べ、受診者数3,349人、受診率が1.8ポイント増加した。平成23年度より国が40歳以上5歳刻みの方を対象にした無料クーポン券事業を導入したこと等により受診者数は年々増加傾向である。

特に米子市は昨年度に比べ、受診者数が約3,000人も多かった。これは、国の無料クーポン券事業の対象だけではなく、すべての年齢層を対象とし、地域の医療機関から受診勧奨に働きかけていただいたことによるとのことだった。

検査の結果、HBs抗原のみ陽性者は148人、HCV抗体のみ陽性者は35人で、HBs抗原陽性率1.8%で、前年度と同率、HCV抗体陽性率0.4%であった。

要精検者183人のうち精検受診者は132人であり、精検受診率は72.1%で、平成24年度に比べ15.9ポイント増であった。精検受診者132人のうち、肝臓がん1人、がん疑い2人であった。

受診者は60歳代が多く、HBs抗原陽性率は50歳代から70歳代にかけて高く、HCV抗体陽性率は高年齢者が高い傾向にある。

2) 肝臓がん検診により発見されたウイルス陽性者に対しての定期検査の状況について（県事業の肝臓がん対策事業）

平成10年度から実施している、検診で発見された肝炎ウイルス陽性者に対する定期検査は15市町村で実施された。結果は以下のとおりである。

区 分	健康指導 対象者 (人)	定期検査 受診者数 (人)	定期検査結果 (人・%)			
			慢性肝炎	肝 硬 変	肝臓がん	がん疑い
B型肝炎ウイルス陽性者	1,596	765	147 (19.2)	6 (0.8)	7 (0.9)	3 (0.4)
C型肝炎ウイルス陽性者	837	392	207 (52.8)	13 (3.3)	10 (2.6)	1 (0.3)

※肝臓がんと報告された中には、過去の定期検査で「がん」と報告されたものも含まれている。

3) 平成7年度から平成25年度の18年間を集計すると、平成7～9年度の検診時において市町村から報告があった対象者数192,315人に対し、受診者総数132,946人、推計受診率69.1%である。そのうちHBs抗原陽性者は3,133人（陽性率2.36%）、HCV抗体陽性者は3,644人（陽性率2.74%）であった。

年代別でみると、平成7年～25年度平均HCV抗体陽性率は60歳以上が高く、HBs抗原陽性率は40歳・50歳代が高い傾向である。

3. 肝臓がん検診発見肝臓がん追跡調査結果

(1) 平成25年度肝炎ウイルス検査からは肝臓がん確定は2人だった。また、肝臓がん検診により発見されたウイルス陽性者に対しての定期検査の結果、B型肝炎ウイルス陽性者から肝臓がん確定が3名、C型肝炎ウイルス陽性者から肝臓がん確定が7名であった。

(2) 平成7年～24年度肝臓がん検診発見がん患者のうち、25例が確定癌であり、そのうち22例は死亡、生存中の3例であった。また、平成10～24年度定期検査確定がんが132例で、そのうち85例は死亡（他病死を含む）、生存中は45人、追跡不能2人であった。

がんと診断されてから10年以上生存されている方は、非常に稀であり、肝炎ウイルス検査で陽性の方を早期に発見し、定期検査をきちんと受診していただくことが重要である。

(1) 肝炎ウイルス検査受診者数等の推移

1) 一次検診

年 度	受 診 者 数	HBs陽性者	HBs陽性率	HCV陽性者	HCV陽性率
H23	3,374	56	1.7	24	0.7
H24	4,777	83	1.7	23	0.5
H25	8,126	148	1.8	35	0.4

※各陽性者数にはB型、C型ともに陽性である者が含まれるため、各陽性者数の合計は下段の要精検者数に一致しない。

2) 精密検査

年 度	要精検者数	精検受診者数	精検受診率	が ん	がん発見率
H23	80	49	61.3	0	0.00
H24	105	59	56.2	0	0.00
H25	183	132	72.1	1	0.01

※ がん発見率は、平成18年度報告から「がん」の者のみを計上

3) 年齢階級別受診状況

区 分	平成25年度			平成7～25年度		
	受 診 者 数	HBs陽性率	HCV陽性率	受 診 者 数	HBs陽性率	HCV陽性率
40～44歳	990	1.3	0.1	11,191	2.46	0.76
45～49歳	585	0.7	0.2	9,604	3.42	1.44
50～54歳	579	1.4	0.3	11,346	3.45	1.74
55～59歳	767	2.0	0.4	14,226	2.85	2.29
60～64歳	1,466	2.0	0.4	23,552	2.32	2.84
65～69歳	1,643	2.4	0.3	25,013	2.23	3.27
70～74歳	1,116	2.5	0.6	21,486	1.79	3.59
75～79歳	422	1.2	0.9	9,480	1.54	3.96
80歳以上	558	0.9	1.1	7,048	1.39	3.72
計	8,126	1.8	0.4	132,946	2.36	2.74

(2) 平成25年度健康増進事業における肝炎ウイルス検査

1) 一次検診結果（年齢階級別）

年 齢	一次検診受診者数 (人) a		一 次 検 診 結 果								HBs抗原陽性率 (%) e = (b + d) / a			HCV抗体陽性率 (%) f = (c + d) / a		
			異常認めず		HBs抗原のみ陽性 b		HCV抗体のみ陽性 c		HBs・HCVともに陽性 d		e = (b + d) / a	f = (c + d) / a				
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女	計
40～44歳	337	653	326	650	11	2	0	1	0	0	3.3	0.3	1.3	0.0	0.2	0.1
45～49歳	192	393	190	390	1	3	1	0	0	0	0.5	0.8	0.7	0.5	0.0	0.2
50～54歳	186	393	181	388	3	5	2	0	0	0	1.6	1.3	1.4	1.1	0.0	0.3
55～59歳	289	478	280	469	7	8	2	1	0	0	2.4	1.7	2.0	0.7	0.2	0.4
60～64歳	664	802	647	783	13	17	4	2	0	0	2.0	2.1	2.0	0.6	0.2	0.4
65～69歳	851	792	822	776	25	15	4	1	0	0	2.9	1.9	2.4	0.5	0.1	0.3
70～74歳	578	538	554	527	22	6	2	5	0	0	3.8	1.1	2.5	0.3	0.9	0.6
75～79歳	197	225	194	219	1	4	2	2	0	0	0.5	1.8	1.2	1.0	0.9	0.9
80歳以上	169	389	165	382	2	3	2	4	0	0	1.2	0.8	0.9	1.2	1.0	1.1
計	3,463	4,663	3,359	4,584	85	63	19	16	0	0	2.5	1.4	1.8	0.5	0.3	0.4
合 計	8,126		7,943		148		35		0		1.8			0.4		

2) 精密検査結果 (年齢階級別)

年齢	区分	精密検査受診者数 (人)		精密検査対象者診断結果												肝臓がん発見率 (%) h = g / a			
		男	女	健康指標						脂肪肝			肝臓がん疑い			肝臓がん		その他	
				慢性肝炎		肝硬変		アルコール性肝障害		脂肪肝		肝臓がん疑い		肝臓がん		その他			
				男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
40~44歳	B型陽性	7	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	C型陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	全体	7	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	全	7	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.000
45~49歳	B型陽性	1	3	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	C型陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	全体	1	3	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	全	1	3	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.000
50~54歳	B型陽性	1	4	1	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	C型陽性	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	全体	2	4	2	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	全	2	4	2	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.000
55~59歳	B型陽性	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	C型陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	全体	5	7	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	全	10	14	6	12	4	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.000
60~64歳	B型陽性	4	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	C型陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	全体	14	14	8	12	0	6	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	全	17	11	11	5	2	1	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.000
65~69歳	B型陽性	4	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	C型陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	全体	21	11	12	5	2	1	5	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	全	14	6	11	5	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.000
70~74歳	B型陽性	1	4	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	C型陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	全体	15	10	12	7	0	1	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	全	1	4	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.000
75~79歳	B型陽性	2	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	C型陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	全体	3	5	0	4	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	全	2	2	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.508
80歳以上	B型陽性	1	4	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	C型陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	全体	3	6	2	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	全	57	51	40	38	2	3	10	6	2	0	0	1	1	0	0	1	2	0
計	B型陽性	14	10	6	6	0	0	6	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	C型陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	全体	71	61	46	44	2	3	16	10	2	0	0	1	1	1	0	2	2	1
	全	108	78	5	5	16	2	2	0	0	0	0	2	1	1	1	3	1	0.029
合計	B型陽性	24	0	12	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	C型陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	全体	132	90	5	5	26	2	2	0	0	0	0	2	2	2	1	3	2	0
	全	0.012																	

※1 「その他」は、転出、死亡、入院中の者及び医師が他の疾病の罹患等により、当事業でのフォローは不必要であると認められた者を指す。
 ※2 がん発見率は、平成18年度報告から「がん」の者のみを計上

3) 検診機関別

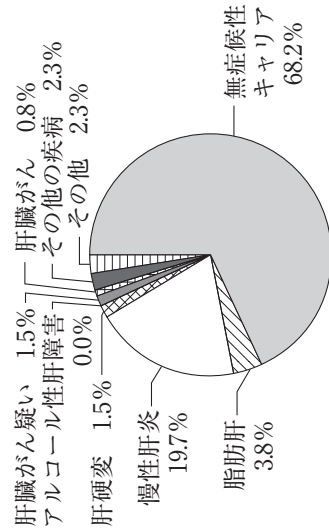
a. 一次検診結果

一次検診機関	一次検診受診者数(人) a'		一次検診結果								HBs抗原陽性率(%)			HCV抗体陽性率(%)		
			異常認めず		HBs抗原のみ陽性 b'		HCV抗体のみ陽性 c'		HBs・HCVともに陽性 d'		e' = (b' + d')/a'			f' = (c' + d')/a'		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女	計
保健事業団	757	1,023	738	1,009	16	12	3	2	0	0	2.1	1.2	1.6	0.4	0.2	0.3
中国労働衛生協会	66	66	62	65	3	1	1	0	0	0	4.5	1.5	3.0	1.5	0.0	0.8
病院	421	511	408	503	12	5	1	3	0	0	2.9	1.0	1.8	0.2	0.6	0.4
診療所	2,219	3,063	2,151	3,007	54	45	14	11	0	0	2.4	1.5	1.9	0.6	0.4	0.5
計	3,463	4,663	3,359	4,584	85	63	19	16	0	0	2.5	1.4	1.8	0.5	0.3	0.4
合計	8,126		7,943		148		35		0		1.8			0.4		

b. 精密検査結果

一次 検診機関	区分	精密検査 受診者数 (人)		精密検査結果												肝臓がん発 見 (%) h' = g' / a'				
		男	女	無症候性キャリア			脂肪 肝		慢性肝炎		肝 硬 変		アルコール性肝障害		肝臓がん疑い		肝臓 がん g'		その 他	
				男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男
健 保 事 業 団	B型陽性	6	7	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	C型陽性	3	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
中 国 労 働 衛 生 協 会	全 体	9	8	7	0	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
	B型陽性	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	C型陽性	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
病 院	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	全 体	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	B型陽性	6	4	5	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
診 療 所	C型陽性	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	全 体	7	4	6	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	B型陽性	45	39	30	28	2	3	10	5	1	0	0	1	1	0	0	0	1	2	0
	C型陽性	9	9	4	5	0	0	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	全 体	54	48	34	33	2	3	14	9	1	0	0	1	1	0	0	0	1	2	1
	B型陽性	57	51	40	38	2	3	10	6	2	0	0	1	1	0	0	1	1	2	0
	C型陽性	14	10	6	6	0	0	6	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
0.012	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	全 体	71	61	46	44	2	3	16	10	2	0	0	1	1	0	0	1	1	2	2
	B型陽性	108	78	78	78	5	5	16	16	2	0	0	2	2	1	0	1	3	3	1
0.029	C型陽性	24	12	12	12	0	0	10	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	全 体	132	90	90	90	5	5	26	26	2	0	0	2	2	1	0	1	3	3	3

精密検査結果 (肝炎ウイルス検査)



※1 「その他」は、転出、死亡、入院中の者及び医師が他の疾病の罹患等により、当事業でのフォローは不必要であると認めたとした者を指す。
 ※2 がん発見率は、平成18年度報告から「がん」の者のみを計上

4) 平成25年度健康増進事業における肝炎ウイルス検査受診状況
 実施市町村数 = 18 未実施市町村数 = 1

市町村名	対象者数(人)				受診者数			陽性者数				精密検査結果					人員					
	A	B	C	計	受診率(%)	HBs抗原のみ陽性	HCV抗体のみ陽性	HBs抗原HCV抗体ともに陽性	HBs抗原陽性率(%) $I = (F+H)/D$	HCV抗体陽性率(%) $J = (G+H)/D$	HCV抗体陽性率(%) $J = (G+H)/D$	精受診者数 K	精受診率(%) $L = K/(F+G+H)$	無症候性キャリア	M	N	その他	が人疑い	O	P	が人	有所見者 $Q = N + O + P$
鳥取市	49,836	460	1,493	1,953	3.9	28	8	0	1.4	0.4	0.4	26	72.2	20	6	0	0	0	0	0	6	0.000
米子市	73,364	0	3,760	3,760	5.1	78	19	0	2.1	0.5	0.5	80	82.5	52	26	1	1	1	1	28	0.027	
倉吉市	18,839	243	280	523	2.8	9	3	0	1.7	0.6	0.6	7	58.3	4	3	0	0	0	0	3	0.000	
境港市	6,977	0	209	209	3.0	3	1	0	1.4	0.5	0.5	4	100.0	2	1	1	1	0	0	2	0.000	
岩美町	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
八頭町	11,069	247	181	428	3.9	7	3	0	1.6	0.7	0.7	7	70.0	4	3	0	0	0	0	3	0.000	
若桜町	1,095	7	0	7	0.6	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0.000	
智頭町	3,286	23	23	46	1.4	1	0	0	2.2	0.0	0.0	1	100.0	1	0	0	0	0	0	0	0.000	
湯梨浜町	5,471	75	44	119	2.2	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0.000	
三朝町	2,767	117	45	162	5.9	5	0	0	3.1	0.0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0.000	
北栄町	4,728	64	10	74	1.6	2	0	0	2.7	0.0	0.0	1	50.0	1	0	0	0	0	0	0	0.000	
琴浦町	2,139	158	0	158	7.4	1	0	0	0.6	0.0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0.000	
南部町	4,221	66	95	161	3.8	4	0	0	2.5	0.0	0.0	4	100.0	4	0	0	0	0	0	0	0.000	
伯耆町	4,533	192	0	192	4.2	4	0	0	2.1	0.0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0.000	
日吉津村	44	10	0	10	22.7	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0.000	
大山町	5,525	139	19	158	2.9	2	0	0	1.3	0.0	0.0	2	100.0	2	0	0	0	0	0	0	0.000	
日南町	2,480	12	55	67	2.7	1	1	0	1.5	1.5	1.5	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0.000	
日野町	1,783	5	0	5	0.3	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0.000	
江府町	270	94	0	94	34.8	3	0	0	3.2	0.0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0.000	
合計	198,427	1,912	6,214	8,126	4.1	148	35	0	1.8	0.4	0.4	132	72.1	90	39	2	2	1	1	42	0.012	
東部	65,286	737	1,697	2,434	3.7	36	11	0	1.5	0.5	0.5	34	72.3	25	9	0	0	0	0	9	0.000	
中部	38,165	723	474	1,197	3.1	21	3	0	1.8	0.3	0.3	12	50.0	9	3	0	0	0	0	3	0.000	
西部	94,976	452	4,043	4,495	4.7	91	21	0	2.0	0.5	0.5	86	76.8	56	27	2	2	1	1	30	0.022	

(3) 平成7～25年度肝臓がん検診により発見された肝炎ウイルス陽性者の定期検査結果

1) 平成25年度B型肝炎ウイルス陽性者定期検査結果

年齢	定期検査結果																					
	健康指導対象者							健康指導対象者診断名														
	健康指導対象者 (平成25年4月1日現在の実人員)		受診者数 (平成26年10月31日現在の実人員)		脂肪肝		慢性肝炎		肝硬変		アルコール性肝障害		肝臓がん疑い		肝臓がん		その他の疾病		その他			
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
40～44歳	5	9	2	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
45～49歳	13	29	2	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
50～54歳	27	63	10	18	0	1	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
55～59歳	56	91	15	44	0	1	5	14	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
60～64歳	85	145	29	75	1	3	7	14	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
65～69歳	125	185	49	97	4	4	9	17	2	1	1	0	0	0	0	1	0	1	1	1	1	0
70～74歳	116	173	67	108	1	2	14	19	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	3
75～79歳	85	142	49	76	1	6	9	10	0	1	0	0	0	1	3	0	4	4	0	0	0	0
80歳以上	77	170	35	81	1	2	6	14	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	1
計	589	1,007	258	507	5	19	54	93	3	3	1	0	1	2	4	3	5	6	7	11	5	5
合計 (比率%)	1,596		765 (100)		24 (3.1)	147 (19.2)		6 (0.8)		1 (0.1)	3 (0.4)	7 (0.9)		11 (1.4)	10 (1.3)							

2) 平成25年度C型肝炎ウイルス陽性者定期検査結果

年齢	定期検査結果																					
	健康指導対象者							健康指導対象者診断名														
	健康指導対象者 (平成25年4月1日現在の実人員)		受診者数 (平成26年10月31日現在の実人員)		脂肪肝		慢性肝炎		肝硬変		アルコール性肝障害		肝臓がん疑い		肝臓がん		その他の疾病		その他			
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
40～44歳	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
45～49歳	3	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
50～54歳	6	9	1	5	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
55～59歳	15	19	1	5	0	3	1	7	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
60～64歳	24	31	9	15	0	6	3	7	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2
65～69歳	24	51	11	25	0	8	7	13	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	1	1
70～74歳	36	93	15	48	0	11	8	29	0	3	0	0	0	0	1	0	0	2	0	2	0	1
75～79歳	62	133	33	82	0	34	21	42	1	3	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
80歳以上	91	235	38	103	0	40	14	56	3	1	0	0	0	0	4	4	1	0	0	0	0	1
計	264	573	109	283	0	4	54	153	5	8	0	0	0	1	6	4	3	4	7	9	2	7
合計 (比率%)	837		392 (100)		4 (1.0)	207 (52.8)		13 (3.3)		0 (0.0)	1 (0.3)	10 (2.6)		7 (1.8)	10 (2.3)							

※ 「その他」は、転出、死亡、入院中の者及び医師が他の疾病の罹患等により、当事業でのフォローは不必要であると認められた者を指す。

(4) 平成7～25年度肝臓がん検診結果

年齢	一次検診 受診者数(人)		HBs抗原陽性					HCV抗体陽性				
	a		陽性者数 b		陽性率(%) c = b / a			陽性者数 d		陽性率(%) e = d / a		
	男	女	男	女	男	女	計	男	女	男	女	計
40～44歳	3,571	7,620	110	165	3.08	2.17	2.46	37	48	1.04	0.63	0.76
45～49歳	2,969	6,635	122	206	4.11	3.10	3.42	39	99	1.31	1.49	1.44
50～54歳	3,231	8,115	135	256	4.18	3.15	3.45	41	156	1.27	1.92	1.74
55～59歳	4,128	10,098	120	286	2.91	2.83	2.85	77	249	1.87	2.47	2.29
60～64歳	8,646	14,906	250	297	2.89	1.99	2.32	202	468	2.34	3.14	2.84
65～69歳	10,075	14,938	262	296	2.60	1.98	2.23	300	519	2.98	3.47	3.27
70～74歳	8,688	12,798	165	219	1.90	1.71	1.79	309	463	3.56	3.62	3.59
75～79歳	3,639	5,841	64	82	1.76	1.40	1.54	150	225	4.12	3.85	3.96
80歳以上	2,602	4,446	31	67	1.19	1.51	1.39	112	150	4.30	3.37	3.72
計	47,549	85,397	1,259	1,874	2.65	2.19	2.36	1,267	2,377	2.66	2.78	2.74
合計	132,946		3,133		2.36			3,644		2.74		

(5) 肝臓がん検診及び定期検査による発見がん患者追跡調査結果について

1) 平成25年度健康増進事業における肝炎ウイルス検査による発見がんまたはがん疑い

No.	年齢	性	診断	初回治療	治療日	病巣数	部位	大きさ	型	肝硬変	ウイルス	AFP
1	55	女	癌なし							有	B	81.8
2	77	男	肝癌	切除	13.12.17	単発	S4	53×53	腫瘤	有	B	7.2
3	72	男	肝癌	TAE	13.11	>4個	S4	44×39	腫瘤	有	B	969

2) 平成25年度定期検査による発見がんまたはがん疑い

No.	年齢	性	診断	初回治療	治療日	病巣数	部位	大きさ	型	肝硬変	ウイルス	AFP
1	68	男	肝癌	切除	13.5.20	単発	S5	35×38	腫瘤	無	B	52
2	60	女	肝癌	TAE	13.8.26	単発	S3	18×15	腫瘤	有	B	3548
3	70	女	肝癌	RFA	14.4	単発	S1	14×14	腫瘤	無	B	2.9
4	83	女	肝癌	T/R	13.10	単発	S7	26×26	腫瘤	無	C	263.8
5	88	男	肝癌	TAE	13.10.31	>4個	S4278	34×34	腫瘤	有	C	28.9
6	79	女	肝癌	切除	13.3	単発	S8	45×45	浸潤	無	C	32
7	73	男	肝癌	T/R	13.7.2	>4個	両葉	24×24		無	C	19
8	80	女	肝癌	T/P	13.5.1	単発	S5	30×30	腫瘤	無	C	21
9	94	男	肝癌		12.8.6						C	
10	83	女	肝癌	TAE	7	>4個	S157		浸潤	有	C	10250.0
11	65	女	癌なし								B	3.9
12	84	女	調査中								B	230.1
13	79	男	肝癌	21年度報告済							B	
14	85	男	肝癌	15年度報告済							B	
15	55	男	癌なし								B	53.7
16	76	男	肝癌	24年度報告済							B	
17	77	男	肝癌	24年度報告済							B	
18	78	女	癌なし	24年度報告済							B	
19	80	男	肝癌	19年度報告済							C	
20	83	女	肝癌	24年度報告済							C	
21	79	男	肝癌	23年度報告済							C	
22	77	男	肝癌	24年度報告済							C	

2) 平成7年度～平成24年度肝炎ウイルス陽性者定期検査による発見癌追跡調査報告

No.	年齢	性	初回治療	治療日	病巣数	部位	大きさ	型	肝硬変	ウイルス	備考
1	71	男	切除	95. 8.	単発			腫瘍	有	C	再発、6年11か月後死亡
2	63	男	切除	97. 2. 26	単発	S8	30×30	腫瘍	有	C	4年6か月後死亡
3	71	男	TAE	97. 7. 16	2個	S68	30×30	腫瘍	無	C	再発、5年9か月後死亡
4	63	女	PEIT	97. 12. 3	単発	S2	10×10	腫瘍	無	C	12年11か月後他病死
5	59	男	TAE	98. 5.	単発	S8	20×20	腫瘍	有	B	再発、3年2か月後死亡
6	76	女	TAE	98. 6. 30	単発	S8	30×30	腫瘍	有	C	再発、2年3か月後死亡
7	70	男	切除	98. 9. 1	単発	S8	40×30	腫瘍	有	C	再発、2年9か月後死亡
8	68	男	MCT	99. 1. 25	4個	S2377	27×27	腫瘍	有	C	再発、3年5か月後死亡
9	83	男	TAE	99. 2. 11	>4個	S35678	40×30	腫瘍	有	C	11か月後死亡
10	79	男	TAE	99. 6. 9	単発	S8		浸潤	有	C	8か月後死亡
11	64	男	切除	00. 2. 8	2個	S5/6. 4	75×70	腫瘍	無	C	再発、3年6か月後死亡
12	79	女	TAE	00. 3. 1	単発	S6	10×10	腫瘍	有	B	8年8か月後死亡
13	66	男	切除	00. 9. 27	2個	S65	15×15	腫瘍	有	B	再発、4年2か月後死亡
14	82	男	TAE	00. 4. 5	単発	S4	55×40	腫瘍	有	C	1年2か月後他病死
15	74	女	切除	00. 2. 28	単発	S2	32×32	腫瘍	有	C	再発、4年4か月後死亡
16	64	女	TAI	99. 10. 14	>4個	S23457	10×10	腫瘍	有	C	再発、5年8か月後死亡
17	75	男	TAE	00. 4. 19	単発	S7	30×30	腫瘍	無	C	4年5か月後死亡
18	75	男	TAE	97. 11.	>4個	S4568	25×25	腫瘍	有	C	4年1か月後他病死
19	86	男	PEIT	00. 8. 18	単発	S4	15×15	腫瘍	無	C	7年9か月後他病死
20	70	女		01. 7. 2						C	同月死亡
21	65	男	切除	98. 2. 5	単発	S1	90×90	腫瘍	有	B	3年10か月後死亡
22	67	男	切除	01. 11. 19	単発	S8	13×13	腫瘍	有	B	3年8か月後再発
23	76	女	T/P	01. 8. 1	単発	S7	15×15	腫瘍	有	C	再発、4年3か月後死亡
24	66	女	TAE	01. 7. 26	単発	S7	10×10	腫瘍	無	C	無再発生存中
25	75	女	T/P	02. 3. 4	単発	S5/6	37×31	腫瘍	無	C	5年1か月後他病死
26	73	男	TAE	01. 4. 10	単発	S5	20×20	腫瘍	有	C	7か月後死亡
27	76	女	T/P	02. 10. 10	単発	S5	20×20	腫瘍	有	C	2年1か月後他病死
28	79	女	TAE	01. 6. 27	>4個	S2457	40×40	腫瘍	無	C	1年10か月後死亡
29	79	女	切除	03. 2. 26	単発	S3	30×30	浸潤	有	C	再発、3年6か月後死亡
30	82	女	RFA	03. 5. 26	単発	S5	35×35	腫瘍	無	B	再発、2年5か月後死亡
31	78	女	T/R	02. 9. 24	単発	S8	40×40	腫瘍	無	C	1年3か月後他病死
32	75	男	切除	03. 6. 3	単発	S6	20×20	腫瘍	有	B	4年後再発
33	76	男	切除	04. 3. 10	2個	S28	50×50	腫瘍	無	C	再発、3年5か月後死亡
34	76	男	MCT	03. 8. 14	単発	S8	25×20	腫瘍	有	C	2年4か月後再発
35	83	男	PEIT	03. 5. 30	単発	S5/6	22×21	腫瘍	無	C	再発、6年8か月後死亡
36	80	男	RFA	04. 8. 3	>4個	S13468	30×25	腫瘍	有	C	3年10か月後死亡
37	91	女	未治療		>4個	S3478	100×100	腫瘍	不明	C	2か月後死亡
38	74	女	TAE		>4個			腫瘍	無	C	2年10か月後死亡
39	75	女	TAE	03. 10.	単発	S8	23×23	腫瘍	有	C	再発、4年2か月後死亡
40	79	男	RFA	04. 3. 15	単発	S8	30×20	腫瘍	無	C	再発、6年4か月後死亡
41	56	男	RFA	04. 4. 7	単発	S7/8	23×26	腫瘍	有	B	無再発生存中
42	78	女	TAE	04. 5. 19	単発	S5	25×25	腫瘍	不明	C	再発、7年3か月後死亡
43	75	男	TAI	05. 1. 6	3個	S568	15×15	腫瘍	有	C	再発、1年3か月後死亡
44	68	男	切除	04. 9. 13	単発	S6	30×20	腫瘍	有	C	再発、8年2か月後死亡
45	72	女	T/R	04. 10.	2個	S86	20×20	腫瘍	有	B/C	再発、1年5か月後死亡
46	62	男	TAE	03. 4.	不明	不明	不明	腫瘍	無	C	再発、3年後死亡
47	86	女	TAE	04. 6.	単発	S8	40×40	腫瘍	有	C	5か月後死亡
48	73	男	切除	00. 3.	不明	不明	10×10	不明	有	B	再発、6年後死亡
49	76	男	切除	05. 5. 12	単発	S7/8	90×80	腫瘍	無	B	4年3か月後再発
50	64	男	TAE	09. 1.	単発	S5	10×10	腫瘍	有	C	再発、3年3か月後死亡
51	73	女	未治療		>4個	S278	7×7	腫瘍	有	C	4年10か月後死亡
52	75	男	切除	06. 3. 29	単発	S7/8	43×25	浸潤	無	C	再発、6年2か月後死亡
53	74	男	RFA	04. 9. 6	単発	S7	18×18	腫瘍	有	C	5年5か月後死亡
54	75	男	T/R	05. 8.	2個	S67	25×25	腫瘍	有	C	4年2か月後死亡
55	87	女	未治療		単発	S2	20×20	腫瘍	有	C	4年後他病死
56	89	女	T/P	05. 12.	単発	S2	15×15	腫瘍	無	C	4年1か月後他病死
57	82	女	T/R	05. 10.	単発	S6	50×50	腫瘍	無	C	1年9か月後他病死
58	77	女	切除	04. 11. 7	2個	S68	20×20	腫瘍	有	C	2年11か月後再発
59	59	女	RFA	06. 1.	単発	S5	13×12	腫瘍	無	B/C	再発、7年7か月後死亡
60	67	女	RFA	04. 4.	単発	S5	15×15	腫瘍	無	B	6年3か月後再発
61	68	男	肝癌否定		(単)	S6	13×13)		無	B	生存中
62	69	男	TAE	07. 11. 14	2個	S57	15×15	腫瘍	有	C	再発、3年6か月後死亡
63	79	男	TAE	06. 11.	多発	両葉	20×20	腫瘍	有	C	1年10か月後死亡
64	87	女	T/R	06. 11. 15	単発	S4	16×23	腫瘍	無	C	再発、6年4か月後死亡
65	79	男	T/R	06. 11. 20	単発	S8	30×30	腫瘍	無	C	無再発生存中
66	82	女	TAE	06. 3. 14	単発	S8	35×35	腫瘍	有	C	再発、7年3か月後死亡
67	69	男	切除	06. 9. 26	2個	S67	22×20	腫瘍	無	C	無再発生存中
68	72	女	TAE	06. 5. 18	単発	S6	15×15	腫瘍	有	C	再発、4年10か月後死亡
69	81	女	切除	97. 3. 24	単発	S8		腫瘍	無	C	再発、12年11か月後死亡
70	80	男	T/R	06. 8. 31	>4個	S84	31×27	腫瘍	有	C	再発、6年1か月後死亡
71	73	女	TAE	06. 2. 21	>4個	S853	37×31	腫瘍	有	C	1年6か月後死亡
72	64	男	切除	07. 1. 12	単発	S5	35×35	腫瘍	無	C	2年10か月後再発
73	82	女	TAE	06. 9. 6	単発	S1	20×20	腫瘍	有	C	再発、1年後死亡

No.	年齢	性	初回治療	治療日	病巣数	部位	大きさ	型	肝硬変	ウイルス	備考
74	80	男女	RFA	02. 9.	単発	S8		腫瘍	有	C	再発、9年6か月後死亡
75	63	女	T/R	07. 5. 8	単発	S8	16×16			B	7年1か月後再発
76	73	男	M/R	03. 8. 5	>4個	S348	15×15		無	B	再発、8年後死亡
77	73	男	切除	05. 3. 14	単発	S45	42×28	腫瘍	無	B	再発、3年後死亡
78	74	男	切除	06. 12. 21	単発	S458	35×30	腫瘍	無	C	4年7か月後再発
79	60	女	RFA	07. 7.	単発	S7	17×12	腫瘍	無	C	3年4か月後再発
80	87	女	未治療		単発	S6	66×56	腫瘍	無	C	2年7か月後他病死
81	80	女	TAE	03. 3.	単発	S2/3	20×20			C	再発、8年7か月後死亡
82	77	女	TAE	08. 10. 7	単発	S6	50×50	腫瘍	有	C	再発、2年後死亡
83	70	男	RFA		単発	S5	12×12	腫瘍	有	B	無再発生存中
84	77	女	TAE	09. 3. 24	2個	S58	25×25	腫瘍	有	C	1年3か月後肝不全死
85	84	女	T/P	09. 9. 7	単発	S7	30×30	腫瘍	有	C	無再発生存中
86	72	女	TAE	09. 12. 18	>4個		40×40	腫瘍	有	C	再発、3年2か月後死亡
87	79	女	TAE	10. 11. 18	2個	S8/3	40×35	腫瘍	有	C	無再発生存中
88	89	女	TAE	09. 10. 6	>4個		20×20	腫瘍		C	3年9か月後死亡
89	76	女	T/R	09. 10. 6	単発	S3	25×25	腫瘍	有	C	無再発生存中
90	76	女	T/R	09. 7. 22	2個	S3/5	25×25	腫瘍	有	C	1年7か月後死亡
91	79	男	T/R	10. 3. 25	単発	S7	23×23		有	C	2年11ヶ月後他病死
92	85	女	切除	10. 3	単発	S3	25×25	腫瘍	無	C	再発、3年後死亡
93	66	男	TAE	09. 7	>4個	S1		浸潤	有	B	1年10か月後死亡
94	73	女	切除	09. 10. 20	単発	S5	40×40	腫瘍	無	B	無再発生存中
95	68	女	切除	09. 8. 21	>4個	S348	15×15	腫瘍	無	B	生存中
96	75	男	TAE	08. 1	>4個	S2458	38×25	腫瘍	有	C	再発、5年3か月後死亡
97	78	男	精査中							C	
98	75	男	TAE	07. 2. 11	単発	S6			無	B	7か月後再発
99	66	男	TAE	11. 1. 20	2個	S5/6	12×12	腫瘍	無	C	無再発生存中
100	80	女	RFA	10. 11. 09	単発	S6~7	18×18	腫瘍	無	C	3年8か月後再発
101	64	女	TAE	10. 11	単発	S6	5×5	腫瘍	無	C	再発、5年1か月後死亡
102	75	女	切除	08. 7. 30					無	C	無再発生存中
103	75	男	TAE	10. 12. 08	>4個	S2/5/6/7/8	20×17	腫瘍	無	C	再発、2年5か月後死亡
104	69	女	RFA	10. 4	単発	S6	18×18		無	C	3年10か月後再発
105	79	男	TAI	09. 10. 26	2個	S7/8	18×15	腫瘍		C	2年8か月後死亡
106	71	女	切除	07. 8. 17	単発	S2~3	60×60	腫瘍	有	B	再発、4年5か月後死亡
107	85	女	RFA	10. 7	2個	S4/7	15×15	腫瘍	有	C	2年5か月後再発
108	84	女	RFA	09. 10. 30	単発	S8	15×15	腫瘍	有	C	無再発生存中
109	65	男	T/R	10. 3.	単発	S5	24×24		有	B	2年5か月後再発
110	57	女	切除	11. 1. 18	単発	S6	40×25	腫瘍	無	B	無再発生存中
111	78	女	肝癌否定		単発	S5	5×5		有	C	5か月後腫瘍消失
112	87	男	RFA	11. 4. 7	単発	S5	15×16	腫瘍	無	C	無再発生存中
113	67	男	肝がん否定							C	
114	77	女	RFA	11. 7	単発	S8	20×20	腫瘍	有	C	1年2か月後再発
115	92	女	TAE	11. 10. 4	単発	S8	20×20	腫瘍	有	C	再発、2年5か月後死亡
116	78	女	T/R	10. 3. 24	単発	S2/3	19×18	腫瘍	有	C	9か月後再発
117	76	男	切除	11. 7. 26	単発	S7	80×75	腫瘍	無	C	無再発生存中
118	75	男	RFA	11. 7	単発	S6	14×14	腫瘍	有	B	3年2か月後再発
119	84	男	転移性肝癌	(肺大細胞癌)						B	5か月後死亡
120	75	男	RFA	13. 10. 2	単発	S7	15×14	腫瘍	有	B	無再発生存中
121	75	男	切除	11. 6.					有	B	4年0か月後他病死
122	70	女	PEI	12. 5. 9	単発	S4	27×20	腫瘍	有	C	再発、8か月後死亡
123	83	男	TAE	11. 8. 30	単発	S6	35×30	腫瘍	無	C	2年7か月後再発
124	75	女	RFA	8. 10.	単発	S5	20×20	腫瘍	無	C	無再発生存中
125	80	女	TAE	12. 11. 20	単発	S1	40×40	腫瘍	無	C	2年0か月後再発
126	86	男	T/R	13. 11	3個	S146	13×13	腫瘍	無	C	無再発生存中
127	78	女	RFA	12. 3. 1	単発	S4	8×9	腫瘍	有	C	1年10か月後再発
128	82	女	RFA	12. 3. 14	単発	S7	13×9	腫瘍	有	C	1年11か月後再発
129	87	女	TAE	12. 7. 6	2個	S3	20×15	腫瘍	有	C	再発、2年5か月後死亡
130	85	女	RFA	12. 2. 13	単発	S5	10×17	腫瘍	無	C	無再発生存中
131	76	男	TAE	12. 6. 20	>4個	S45678	55×52	腫瘍	有	C	肝動注施行
132	81	女	TAE	10. 11. 10	単発	S3	15×15	腫瘍	有	C	再発、2年6か月後死亡

3) 平成7年度～平成23年度肝臓がん検診発見癌追跡調査報告

No.	年齢	性	初回治療	治療日	病巣数	部位	大きさ	型	肝硬変	ウイルス	備考
1	74	女	切除	95.10.24	単発	S4	55×55	腫瘤	有	C	再発、7年7か月後死亡
2	70	女	TAE	96.2.20	単発	S8	40×38	腫瘤	無	C	再発、2年1か月後死亡
3	63	女	切除	96.3.13	単発	S7	30×23	腫瘤	有	C	再発、15年1か月後死亡
4	83	男	TAE	96.7.15	単発	S4	12×12	腫瘤	無	C	再発、3年9か月後死亡
5	74	女	TAE	96.8.29	>4個	S5678	35×35	腫瘤	無	C	再発、1年8か月後死亡
6	64	女	TAE	96.10.25	>4個	S67	67×57	腫瘤	無	B	9か月後死亡
7	72	男	TAE	96.11.1	2個	S6	20×20	腫瘤	有	—	再発、1年1か月後死亡
8	70	男	PEIT	96.11.22	単発	S5	25×25	腫瘤	有	C	再発、5年2か月後死亡
9	69	男	PEIT	97.1.7	単発	S7	10×9	腫瘤	無	C	再発、6年1か月後死亡
10	73	女	TAE	97.11.17	>4個	S234	80×60	腫瘤	無	C	3か月後死亡
11	61	男	TAE	97.11.17	3個	S568	15×10	腫瘤	有	C	再発、2年3か月後死亡
12	75	男	TAE	97.12.4	単発	S7/8	40×32	腫瘤	無	C	7か月後死亡
13	57	男	TAE	98.3.3	単発	S1	70×50	腫瘤	有	B	1年後死亡
14	80	女	切除	98.7.31	単発	S5/6	25×25	腫瘤	無	C	9か月後死亡
15	49	男	RES	99.12.15	>4個	S4568	80×80	浸潤	無	B	4か月後死亡
16	69	男	切除	00.12.23	単発	S8	50×50	腫瘤	無	—	再発、1年5か月後死亡
17	66	男	TAE	01.9.19	単発	S6	100×100	腫瘤	無	C	1年10か月後死亡
18	72	男	PEIT	04.8.2	2個	S1,5	25×25	腫瘤	有	C	再発、3年11か月後死亡
19	83	男	T/R/P	05.10.17	2個	S1,4	30×30	腫瘤	有	C	再発、3年11か月死亡
20	67	女	切除	06.08.09	単発	S8	25×25	腫瘤	有	B	無再発生存中
21	79	男	T/R	06.11.	単発	S8	20×20	腫瘤	有	C	3年後再発
22	72	男	切除	08.4.21	単発	右葉	100×100	腫瘤	有	C	37日後死亡
23	60	男	TAE	08.4.	>4個	両葉	40×40	腫瘤	有	C	2年6か月後死亡
24	61	男	動注/放射	11.10.	>4個	骨転移あり				B	10か月後死亡
25	78	男	切除	12.4.19	単発	S3	20×20	腫瘤	有	C	1年5か月後再発

7. 全国がん検診実績との比較

平成24年度

(単位：人 %)

区 分		平成24年度実績 (鳥取県)	平成24年度実績 (全国)	留 意 事 項
胃 が ん 検 診	対象者数 (人)	190,556	41,934,081	○受診者・がん発見 = (鳥取県)「X線」「内視鏡」の合計値 (全国)「X線」のみ ○要精検者・精検受診者 = 「X線」のみの数値 ○精検受診者は精検結果未把握の者を除く (以下の部位も同じ)
	受診者数 (人)	46,962	3,784,967	
	受診率 (%)	24.6	9.0	
	受診率順位	2位	—	
	要精検者数 (人)	1,396	333,625	
	要精検率 (%)	9.15	8.81	
	精検受診者数(人)	1,166	271,810	
	精検受診率 (%)	83.5	81.5	
	がんの者 (人)	157	6,303	
	がん発見率 (%)	0.33	0.17	
子 宮 頸 部 が ん 検 診	対象者数 (人)	135,485	33,245,712	○「頸部のみ」の数値 ○全国と比較するための受診率 全国は隔年検診であるため、比較のため受診率 () を算定している。 $\frac{(\text{前年度受診者数}) + (\text{当該年度受診者数}) - (\text{前年度及び当該年度2年連続受診者数})}{\text{当該年度の対象者数}}$ ※受診率の計算 (厚生労働省老人保健事業報告数値を使用) 全国 $\frac{(4,492,608) + (4,495,338) - (1,177,050)}{(33,245,712)} = 23.5$ 鳥取 $\frac{(28,206) + (29,332) - (15,433)}{(142,251)} = 29.6$
	受診者数 (人)	29,307	4,492,608	
	受診率 (%)	21.6 (29.6)	(23.5)	
	受診率順位	(8)位	—	
	要精検者数 (人)	364	85,191	
	要精検率 (%)	1.24	1.90	
	精検受診者数(人)	252	59,366	
	精検受診率 (%)	69.2	69.7	
	がんの者 (人)	53	3,312	
	がん発見率 (%)	0.18	0.07	
肺 が ん 検 診	対象者数 (人)	190,556	42,163,859	○「X線のみ」「X線及び喀痰」の合計値 (「喀痰のみ」は除く) ※全国は「喀痰のみ」を含めた数値で算定
	受診者数 (人)	50,376	7,289,543	
	受診率 (%)	26.4	17.3	
	受診率順位	15位	—	
	要精検者数 (人)	2,460	174,439	
	要精検率 (%)	4.88	2.39	
	精検受診者数(人)	2,201	137,866	
	精検受診率 (%)	89.5	79.0	
	がんの者 (人)	35	4,121	
	がん発見率 (%)	0.07	0.06	

区 分		平成24年度実績 (鳥取県)	平成24年度実績 (全国)	留 意 事 項
乳 が ん 検 診	対象者数 (人)	118,248	25,680,981	○「視触診方式及びマンモグラフィ」の併用者を計上 ○全国と比較するための受診率 全国は隔年検診であるため、比較のため受診率()を算定している。 $\frac{(\text{前年度受診者数}) + (\text{当該年度受診者数}) - (\text{前年度及び当該年度2年連続受診者数})}{\text{当該年度の対象者数}}$ ※受診率の計算(厚生労働省老人保健事業報告数値を使用) 全国 $\frac{(2,376,348) + (2,509,946) - (409,952)}{(25,680,981)} = 17.4$ 鳥取 $\frac{(17,782) + (18,182) - (1,515)}{(122,475)} = 28.1$
	受診者数 (人)	17,818	2,376,348	
	受診率 (%)	15.1(28.1)	(17.4)	
	受診率順位	(3)位	—	
	要精検者数 (人)	1,314	196,889	
	要精検率 (%)	7.37	8.29	
	精検受診者数(人)	1,211	167,359	
	精検受診率 (%)	92.2	85.0	
	がんの者 (人)	78	7,890	
	がん発見率 (%)	0.44	0.33	
大 腸 が ん 検 診	対象者数 (人)	190,556	42,791,742	
	受診者数 (人)	54,362	7,985,691	
	受診率 (%)	28.5	18.7	
	受診率順位	5位	—	
	要精検者数 (人)	4,669	586,987	
	要精検率 (%)	8.59	7.35	
	精検受診者数(人)	3,588	379,751	
	精検受診率 (%)	76.8	64.7	
	がんの者 (人)	149	19,253	
	がん発見率 (%)	0.27	0.24	

(出典) 鳥取県数値 = 鳥取県健康対策協議会各がん検診専門委員会資料

全国数値 = 地域保健・健康増進事業報告(厚生労働省)

(注) 1 鳥取県の数値は、県が独自に調査した結果であり、厚生労働省による調査結果である「地域保健・健康増進事業報告」に記載された数値とは異なる場合がある。

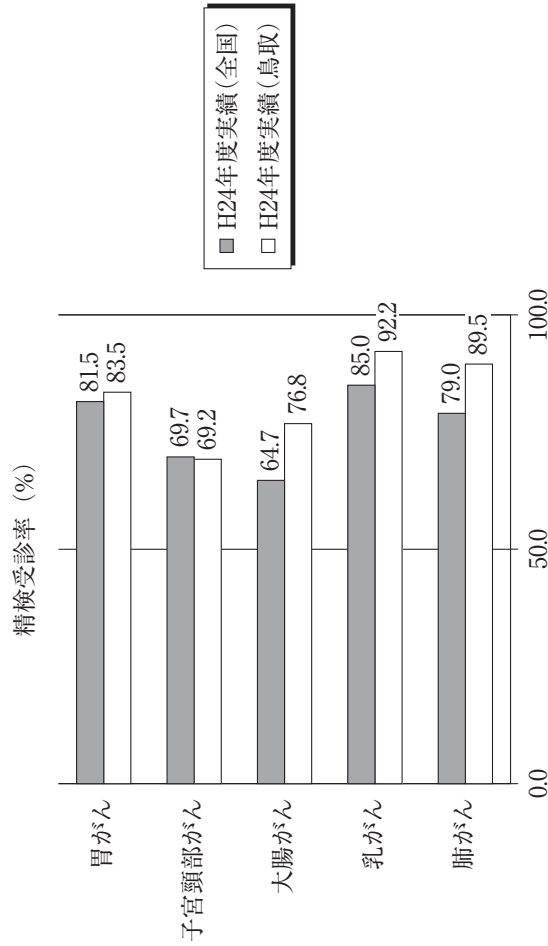
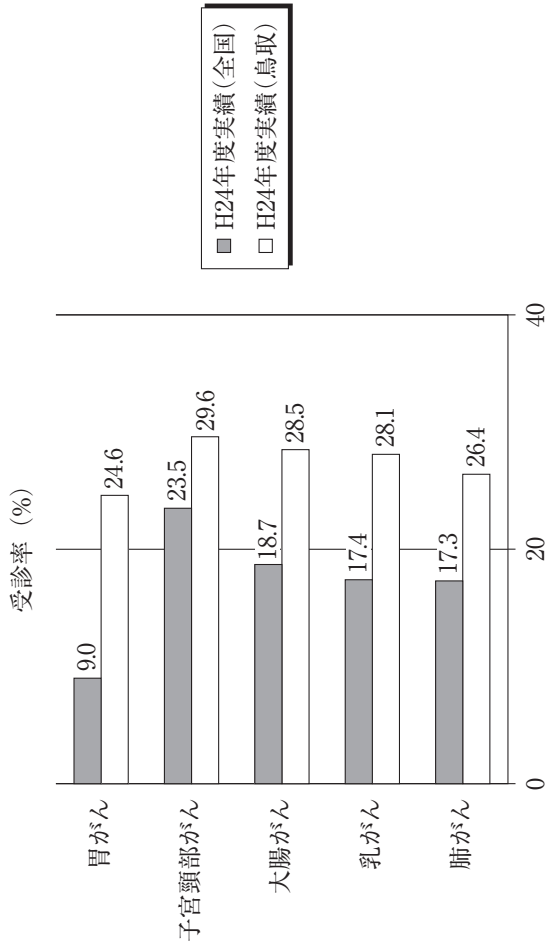
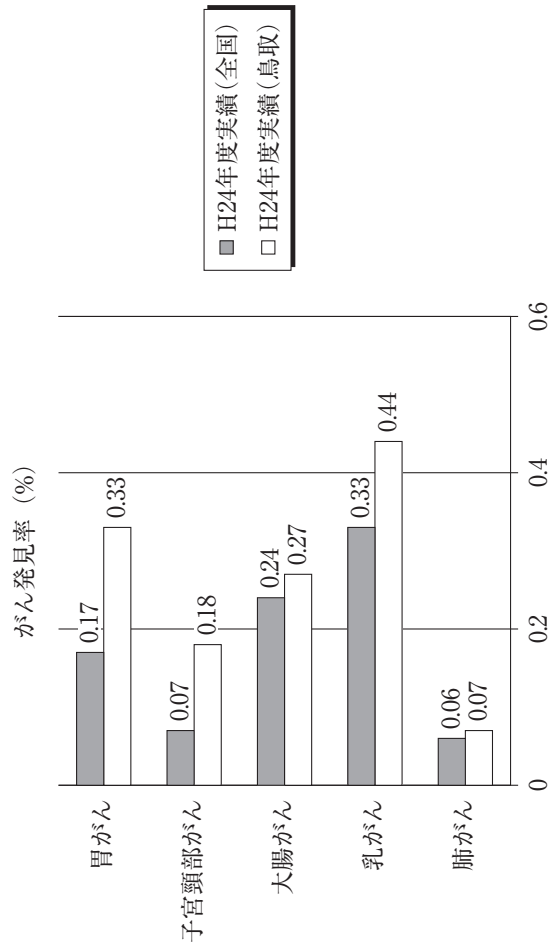
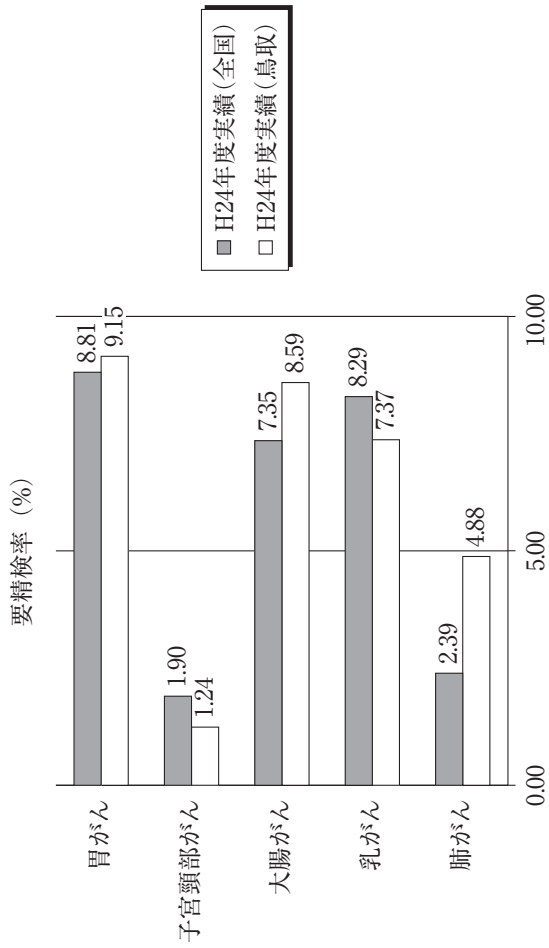
2 受診率順位は厚生労働省地域保健・健康増進事業報告数値と比較した順位

3 全国の精検受診者は国が発表していないため、次により算定

精検受診者 = 「要精検者 - (未受診者 + 精検結果未把握の者)」

4 要精検者数等については、平成20年度分から翌年度集計となったため、空欄としている

平成24年度全国がん検診実績との比較



厚生労働省「今後のわが国におけるがん検診事業評価の在り方について」報告書
 がん検診事業の評価に関する委員会（平成20年3月）による
 プロセス指標と本県実績との比較

平成25年度実績

		胃がん					
		国指標	鳥取県実績				備考
			年齢上限なし	～69才まで			
がん検診受診率	目標値	50%達成	25.1%		31.2%		
要精検率[X線のみ]	許容値	11.0%以下	8.5%	○	7.7%	○	
精検受診率[X線のみ]	許容値	70%以上	81.6%	○	79.0%	○	
	目標値	90%以上					
がん発見率	許容値	0.11%以上	0.36%	○	0.29%	○	[X線]0.178% [内視鏡]0.355%
陽性反応適中度[X線のみ]	許容値	1.0%以上	2.2%	○	2.3%	○	

		肺がん					
		国指標	鳥取県実績				備考
			年齢上限なし	～69才まで			
がん検診受診率	目標値	50%達成	26.5%		30.5%		
要精検率	許容値	3.0%以下	4.6%		3.8%		
精検受診率	許容値	70%以上	87.9%	○	88.9%	○	
	目標値	90%以上					
がん発見率	許容値	0.03%以上	0.09%	○	0.06%	○	
陽性反応適中度	許容値	1.3%以上	1.9%	○	1.6%	○	

		大腸がん					
		国指標	鳥取県実績				備考
			年齢上限なし	～69才まで			
がん検診受診率	目標値	50%達成	29.2%		36.4%		
要精検率	許容値	7.0%以下	9.8%		8.4%		
精検受診率	許容値	70%以上	76.1%	○	75.1%	○	
	目標値	90%以上					
がん発見率	許容値	0.13%以上	0.26%	○	0.22%	○	
陽性反応適中度	許容値	1.9%以上	2.7%	○	2.6%	○	

		子宮がん					
		国指標	鳥取県実績				備考
			年齢上限なし	～69才まで			
がん検診受診率	目標値	50%達成	21.9%		37.1%		
要精検率	許容値	1.4%以下	1.27%	○	1.48%	○	
精検受診率	許容値	70%以上	80.9%	○	81.7%	○	
	目標値	90%以上					
がん発見率	許容値	0.05%以上	0.08%	○	0.10%	○	
陽性反応適中度	許容値	4.0%以上	6.6%	○	8.4%	○	

		乳がん					
		国指標	鳥取県実績				備考
			年齢上限なし	～69才まで			
がん検診受診率	目標値	50%達成	15.8%		29.7%		
要精検率	許容値	11.0%以下	6.90%	○	7.55%	○	
精検受診率	許容値	80%以上	91.6%	◎	91.3%	◎	
	目標値	90%以上					
がん発見率	許容値	0.23%以上	0.40%	○	0.40%	○	
陽性反応適中度	許容値	2.5%以上	5.73%	○	5.32%	○	

※乳がんと子宮がんの受診率は、国指標は隔年検診であるので比較のため算定

Ⅲ. 平成26年度各がん検診従事者講習会及び 症例研究会開催状況

平成26年度がん検診従事者講習会及び症例研究会開催状況

事	業	名	開	催	日	時	場	所	出	席	者	内	容
胃	がん	胃がん検診従事者講習会及び症例研究会	平成27年	2月28日(土)	午後4時～午後6時	米子市 鳥取県西部医師会館	157名	演題：「胃がんリスク評価ABC分類の利点と課題」 講師：広島大学保健管理センター教授 吉原正治先生 症例検討 東部—1例：鳥取県立中央病院 田中 究先生 中部—1例：鳥取県立厚生病院 林 暁洋先生 西部—1例：山陰労災病院 神戸 貫雅先生					
子宮	がん	子宮がん検診従事者講習会及び症例検討会	平成27年	2月15日(日)	午後4時～午後6時	倉吉市 倉吉交流プラザ	57名	演題：「子宮頸がん診断における最近の話題」 講師：鳥取大学医学部附属病院総合周産期母子医療センター 助教 野中道子先生 症例提示5例					
肺	がん	肺がん検診従事者講習会及び症例研究会	平成27年	2月21日(土)	午後4時～午後6時	倉吉市 倉吉交流プラザ	80名	演題：「肺癌画像診断—胸部単純X線写真を中心に—」 講師：滋賀医科大学放射線医学講座准教授 新田哲久先生 症例検討 東部—1例：鳥取県立中央病院 前田啓之先生 中部—1例：鳥取県立厚生病院 大野貴志先生 西部—1例：鳥大医附属病院胸部外科 松居真司先生					
乳	がん	乳がん検診従事者講習会及び第22回鳥取県乳がん症例発見乳がん症例検討会	平成26年	8月23日(土)	午後4時30分～午後6時20分	倉吉市 倉吉交流プラザ	71名	演題：「乳がん検診の現状と対策」 講師：岡山大学病院 乳腺・内分泌外科教授 土井原博義先生 症例検討 東部—2例：鳥取赤十字病院 山口由美先生 中部—1例：野島病院 林 英一先生 西部—1例：鳥大医附属病院乳腺・内分泌外科 廣岡由美先生					
大腸	がん	大腸がん検診従事者講習会及び症例研究会	平成26年	9月6日(土)	午後4時～午後5時50分	鳥取市 鳥取県健康会館	75名	演題：「がん対策としての大腸がん検診」 講師：国立がん研究センターがん予防・検診研究センター 検診研究部部长 斎藤 博先生 症例検討 東部—1例：鳥取市立病院 藤田 拓先生 中部—1例：鳥取県立厚生病院 井山拓治先生 西部—1例：鳥大医附属病院第二内科 八島一夫先生					
肝臓	がん	肝臓がん検診従事者講習会及び症例研究会	平成27年	2月14日(土)	午後4時～午後6時10分	倉吉市 倉吉交流プラザ	94名	演題：「肝がんの予防と早期発見のために—外来診療でできること—」 講師：岡山大学病院三朝医療センター副センター長 芦田耕三先生 症例検討 東部—1例：鳥取赤十字病院 満田朱理先生 中部—1例：鳥取県立厚生病院 永原天和先生 西部—1例：山陰労災病院 西向栄治先生					

1. 胃がん検診症例研究会

日時 平成27年2月28日(土) 午後4時～午後6時

場所 鳥取県西部医師会館

東・中・西部読影委員会より症例を提示し、症例検討を行った。

〔東部症例〕

提出者：鳥取県立中央病院 田 中 究

50歳代、男性

検診歴：平成21、22年の胃がん検診胃透視で幽門前庭部小弯辺縁不整、平成23年は穹窿部レリーフ異常で要精査の判定となっていたが、内視鏡検査は受けず。平成24年度の胃がん検診胃透視で胃角部前壁レリーフ集中と幽門前庭部大弯欠損を認め、至急内視鏡検査の判定となる。

経過：近医にて内視鏡検査施行後、当院紹介。当院内視鏡検査にて胃角部大弯前壁寄りにひだ集中を伴うⅡc病変、前庭部大弯に2型進行癌を認め、幽門側胃切除+肝部分切除施行。(術中に肝S1に微小転移認め切除 術前のCTでは同定されず)

Type0-Ⅱc、21×20mm M Gre tub2>tub1、SE、int、INFb、ly2、v2

Type2、44×32mm L Gre tub2>tub1、SS、int、INFb、ly2、v3

T4a、N3、M1 (HEP) Stage IV

術後多発肝転移認め、現在も化学療法継続中である。

考察：検診フィルムを見直したところ、平成21、22年のフィルムでは病変の指摘は困難と考えられた。23年のフィルムでは別の部位の所見が指摘されているが、胃角部前壁のレリーフ集中様所見は注意深く見ると指摘可能と考えられ、読影の際はより詳細に観察すべきと考えられた。

〔中部症例〕

提出者：鳥取県立厚生病院 林 暁 洋

70歳代、男性

既往歴：高血圧、糖尿病、ASO、高尿酸血症

検診歴：1. 平成22年4月 検診の上部消化管内視鏡検査(EGD)で、異常なし

2. 平成23年6月 検診のEGDで、異常なし

3. 平成24年10月 検診のEGDで胃前庭部大弯後壁寄りにⅡc病変を指摘。

現病歴：上記病変を指摘され、平成24年10月に当院に紹介となり、EGD、造影検査を行った。

身体所見：特記すべき所見なし

【上部消化管内視鏡検査(EGD)】

胃前庭部大弯にⅡc病変を認めたが、全景を観察するのが困難であったため、一度抜去し、内視鏡にキャップを装着し、再び観察した。潰瘍底は平坦な陥凹で、潰瘍辺縁は不整であった。

【上部消化管造影所見】

経過：当院の生検で、Group5、adenocarcinoma、sigの所見であった。

造影CT検査で遠隔転移やリンパ節転移の所見を認めず、手術適応と考え、消化器外科に紹介した。平成24年11月20日に腹腔鏡補助下幽門側胃切除術を施行した。

切除標本の病理検査結果は、sm(2.5mm、pT1b2)、18×13mm、tub2>por1、ly2、v0、pN0、pStage IAであった。

術後化学療法は行っていない。再発なく2年が経過している。

考察：1年前の検診のEGDを再度検討しても、病変は指摘できなかった。胃前底部大弯の襞裏

はファイバーが一気に抜去され、観察が困難な場合がある。ダウンアングルをかけてゆっくり引き抜いて観察するか、それでも困難であればキャップを使用するなど工夫が必要と思われた。

〔西部症例〕

提出者：山陰労災病院 神戸 貴 雅

70代、男性

検診歴：平成23年度 施設内視鏡検診で「慢性胃炎」と診断。

平成24年7月 施設内視鏡検診で「前庭部胃潰瘍癒痕」と指摘、同部位の生検は悪性所見なし。

平成25年8月 施設内視鏡検診で胃体部小弯に異常を指摘される。

経 過：平成25年8月 当院紹介となり、精査を行ったところ、GIF・精密MDLにて胃体部小弯に2型進行癌を認め、

9月 胃全摘術を施行した。(病理：Carcinoma, with lymphoid stroma pType2、19×15mm、pT2 (MP)、INFa、ly1、v1、pN1 (<3)、M0、Stage II A (T2、N1))

考 察：平成23年、平成24年の検診フィルムを遡及的に検討したところ、平成23年時ははっきりと指摘はできなかったが、平成24年時は病変の指摘は可能であり、見落としと考えられた。内視鏡施行医は背景粘膜に萎縮が強い患者に遭遇した時は、粘膜異常に注意を一層払う必要があり、発赤などを発見した場合は色素を散布したり、生検を施行する手間を惜しまないようにするべきである。また読影医はより注意深い観察を心がけると同時に、遠慮せずに精密検査の指示をだすようにせねばならない。

2. 子宮がん検診症例研究会

日 時 平成27年2月15日（日） 午後4時～午後6時

場 所 倉吉交流プラザ

症例検討：鳥取大学医学部産科婦人科 板持広明准教授の進行により、施設検診5例の症例検討が行われた。

検討内容：

鳥取大学医学部産科婦人科 野中道子助教より下記の5症例が提示された。

症例1、2、3は前年（平成24年度）の検診では異常を認めなかったが、平成25年度では腺異型を疑い、精密検査で上皮内腺癌または浸潤癌の診断に至った。症例4は、前年度陰性であったが、翌年浸潤癌で見つかった症例。症例5は、不正出血（月経異常）を契機に発見された異型内膜増殖症の症例であった。各症例の細胞像および組織像を供覧しながら、臨床経過とともに検討を行った。

腺系の異常は、細胞診やコルポ診による診断が難しく、十分な検体採取および毎年の検診が勧められる。また、扁平上皮系においても、十分な検体採取が必要である。閉経後や50歳以上の不正出血時また月経不順時に、内膜細胞診を行うことの重要性が再確認された。

平成26年度 子宮がん検診症例検討会提出症例

症例	年齢	市町村名	検診月日	一次検診機関	一次検診結果	精密検査機関	精密検査結果			治療機関名
							組織診断	進行期分類	TNM分類	
症例1	36歳	鳥取市	H21.09.10 H22.08.05 H23.07.28 H24.10.12 H25.08.27	みやもと産婦人科医院	ClassII NILM LSIL NILM AGC	鳥取県立中央病院	Adenocarcinoma in situ		TisNXMX	鳥取県立中央病院
症例2	37歳	鳥取市	H24.09.06 H25.07.20	鳥取北クリニック	NILM AGC	鳥取産院 鳥取県立中央病院	Adenocarcinoma in situ		TisNXMX	鳥取県立中央病院
症例3	52歳	米子市	H22.11.26 H25.12.02	中曾産婦人科医院	NILM AIS	鳥取大学医学部附属病院	Adenocarcinoma(内頸部型)	IB1期	pT1bN0M0	鳥取大学医学部附属病院
症例4	33歳	米子市	H24.11.07 H25.12.04	ミオ・ファティリティ・クリニック	NILM HSIL 中等度異形成	鳥取大学医学部附属病院	Microinvasive squamous cell carcinoma	IA1期		鳥取大学医学部附属病院
症例5	51歳	鳥取市	H22.10.19 H24.08.09 H25.12.20	鳥取産院	頸部：NILM 体部：なし 頸部：NILM 体部：なし 頸部：NILM 体部：陽性	鳥取県立中央病院	Endometrioid adenocarcinoma			その後不明

3. 肺がん検診症例研究会

日 時 平成27年2月21日(土) 午後4時～午後6時

場 所 倉吉交流プラザ

東・中・西部読影委員会より症例を提示し、症例検討を行った。

〔東部症例〕

提出者：鳥取県立中央病院 前田 啓之

症 例：70歳代、男性

主 訴：胸部異常陰影

既往歴：高血圧、高コレステロール血症 虫垂炎手術 未治療胆石

生活歴：喫煙 30本/日×19年

現病歴：上記既往に対し近医通院加療中であった。毎年肺がん検診を受けているが異常なし。平成25年10月肺がん検診にて初めてE1判定となった。自覚症状なし。

臨床経過：胸部Xpにて右中肺野に10mm程度の淡い浸潤影を認めた。CTでは右中葉の広範囲にわたる40mm大のすりガラス陰影を認めた。CTガイド下肺生検にて腺癌の診断となった。縦隔リンパ節転移を疑う所見はなかったが右上・下葉、左下葉に10-20mm大のpureGGNの多発を認めた。

治療経過：多発GGNに対しては部位と大きさから診断困難と判断し、経過観察の方針とした。右中葉GGNに対して完全鏡視下右肺中葉切除+縦隔リンパ節郭清ND2a-1を施行した。術後経過は良好で、UFT内服を開始するとともに多発GGNに対して3か月ごとの厳重フォロー中である。

病理検査結果：adenocarcinoma (肺胞上皮置換型優位)、38×18mm大 pT2aN0M0 IB

考察および問題点：過去に同様の経過で発見され、両側多発GGN、両側肺癌の診断で両側の手術に至った症例と文献的考察も提示した。多発肺癌の報告では腺癌が多発する症例が比較的多いようであった。今回の症例では経年受診による比較読影によって、今回からうじて淡い浸潤影を指摘され、精査の結果肺癌および多発GGNの診断に至ったものであるが、わずかな陰影変化や淡い陰影を呈する同様の症例をE1判定とするのは困難とも思われた。胸部Xpでの判定の限界とも考えられる症例で比較読影の重要性を確認できたことと、近年CTで指摘される多発肺癌症例も増加していることを念頭におく必要が考えられた。

〔中部症例〕

提出者：鳥取県立厚生病院 大野 貴志

「左上葉肺扁平上皮癌に対してスリーブ切除を行った一例」

鳥取県立厚生病院 外科 大野貴志、吹野俊介、大田里香子、児玉渉、西村謙吾、浜崎尚文

鳥取県立厚生病院 内科 古岡ひとみ、岩垣尚史、山本芳磨

症 例：70歳代、男性

主 訴：胸部レントゲン異常陰影

現病歴：平成18年～20年まで検診にて、胸部レントゲン、喀痰細胞診を施行されたが、異常を指摘されなかった。

平成25年1月、検診にて、胸部レントゲンを施行されたが、異常を指摘されなかった。

平成26年8月、検診にて、胸部レントゲンで左肺門付近に異常陰影を指摘され、同年9月当院受診された。喀痰細胞診は異常を指摘されなかった。

既往歴：糖尿病、高血圧、狭心症

家族歴：特記すべきことなし

生活歴：10本×50年 2ヶ月禁煙中

身体所見：153.0cm、57.2kg、特に異常なかった

血液検査：WBC 7180/ μ L、CRP 0.32mg/dLと、CRPの軽度上昇を認めた。血糖値は98mg/dLで正常であったが、HbA1c (NGSP) は7.3%と上昇を認めた。腫瘍マーカーは、CEA 4.1ng/mL、SCC 1.8ng/mL、CYFRA 2.3ng/mL、ProGRP 31.2ng/mL、NSE 11.6ng/mLと正常であった。

呼吸機能検査：VC 2.74L、%VC 86.0%、FEV1.0 2.15L、FEV1.0% 78.5%

臨床経過：平成18年～20年まで検診で喀痰細胞診と胸部レントゲン検査を施行されており、喀痰細胞診は全ての年でB判定であった。胸部レントゲンは、平成20年にE1判定であったが、精査で異常なかった。その後しばらく検診受診なかったが、平成25年1月に検診で胸部レントゲン施行されており、異常なしであった。平成26年8月に検診で喀痰細胞診と胸部レントゲン検査を施行されており、喀痰細胞診はB判定であったが、胸部レントゲンで左肺門部に2cm大の結節影を認めた。過去のレントゲンと比較しても、平成25年1月には指摘困難であった。胸部CTで左S3に約5cmのB3気管支の走行に伴うような腫瘍を認めた。気管支鏡検査にて、B3bに腫瘍と喀痰を認め、細胞診にてclass V (扁平上皮癌) と診断された。全身検索を行い、c-T2aN0M0と診断し、左上葉切除術の予定とした。B3bに局限した腫瘍であり、B3bの中樞側は肉眼的には異常なかった。術中迅速病理診断にて上葉気管支の断端を確認し、断端に癌陽性であれば、スリーブ切除の予定とした。手術では、上葉気管支の断端に癌陽性であり、左上葉スリーブ切除を行った。切除断端に癌陰性であることを確認し、気管支形成を行った。s-T2bN0M0。最終病理でも、肉眼的には異常のない気管支内にも腫瘍細胞が存在していた。断端は陰性。長径7cmの腫瘍で、扁平上皮癌、p-T2bN0M0、pI0d0e0pm0 (pI0) stage II A。術後経過は良好。術後補助療法として、TS-1内服2年間を予定している。

本症例についての考察：

本症例では、平成25年にも検診を受診していたが、胸部レントゲンを振り返ってみても、異常を指摘することは困難であった。

また、腫瘍は亜区域支に存在していたが、喀痰細胞診は陰性であった。

平成26年のCTでは腫瘍陰影をしっかりとらえていた。

平成25年のCTがないため推測しかできないが、CTを行っていれば、早期発見につながり、スリーブ切除を行わずに済んだかもしれない。

CT検診が肺門部肺癌でも有用な可能性を示唆した。(ただし、CTで腫瘍をとらえた平成26年には胸部レントゲンでも、結節影として認められた。)

結 語：左上葉肺扁平上皮癌に対してスリーブ切除を行った一例を呈示した。

重喫煙者に対する低線量CTは、肺癌死亡率減少が示唆されており、肺門部肺癌でも、早期発見・早期治療に役立つ可能性があるが、利点・欠点を理解する必要がある。

〔西部症例〕

提出者：鳥取大学医学部附属病院胸部外科 松 居 真 司

症 例：79歳、女性

主 訴：なし (胸部異常陰影)

既往歴：高血圧症、気管支喘息

生活歴：喫煙歴なし（Never smoker）、飲酒歴なし、アスベスト暴露歴なし

現病歴：毎年肺癌検診を受けていたが、異常を指摘されたことはなし（B判定）。平成25年9月、検診の胸部X線で異常陰影を指摘され（E1判定）当院紹介受診となる

臨床経過：当院初診時の胸部X線立位正面像では左下肺野の心・横隔膜陰影に重なって腫瘤影を認めた。胸部CT検査では左肺下葉背側（S10）に51×31mmの内部に空洞を伴う充実性不整形陰影を認めた。気管支鏡下肺生検で浸潤性粘液産生性腺癌と診断、PET-CTではSUVmax早期相3.44後期相4.42のFDG集積を認めた。全身検索で遠隔転移を認めず、左下葉肺腺癌cT2bN0M0として左下葉切除+ND2a-1を施行した。病理診断は浸潤性粘液産生性腺癌pT2bN0M0 stage IIAであった。

考 察：過去の胸部X線写真と比較すると、平成23年より心・横隔膜陰影に重なった不明瞭な結節影が確認されるが検診で指摘されず。平成24年、25年と増大傾向を示しているが、平成26年に初めて異常陰影として指摘された。本症例は心・横隔膜裏という解剖学的死角位置に発生した肺癌のため発見に時間を要する結果となった。佐々木らの検討（肺癌41(6)：653-660、2001）によれば、検診発見された進行肺癌（Ⅲ・Ⅳ期）は解剖学的死角となる領域（肺尖部の肋骨・鎖骨、第一肋骨の肋軟骨移行部、肺門部、肺血管領域、心・大動脈、横隔膜に重なる部位）に優位に多かった。本症例では心・横隔膜陰影に重なった部位に発生した肺癌であり、このような部位を意識した読影の必要性、また比較読影の重要性が再認識された。

4. 乳がん検診症例研究会

日 時 平成26年 8月23日 (土) 午後 4時30分～午後 6時20分

場 所 倉吉交流プラザ

〔東部症例〕

提出者：鳥取赤十字病院 山口 由美

「検診で異常を指摘されず、その後に診断された進行乳癌症例」

今回、検診で異常を指摘されず、その後短期間で発見された進行乳癌症例を2例経験したので報告する。

症例1：55歳、女性。

5か月前に検診を受診し、異常を指摘されなかったが、右乳房の硬結、ひきつれで受診。右乳房CDに広範な硬結があり、乳頭の牽引像も認めた。検診MMGは、検診時Cat1と診断されていたが、経年的にみると、右乳腺の厚さが徐々に増していた。画像検査で4.5cmを超える乳癌で、腋窩リンパ節転移陽性であった。浸潤性乳管癌（ER、PgR陽性、HER2陰性）と診断され、現在NAC中。

症例2：73歳、女性。

4か月前の検診では異常を指摘されず、乳房腫瘍を自覚して受診。右Cに1.0cm大の腫瘍を認め、腋窩に2cmを超える多発リンパ節転移を認めた。検診MMGでは右乳房UにFADを認めたが、経時的に濃度の上昇がみられた。細胞診で乳癌と診断され、乳房温存術を施行。pT1N2aM0 Stage II Bと診断された。病理結果では硬癌、ER、PgR陰性、HER2陰性のTriple negative乳癌であった。現在、化学療法を施行中である。これら2症例はMMGで異常陰影をとらえにくく、経時的な比較読影で変化をとらえる事ができた。比較読影の重要性を痛感する2症例であり、受診者にも可能な限り同一機関での検診を勧めていくことも大切である。

〔中部症例〕

提出者：野島病院 林 英一

「ICG蛍光法を用いた乳管腺葉部分切除術の1例」

症 例：60歳代、女性

今年の乳がん検診で、右乳頭よりの血性分泌を指摘された。これは本人も以前より気付いていた。

精査目的にて当院受診。右乳頭より血性分泌を認め、その細胞診ではClass IIIの診断であった。触診、MMG、エコーでは異常所見は認めなかった。

病理診断が必要と判断し、乳管腺葉部分切除を予定した。

従来では、インジコカルミンを乳管より注入し、青く染まった乳管を確認しながら切除を行っていたが、今回は、センチネルリンパ節生検に使用するICG蛍光法を応用した。

血性分泌を認める乳管にICGを注入し、PDEシステムにて、ICGの発する蛍光を観察、蛍光を発する腺葉を切除した（この手技を動画にて提示した）。

病理診断は乳腺症であった。

このシステムは、センチネルリンパ節の検索や、リンパ管、血管の観察に使用されるもので、その適応も広がりつつあるが、今回のような乳管腺葉部分切除に際しても、充分その威力を発するものと考えられる。

〔西部症例〕

提出者：鳥取大学医学部附属病院 乳腺・内分泌外科 廣岡由美
鳥取大学医学部附属病院乳腺内分泌外科 田中裕子、石黒清介

「術後ホルモン療法中にmgで指摘された対側乳癌の一例」

症 例：60歳代、女性。

10年前に右乳癌（3cm大、T2N0M0、Stage II A）に対し右乳房温存術（Bp+SLN→Ax（Ⅲ））を施行。組織型は乳頭腺管癌＞硬癌、ly2、v0、センチネルリンパ節のみ陽性、ER陽性、PgR陽性であった。術後補助療法として胸壁放射線照射、FEC 4kur施行し、その後ホルモン療法（TAM→LET）中、経過観察のMGで左乳房（M）にC5の腫瘍を認めた。精査にて左乳癌（1.5cm大、cT1N0M0、Stage I）と診断し、左乳房温存術（Bp+SLN→Ax（Ⅱ））を施行。組織型は硬癌で、腫瘍径は18mm、核グレード1、ly陽性、v0、pN1a（1/12）、Ki-67（17.6%）、ER陽性、PgR陰性、HER2陰性であった。乳癌の術後フォローアップとしてMGはガイドライン上で唯一推奨されている画像診断法であり、今回術後ホルモン療法中にMGで非触知対側乳癌を発見したため報告する。

5. 大腸がん検診症例研究会

日時 平成26年9月6日(土) 午後4時～午後5時50分

場所 鳥取県健康会館

東・中・西部読影委員会より症例を提示し、症例検討を行った。

〔東部症例〕

提出者：鳥取市立病院 藤田 拓

症例：60歳代、男性

高血圧・心不全・認知症で近医に通院中で、5年前に直腸癌で高位前方切除術を施行し、pType2、tub2、pSS、pN0、cM0、StageIIであった。翌年のsurveillanceの大腸内視鏡検査で上行結腸に新たに病変を認めた。現症と血液検査に明らかな異常なし。

白色光観察では上行結腸に周囲隆起を伴う陥凹性病変を認めた。周囲隆起は表面平滑でSMT様、陥凹部は退色調で一部に発赤を伴い、平坦で厚みを認めた。indigocarmine撒布で陥凹部は構造不明瞭で陥凹辺縁には蚕食像を認めた。NBI拡大観察では陥凹部は表面構造不明瞭、口径不同のある血管が低密度にnetworkを形成せず増生していた。生検で低分化型癌を認め、SM以深浸潤を伴う低分化型のde novo癌と診断した。

CTで明らかな転移を認めず、cStageIIと考え、右版結腸切除が施行された。病変断面は黄白色・充実性であった。病理組織像は、腫瘍細胞が充実性胞巣を形成して粘膜下層深部に浸潤し、リンパ管侵襲陽性、辺縁に僅かに分化型粘膜内癌を認めたが、腺腫成分を認めなかった。充実成分の免疫染色ではKi-67 80%以上陽性、synaptophysinに強陽性、Chromogranin A・Grimeliusは陰性であった。#202リンパ節転移を1つ認めた。以上よりPoorly differentiated adenocarcinoma (solid type) with neuroendocrine differentiation of the colon、Endocrine cell carcinoma of the colon、pType 0IIa+IIc、8×7mm、pSM (2800μm)、medullary type、INF b、ly2、v0、N1 (#202、1/29)、H0、M0、P0、StageIIIaと診断した。

本症例はリンパ節転移を伴う8mmの低分化型SM深部浸潤癌で、内分泌分化傾向を伴うDe novo癌であった。前年度のTCSを見直しても病変を指摘できず、急速に発育した可能性が示唆された。大腸癌術後のsurveillanceのTCSは重要と考えられた。(文責 鳥取市立病院 柴垣広太郎)

〔中部症例〕

提出者：鳥取県立厚生病院 井山 拓治

症例：41歳 女性

主訴：便通異常

現病歴：平成25年11月、大腸がん検診で便潜血陽性となっていたが、精査は行わず。平成26年5月22日便潜血検査陽性。血便等症状があり、精査目的に平成26年6月当院受診された。

既往歴：帝王切開3回 薬剤アレルギーなし。

現症：HR82、BP105/69 腹部は平坦・軟、腹部正中に手術瘢痕あり。

下部消化管内視鏡検査：S状結腸に全周性の2型腫瘍を認める。腸管はやや狭小化しており、易出血性であった。

腹部CT：S状結腸に造影効果を伴う腸管の壁肥厚を認める。近傍のリンパ節腫大を認め、転移を疑う所見があり。また肝左葉に低吸収領域をみとめ、転移が疑われる所見も認めた。

経過：術前診断：S状結腸癌 肝転移 結腸は閉塞しかかっており、先行して大腸切除の方針となった。平成26年6月19日、腹腔鏡補助下S状結腸切除術施行。平成26年7月～ 化学療法 (FOLFOX 4クール施行) 平成26年9月、肝外側区域切除施行予定。

病理診断：tub2、ss、int、INF b、ly 1、v 2、pm (-)、dm (-)、rm (-)、n241、242、251、252、253 (-) [0/12、0/3、0/3、0/5、0/10] 病期：stage IV

〔西部症例〕

提出者：鳥取大学医学部附属病院第二内科 八 島 一 夫

症 例：71歳、男性

主 訴：大腸がん検診にて便潜血（症状なし）

既往歴：特記事項なし

生活歴：飲酒 なし、喫煙 20本×51年

家族歴：癌疾患なし

現病歴：毎年大腸がん検診受けていたが、精検は必要なかった。

平成24年11月大腸がん検診にて便潜血+/+指摘され、当院受診。便通は2日に1回、便はやや硬い。

体重減少なし。

経過、治療：大腸内視鏡施行しS状結腸に3cm大の2型大腸癌と近傍に1cm大IIc病変を認め、外科的切除を行った。

病 理：Type2、36×30mm、adenocarcinoma (tub2)、pMP、int、INFb、ly1、v1、pN0、Stage I Type0-IIc、8mm、Adenocarcinoma in adenoma、pM、ly0、v0

検 討：逐年検診にて、進行癌で発見され救命できた症例である。便潜血（2日法）のスクリーニング感度は一般に約80%であるが、逐年検診の重要性が再認識された。

6. 肝臓がん検診症例研究会

日 時 平成27年2月14日(土) 午後4時～午後6時10分

場 所 倉吉交流プラザ

東・中・西部地区より症例を提示し、症例検討を行った。

〔東部症例〕

提出者：鳥取赤十字病院 満田 朱理

「慢性C型肝炎インターフェロン治療後SVRが得られ、20年後に肝細胞癌が出現した1症例」

鳥取赤十字病院 内科 満田朱理、松木由佳子、菓 裕貴、武田洋平、田中久雄

症 例：78歳、女性

主 訴：特定健診異常

既往歴：特記すべきことなし

生活歴：飲酒なし、喫煙なし

現病歴：1993年頃にHCV陽性を指摘され、インターフェロン（IFN）治療（IFNa 6ヶ月）を受けウイルス学的著効（SVR）となる。その後1年に1回は近医で定期検査を受けていた。平成24年10月、フォロー中の前医より肝脾腫、胃静脈瘤疑より肝硬変が疑われ当科紹介となる。USおよび血液検査では肝硬変を疑わせる所見なし。HCV RNAも再測定し感度以下であった。IFNによりC型肝炎治癒後も肝細胞癌（HCC）の発生に留意が必要であり、半年に1回のUS、血液検査をするように御本人に喚起し、前医にも依頼した。平成25年5月、平成26年4月にUS、血液検査施行し異常認めず。平成26年6月、特定健診にて、PIVKaIIの上昇（68mAU/ml）、肝硬変の上昇、総胆管拡張を指摘され、8月受診となる。受診までの経緯：1993年IFN治療によりSVRとなる。

↑

年1回定期検査を受けている

↓

2012年10月肝硬変が疑われ当科紹介あり。半年に1回の検査を喚起す

2013年5月US・血液検査異常なし

2014年4月US・血液検査異常なし

2014年6月特定健診にてUS肝SOLなし、PIVKA II軽度上昇

2014年8月当科紹介。USにて肝SOL描出。

若桜町特定健診：

測定項目：年齢・性別・体重測定、問診聴取（飲酒・喫煙歴、糖尿病の有無、家族歴、既往症）を実施し、併せて肝酵素（AST・ALT・ γ -GTP）測定、腫瘍マーカー（AFP、PIVKaII、CA19-9、CEA、SPAN-1、DUPAN-2）測定、腹部エコーを実施する。

診断時検査所見：WBC 6500/ μ l、Hb 14.7g/dl、Plt 14.8万/ μ l、T. bil 0.7mg/dl、D. bil 0.2mg/dl、AST 25IU/l、ALT 17IU/l、LDH 247IU/l、ALP 328IU/l、 γ -GTP 20IU/l、TP 7.5g/dl、Alb 4.3g/dl、ChE 172IU/l、T. Chol 172mg/dl、FBS 98mg/dl、PT 92%、ICG-R15 8%、HBsAg（-）、HCVAb（+）、HCV RNA 検出せず、AFP 1ng/ml、PIVKA II 124mAU/ml、HA 52.8ng/ml、P-III-P 0.5U/ml

画像検査：

腹部超音波検査（特定健診時）：肝腫瘍の指摘なく、超音波写真の見直しでも描出されていない。

腹部超音波検査（当科初診時）：肝S3にhumpする3cm大の高エコーSOLを認めた。

ダイナミックCT：肝S3に早期濃染を伴い、wash outを認める3cmの腫瘤あり、HCCと診断。

経過：9月に肝部分切除施行した。経過順調であり、現在に至るまで再発はなし。

考察：慢性C型肝炎治療後、やや頻度は少ないが年1回のフォロー中、HCCが出現していても前医および特定健診のUSで描出されておらず、3cm大のHCCを見逃していたことになる。検診の精度管理をどうするかが一つ問題である。施設により超音波装置の新旧に差があることは事実であり、必要に応じ、時にダイナミックCTを行うことはより早期にHCCを発見することに寄与すると考える。また、慢性C型肝炎においてIFN治療後SVRが得られてもHCCの発生の可能性はあり、継続して定期検査を行っていくことは重要である。AFP正常のHCCも少なからずあり、AFPのみならずPIVKA IIの測定を欠かさないことが必要である。

結語：慢性C型肝炎インターフェロン治療後SVRが得られ、20年後に肝細胞癌が出現した1症例を報告した。

〔中部症例〕

提出者：鳥取県立厚生病院 永原天和

鳥取県立厚生病院 消化器内科

○永原天和、木下英人、井山拓治、林 暁洋、野口直哉、佐藤 徹

症例：61歳、男性

主訴：肝機能障害、肝腫瘍。

現病歴：平成22年に人間ドックで肝障害やHCV抗体陽性を指摘されていたが放置。

平成26年1月 人間ドックで再度肝障害を指摘され、精査を受けたところ肝腫瘍を指摘された。C型肝炎硬変、HCC（門脈腫瘍栓あり）の診断に至り、当院へ紹介となった。

既往歴：53歳 右肺肺化膿症。輸血歴なし。

生活歴：飲酒 5合/日であったが、今回のことを契機に禁酒、喫煙 40本/日×35年以上、畜産業に従事している。

身体所見：身長172cm、体重66kg、血圧146/82mmHg、脈拍84/分。

結膜：黄疸なし、貧血なし。

頸部：リンパ節触知しない。

胸部：聴診上異常なし。

腹部：平坦、軟、肝臓は触れない、圧痛なし。

右下腿に下肢静脈瘤とうっ滞性皮膚炎あり。

検査所見：WBC 2550/ μ L、RBC 392 $\times 10^4$ / μ L、Hgb 12.7g/dL、Hct 37.2%、Plt5.0 $\times 10^4$ / μ L、PT% 55.9%、TP 7.98g/dL、Alb 3.26g/dL、T. Bil 1.74mg/dL、AST 146IU/L、ALT 77IU/L、ALP 456IU/L、 γ -GTP 598IU/L、LDH 406IU/L、BS 127mg/dL、NH₃ 47 μ g/dL、CRP 0.02mg/dL、ChE 108 IU/L、TG 152mg/dL、LDL-C 46mg/dL、HDL-C 46mg/dL、Na 135mEq/L、K 4.1mEq/L、Cl 101mEq/L、Ca 7.9mg/dL、BUN 11.2mg/dL、Cr 0.69mg/dL、HBs抗原（-）、HCV抗体（+）、HCV-RNA 6.4LogIU/ml、HCV-group1、AFP 4.9ng/ml、PIVKA-II 53mAU/ml、CA19-9 9.5ng/ml、ICG-15R 24.4%、ICG-K 0.087、P-3-P 1.3U/mL、Type4-collagen 18.5ng/mL、HA 614ng/mL

HCV薬剤耐性遺伝子変異検査：NS3/4A領域：耐性変異なし、NS5A領域：耐性変異なし。

腹部超音波検査：前医人間ドック肝S4に25mm大の腫瘤性病変を指摘された。

ダイナミックCT：単純CTでは腫瘍は不明瞭であるが、動脈相では淡く濃染され、平衡相でwash-outされる腫瘍を認める。門脈右前区域枝～左枝に造影不良域あり、門脈腫瘍栓が疑われる。

診断：#1 肝細胞癌、門脈腫瘍栓 StageⅢ

#2 C型肝硬変、Child-Pugh 7点、肝障害度B、HCVセログループ1型、高ウイルス量

経過：肝予備能低下と門脈腫瘍栓あり手術や局所療法（TACE、RFA）は適応外と判断し、ワンショット肝動注化学療法を選択した。計6回の動注治療を終えた時点で、画像上は腫瘍縮小し、内部の濃染性は消失していた。PIVKA-IIも正常範囲に低下しており、動注によってCRに至っていると判定した。そこで、抗ウイルス療法について検討したところ、HCC判明後に禁酒されたこともあり肝予備能は維持できており、代償性肝硬変としてIFNフリー療法、アスナプレビル/ダクラタスビル（ASV/DCV）併用療法の適応と判断した。またHCV薬剤耐性遺伝子変異検査を行って、NS3/4A領域、NS5A領域ともに耐性変異のないことを確認し、ASV/DCV併用療法を開始した。

考察：過去の間人ドックにてHCV抗体陽性は判明していたが、医療機関への受診をされなかった症例である。受診しなかった理由は、特に自覚症状もなく、仕事も忙しいということであった。間人ドックの総合的な結果説明の際に、肝臓精密検査の重要性を説明されていると思われるが、受検者自身があまり深刻に捉えられていないケースと思われた。このように、肝炎ウイルス陽性を知りながら、精検受診できていない症例については、個別に受診勧奨していくことも必要であると考えた。特に近年の抗HCV療法の進歩はめざましく、早期に抗ウイルス療法を受ける機会が得られれば、肝硬変、肝癌への進展を阻止できるものと思われ、全てのHCV陽性者が受診し、適切な時期に適切な治療を受けることができるよう取り組みを継続していくことが重要である。

〔西部症例〕

提出者：山陰労災病院 西 向 栄 治

「HBs抗原抗体陰性の透析HBVキャリアに発症した肝臓癌の1例」

山陰労災病院 消化器内科 ○西向荣治、岸本幸廣、前田直人、山下太郎、角田宏明、向山智之、神戸貴雅、謝花典子、川崎寛中

【はじめに】

近年血中HBVDNAが測定できるようになりHBs抗原を分泌しないタイプのB型肝炎症例を経験する機会がふえてきた。

今回HBs抗原抗体陰性潜在性HBVキャリアに発症した肝癌の1例を経験したので報告する。

症 例：77歳透析通院中の男性、PIVKAII軽度高値の精査

既往歴：26年前に糖尿病、6年前に脳血栓症。

3年前に糖尿病腎症による腎不全のため透析導入され外来透析中。

現病歴：平26年4月近医透析施設で半年毎のHBc抗体検査で高力価陽性を発見されHBs抗原抗体陰性、血中HBVDNA陽性のHBVキャリアと診断された。以後腫瘍マーカーとUSのフォローが始められ半年後の定期採血でPIVKAII軽度上昇を指摘され紹介となった。

家族歴なし、喫煙家（65歳まで20本/日）飲酒家（以前日本酒2合/日）

現 症：意識清明、黄疸なし、腹水なし。

検 査：WBC5200、Hb11.0l、Plt12.4万、PT97%、AST13、ALT13、rGTP43、TBil0.4、Alb4.3、ZTT9.9、TTT2.4、AFP23、PIVKA-II39、HBs抗原陰性0.1、HBs抗体陰性4.8、HBc抗体陽性118.8、血中HBVDNA検出せず、HBVゲノタイプ判定保留、HCV抗体陰性

U S：肝右葉S8/6にΦ2.6cmのSOLを指摘。内部nodule in nodule pattern

造影CT：動脈相で濃染する肝S8Φ27mm肝細胞癌と診断された。

考 察：血液透析患者の潜在性HBV感染の有病率は0.3%という報告されている。本例は26年前にHBs抗原陽性（12.7）であったと判明した。今回、透析施設独自の半年毎のHBc抗体検査によりHBs抗原抗体陰性の潜在性HBVキャリア発見し、その発癌を経験した。

まとめ：高齢者・透析患者などではHBs抗原抗体陰性キャリアが存在する。HBc抗体の定期的な測定する習慣付けは、潜在性HBVキャリアを発見するチャンスをつくり、肝癌の早期発見につなげられる。

7. 各地区がん検診症例検討会開催状況

事業名	東 部			中 部			西 部			合 計		
	回数	症例数	参加者 延べ数	回数	症例数	参加者 延べ数	回数	症例数	参加者 延べ数	回数	症例数	参加者 延べ数
胃 がん	13	19	327	6	20	149	26	4,497	621	45	4,536	1,097
子宮がん	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
肺 がん	4	11	55	12	117	151	7	22	67	23	150	273
乳 がん	2	24	56	1	4	33	1	4	35	4	32	124
大腸がん	7	10	280	4	5	81	23	89	578	34	104	939
肝臓がん	4	10	195	5	10	78	7	14	169	16	34	442
合 計	30回			28回			64回			122回		

Ⅳ. 各がん検診精密検査医療機関登録について

鳥取県健康対策協議会においては、市町村が実施する各種がん検診の精度管理、向上のため、登録基準を設け、各がん検診精密検査医療機関の登録を行っております。登録基準については、平成10年度鳥取県成人病検診管理指導協議会総合部会及び各がん部会並びに鳥取県健康対策協議会各がん対策専門委員会において、統一基準が決定し、これに基づき、各がん検診精密検査医療機関登録実施要綱等が設定され、平成11年度以降の登録更新から適用することとしております。

なお、登録手続きは従来と同様に、地区医師会経由で申請を受け付けます。ご不明の点がありましたら、鳥取県健康対策協議会事務局（☎0857-27-5566）へお問い合わせ下されれば幸いです。

申請の届出書は「鳥取県健康対策協議会ホームページ」からダウンロードできます。

記

1. 改正の要点

- ① 平成11年度以降の登録更新から従事者講習会等の出席状況を点数化し、点数基準を満たしたもののについてのみ登録する。
- ② 登録基準点数は原則として、従事者講習会は5点、各地区症例検討会等、各ブロック学会等は3点とする。
- ③ 点数の取得は担当医師ごととし、申請書の様式は、出席状況が確認できるよう改正を行う。
- ④ 新規開業、県外転入等の場合についても同様に取り扱う。
- ⑤ 担当医師が非常勤の場合は登録を認めない。

2. 次回の更新時期

次回の更新時期

◎一次検診登録

名 称	現在の登録期間	次回更新手続き時期	従事者講習会等 受講点数対象期間
子宮がん検診実施（一次検診）医療機関	H27. 4. 1～H28. 3. 31	H27年度中	
肺がん一次検診医療機関	H26. 4. 1～H29. 3. 31	H28年度中	
乳がん一次検診医	H27. 4. 1～H30. 3. 31	H29年度中	H27. 4. 1～H30. 3. 31
乳がん検診一次検査（乳房X線撮影）医療機関	H26. 4. 1～H29. 3. 31	H28年度中	

◎精密検査登録

名 称	現在の登録期間	次回更新手続き時期	従事者講習会等 受講点数対象期間
胃がん検診精密検査	H27. 4. 1～H30. 3. 31	H29年度中	H27. 4. 1～H30. 3. 31
子宮がん検診精密検査	H27. 4. 1～H30. 3. 31	H29年度中	H27. 4. 1～H30. 3. 31
肺がん検診精密検査	H26. 4. 1～H29. 3. 31	H28年度中	H26. 4. 1～H29. 3. 31
乳がん検診精密検査	H26. 4. 1～H29. 3. 31	H28年度中	H26. 4. 1～H29. 3. 31
大腸がん検診精密検査	H26. 4. 1～H29. 3. 31	H28年度中	H26. 4. 1～H29. 3. 31
肝臓がん検診精密検査	H25. 4. 1～H28. 3. 31	H27年度中	H25. 4. 1～H28. 3. 31

※大腸がん検診注腸X線検査医療機関は、平成25年3月31日をもって廃止となりました。

鳥取県胃がん検診精密検査医療機関登録基準

- 1 精密検査として、内視鏡検査が実施できること。
- 2 生検組織の採取が可能な胃内視鏡検査装置を有し、かつ内視鏡検査に習熟した医師が対応できること。
- 3 食道、胃内視鏡検査の臨床例が年間50例以上あること。
- 4 精密検査の結果判明後は、胃精密検査紹介状の所定記載事項に結果を記入し、速やかに返送すること。
- 5 発見胃がんに関して部会等が実施する事後調査、確定調査等に積極的に協力すること。また、がん登録についても同様であること。
- 6 胃がん検診読影委員会が主催する症例検討会に出席すること。
- 7 担当医が、胃がん検診従事者講習会を過去3年間に1度は受講していること。
- 8 担当医が、胃がん検診従事者講習会等の受講点数を過去3年間に15点以上取得していること。
- 9 関連の各種学会等への参加を通じて、常に胃がん検診に関する学術的情報や知見を得ることが望ましい。

(別記) 対象となる講習会等

講習会等の区分	開催頻度	点数
胃がん検診従事者講習会	全県 1回/年	5点
胃がん検診症例研究会	東部 6回/年 西部 2回/年	3点
消化器がん検診症例検討会	中部 6回/年	3点
胃疾患研究会	東部 11回/年	3点
鳥取消化器疾患研究会	東部 2回/年	3点
胃がん内視鏡検診講習会	東部 1回/年	3点
消化器病研究会	中部 6回/年	3点
山陰消化器研究会	全県 6回/年	3点
消化管研究会	西部 22回/年	3点
境港市胃及び大腸がん検診反省会・症例検討会	西部 1回/年	3点
消化器内視鏡学会（全国学会・地方会）	各 1回/年	3点
消化器病学会（全国学会・地方会）	各 1回/年	3点
消化器集団検診学会（全国学会・地方会）	各 1回/年	3点

鳥取県子宮がん検診精密検査医療機関登録基準

- 1 コルポスコーピーに習熟した医師が対応できること。
- 2 検診事業に関する調査・報告に積極的に協力すること。
- 3 検診の資料及び検診結果は3年以上にわたって整理、保存されること。
- 4 担当医が、日本産科婦人科学会専門医であること及び子宮がん検診従事者講習会及び子宮がん検診症例検討会を過去3年間に2回以上受講していること。ただし、やむを得ず、3年間のうち1回しか受講できなかった場合については、別途追加で開催する講習会に出席すれば登録条件を充たしたこととする。

(別記) 対象となる講習会等

講習会等の区分	開催頻度
子宮がん検診従事者講習会及び子宮がん検診症例検討会	全県 1回/年

鳥取県肺がん検診精密検査医療機関登録基準

- 1 胸部エックス線撮影、CT撮影が可能であること。
- 2 気管支ファイバースコープ検査が施行でき、かつBF下細胞診が可能であること。
- 3 精検のために十分な経験と技術を持った医療担当者が確保されていること。
- 4 精密検査の結果判明後は、紹介状の所定記載事項に結果を記入し、速やかに返送すること。
- 5 発見肺がんに関して部会等が実施する事後調査、確定調査等に積極的に協力すること。また、がん登録についても同様であること。
- 6 精検症例を部会等に提出して討議できること。
- 7 担当医が、肺がん検診従事者講習会を過去3年間に以下に指定する学会及び研究会に参加して、合計20点以上を取得すること。
 - (1) 鳥取県健康対策協議会主催の肺がん検診従事者講習会 10点（過去3年間に1回参加は必須事項）
 - (2) 各地区医師会主催の肺がん検診研究会 2点
 - (3) 日本肺がん学会総会 5点
 - (4) 肺がん検診セミナー 5点
 - (5) 日本肺がん学会中四国地方会 3点
- 8 関連各種学会等への参加を通じて、常に肺がん検診に関する学術的情報や知見を得ることが望ましい。

対象となる講習会等

講習会等の区分	開催頻度	点数
肺がん検診従事者講習会	全県 1回/年	10点
東部地区肺がん検診従事者講習会	東部 1回/年	2点
東部胸部疾患研究会（年5回）	東部 5回/年	2点
胸部疾患研究会（年12回）	中部 12回/年	2点
西部地区肺がん検診胸部X線勉強会	西部 5回/年	2点
日本肺がん学会総会（全国学会・地方会）	—	5点
肺がん検診セミナー（全国学会・地方会）	—	5点
日本肺がん学会中四国地方会（全国学会・地方会）	—	3点

鳥取県乳がん検診精密検査医療機関登録基準

- 1 医療施設内に乳房用エックス線撮影装置（「以下「乳房撮影装置」という。）及び乳房専用超音波検査装置を有すること。
- 2 乳房撮影装置は、日本医学放射線学会の定める仕様基準を満たす（満たさない場合は、線量（3mGy以下）及び画像基準を満たす）撮影装置を備えること。
 なお、上記の基準に合致しなくても、委員長の指名する委員によって審査をした結果、当該検査を実施するに適格な撮影装置であると判定され、委員会で承認された装置であればいい。
- 3 乳房撮影を行う診療放射線技師が1名以上いること。
 なお、日本乳がん検診精度管理中央機構が開催する乳房エックス線検査に関する講習会を修了していることが望ましい。
- 4 同一施設内で乳房造影、細胞診等の乳がん検査が可能であること。
- 5 精密検査結果判明後は、乳がん精密検査紹介状の所定記載事項に結果を記入し、速やかに当該市町村に送付すること。
- 6 発見乳がんに関して健対協が実施する事後調査、確定調査等に積極的に協力すること。また、がん登録についても同様であること。
- 7 担当医は、県、健対協、医師会が主催する乳腺疾患関係の研修会、症例検討会に積極的に参加し、乳がん研究会等各種集会への参加を通じて常に乳がん検診に関する学術的情報の補足に努めることとし、できれば日本乳癌学会の認定医であることが望ましい。
 また、乳がん検診従事者講習会等の受講点数を過去3年間に20点以上取得していること。ただし、「乳がん検診従事者講習会及び鳥取県検診発見乳がん症例検討会」、「各地区症例検討会」、「鳥取県乳腺疾患研究会」以外の学会、研究会については、出席した事が証明できる書類等の写しを添付すること。
- 8 上記の参加条件に不備、不足があった場合には登録更新を認めない。

（別記）対象となる講習会等

講習会等の区分	開催頻度	点数
乳がん検診従事者講習会及び鳥取県検診発見乳がん症例検討会	全県 1回/年	5点
日本乳癌学会	1回/年	5点
日本乳癌検診学会	1回/年	5点
各地区症例検討会	東・中・西部 各1回/年	3点
日本乳癌学会中国四国地方会	1回/年	3点
鳥取県乳腺疾患研究会	1回/年	3点
その他乳癌関連学会、研究会等	—	3点

[附則2]

- 1 責任者の欠員を生じた医療機関は遅滞なく、地区医師会を通じ、健対協に継続の意志の有無を届け出ることとし、適格な責任者がなければ登録資格は喪失するものとする。
- 2 部会等の長は、これらの医療機関に対して、必要に応じて届出機器で撮影した乳房エックス線像の提出を求めることができる。
- 3 超音波診断装置は乳房疾患診断可能な周波数（MHz）の異なる複数のプローブが必要である。
- 4 健対協は、委員会の審議までに委員長の指名する2名の委員に届出機関の視察を依頼し、その結果を委員会での審議の資料とする。

鳥取県乳がん検診一次検査（乳房エックス線撮影）医療機関登録基準

- 1 医療施設内に乳房用エックス線撮影装置（以下「乳房撮影装置」という。）を有すること。
- 2 乳房撮影装置は、日本医学放射線学会の定める仕様基準を満たす（満たさない場合は、線量（3 mGy以下）及び画像基準を満たす）撮影装置を備えること。
なお、上記の基準に合致しなくても、委員長の指名する委員によって審査をした結果、当該検査を実施するに適切な撮影装置であると判定され、委員会で承認された装置であればいい。
- 3 乳房撮影を行う診療放射線技師が1名以上いること。
なお、日本乳がん検診精度管理中央機構が開催する乳房エックス線検査に関する講習会を修了していることが望ましい。
- 4 上記の参加条件に不備、不足があった場合には登録更新を認めない。

鳥取県大腸がん検診精密検査医療機関登録基準

- 1 全大腸内視鏡検査が実施できること。なお、精密検査を全大腸内視鏡検査で行うことが困難な場合においては、S状結腸内視鏡検査と注腸エックス線検査（二重造影法）の併用による精密検査を実施できることが望ましい。
- 2 生検組織の採取が可能な内視鏡検査装置を有し、かつ内視鏡検査に習熟した医師が対応できること。
- 3 内視鏡検査の臨床例が年間30例以上あること。
- 4 注腸エックス線検査を実施する場合には、次の基準にあうエックス線装置を有すること。
 - (1) 透視台の起倒が可能で、透視下の圧迫が可能であること。
 - (2) エックス線管は小焦点であること。（小焦点は0.3mm、大焦点は1mm以下であることが望ましい）。
 - (3) エックス線管球は短時間定格が充分大きく、撮影時の露出時間は0.05秒以下であることが望ましい。
- 5 注腸エックス線写真は各地区医師会に設置した注腸エックス線写真合同読影委員会で合同判読すること。
- 6 精密検査のために十分な経験と技術を持った医療担当者が確保されていること。
- 7 精密検査の結果判明後は、大腸精密検査紹介状の所定記載事項に結果を記入し、速やかに返送すること。
- 8 発見大腸がんに関して部会等が実施する事後調査、確定調査等に積極的に協力すること。また、がん登録についても同様であること。
- 9 精検症例を部会等に提出して討議できること。
- 10 担当医が、大腸がん検診従事者講習会等の受講点数を過去3年間に15点以上取得していること。ただし、大腸がん検診従事者講習会に1回必ず出席していること。
- 11 関連の各種学会等への参加を通じて、常に大腸がん検診に関する学術的情報や知見を得ることが望ましい。

（別記）対象となる講習会等

講習会等の区分	開催頻度	点数
大腸がん検診従事者講習会	全県 1回/年	5点
消化器疾患研究会	東部 2回/年	2点
胃がん検診症例検討会	東部 6回/年	2点
胃疾患研究会	東部 11回/年	1点
消化器病研究会	中部 6回/年	2点
消化器がん検診症例検討会	中部 6回/年	2点
消化管研究会	西部 22回/年	1点
境港市胃及び大腸がん検診反省会・症例検討会	西部 1回/年	2点
山陰消化器研究会	全県 6回/年	2点
消化器内視鏡学会（全国学会・地方会）	各 1回/年	2点
消化器病学会（全国学会・地方会）	各 1回/年	2点
消化器集団検診学会（全国学会・地方会）	各 1回/年	2点

鳥取県肝臓がん検診精密検査医療機関登録基準

- 1 検診事業に関する調査・報告に積極的に協力すること。
- 2 検診の資料及び結果は3年以上保存されること。
- 3 精密検査として、血小板検査、超音波検査、アルファフェトプロテイン(AFP)検査、HCV-RNA検査及びPIVKA II検査が実施できること。
- 4 次の基準にあう超音波検査機器を有し、かつ超音波検査に習熟した医師が対応できること。
 - (1) 走査方式は電子コンベックス方式が可能であること。
 - (2) 2系統以上の距離計測機能を有していること。
 - (3) ポラロイド撮影装置、プリンターマルチフォーマットカメラ、電子媒体のいずれかの画像記録装置を有していること。
 - (4) 観察用モニターは、12インチ以上であること。(携帯型超音波装置は除く。)

※一部携帯型で高機能の装置が出ているため、希望があれば装置を確認し、十分な画像があれば承認するものとする。
- 5 腹部超音波検査の臨床例が年間200例以上あること。
- 6 担当医が、肝臓がん検診従事者講習会等の受講点数を、過去3年間に10点以上取得していること。
ただし、肝臓がん検診従事者講習会及び症例検討会に各1回必ず出席していること。

(別記) 対象となる講習会等

講習会等の区分	開催頻度	点数
肝臓がん検診従事者講習会及び症例検討会	全県 1回/年	5点
山陰肝・胆・膵研究会	全県 1回/年	2点
消化器疾患研究会	東部 2回/年	2点
東部地区腹部超音波研究会	東部 4回/年	2点
腹部画像診断研究会	中部 6回/年	2点
中部肝疾患セミナー	中部 2回/年	2点
肝・胆・膵研究会	西部 6回/年	2点
消化器超音波研究会	西部 4回/年	2点
西部腹部超音波研究会	西部 2回/年	2点
肝がん撲滅運動講演会	全県 1回/年	3点
山陰肝臓治療研究会	全県 1回/年	3点

(鳥根県開催も対象)

(注) 上記以外の講習会等については、評価委員会及び専門委員会においてその都度協議することとする。

鳥取県乳がん医療機関検診一次検診医登録基準

- 1 登録資格は医師とし、専攻科は問わない。
- 2 乳がん検診従事者講習会等の受講点数を過去3年間に12点以上取得していること。ただし、乳がん検診従事者講習会及び鳥取県検診発見がん症例検討会には、必ず1回は出席していること。
- 3 新規登録の場合は、原則として健対協の主催する一次検診医講習会を受講すること。なお、この講習会は、乳がん及び乳がん検診についての一般的知識、特に視診及び触診に重点をおいた診断法、触診の実技の習得を目的とし、乳がん検診従事者講習会及び鳥取県検診発見乳がん症例検討会に引き続いて年1回開催するものである。
- 4 上記2、3にかかわらず、次に該当する場合は、登録できものとする。
 - (1) 日本乳癌学会認定の専門医、認定医
 - (2) 日本乳癌学会又は日本乳癌検診学会の役員

(別記) 対象となる講習会等

講習会等の区分	開催頻度	点数
乳がん検診従事者講習会及び鳥取県検診発見乳がん症例検討会	全県 1回/年	5点
日本乳癌学会	1回/年	5点
日本乳癌検診学会	1回/年	5点
各地区症例検討会	東・中・西部 各1回/年	3点
日本乳癌学会中国四国地方会	1回/年	3点
鳥取県乳腺疾患研究会	1回/年	3点
その他乳癌関連学会、研究会等	—	3点

あ と が き

鳥取県生活習慣病検診等管理指導協議会では、各部会で検討を重ね、集団検診ばかりではなく施設検診の精度管理を行ってまいりました。“はじめに”でもふれていただいたように、「がん検診実施のための指針」の改正を控えており、今後の動向を踏まえ一層の精度管理に努めてまいります。

鳥取県で実施している各種がん検診の実績を全て公表し、精度管理について評価、批判を戴くための報告書第21報です。

この報告書は単年度のがん検診の詳細な全体像も一覽いただけるものと考えます。この点においても参考にして戴ければ幸いです。

ただ、がん検診実績は追跡調査、予後調査まで含まれているため、前年度の実績内容となっておりますので、ご承知下さい。

編集にあたり、各部会長、各専門委員長の先生方には多々ご助言を戴きました。厚く御礼申し上げます。発刊に際し、県医師会事務局の岩垣陽子さん、田中貴裕さんには何時もの様に強力なお手伝いを戴きました。

皆様に心から御礼申し上げます。

鳥取県健康対策協議会

理 事 岡 田 克 夫